

令和 7 年度 本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

当法人は、令和 7 年度の運営スローガンとして『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』を掲げ、本部として法人全体の生産性向上と人材育成、地域貢献の各取り組みを推進してまいりました。

本年度は、生産性向上連携加算の取得を目指し、介護ロボットの導入および介護ソフトの切り替えを随時行いました。これにより介護現場の効率性を高め、利用者へのサービス向上を図るとともに、取得可能な加算についても積極的に取り組んでまいりました。

今年度は、ケアカルテシステム及び眠りスキャンをはじめとする介護テクノロジー機器の導入を法人全体で実施し、その支払合計金額は 127,704 千円となりました。この費用に対し、兵庫県の介護テクノロジー導入支援事業の補助金として総額 68,592 千円（魚崎 26,530 千円、西庄 20,299 千円、御立西 2,248 千円、土山 14,284 千円、田寺 2,573 千円、安室 2,658 千円）の交付を受け、有効に活用いたしました。神戸事業所においては、Wi-Fi の全部署設置、特養・短期入所・グループホーム・介護型ケアハウスへの眠りスキャンの配置、見守りカメラ・インカムの導入、iPhone スマートフォンの全部署日勤者分配置、パソコンの Windows11 への全部署更新を実施し、姫路事業所においてもケアカルテ及び眠りスキャンの導入を進めました。これにより記録作業の高速化と業務時間の短縮を実現し、生産性向上連携加算の取得に向けた基盤整備を進めることができました。

研修の強化も重要な課題と位置づけており、昨年度と同様に毎月研修を実施し、常勤・非常勤職員全員が参加できる体制を構築しました。特に虐待防止研修に力を入れ、労務士の先生からはパワハラ・セクハラ防止研修も行いました。さらに、兵庫県立大学大学院特任教授の藤本先生からはマーケティングの研修を、『コカ・コーラを日本一売った男の学びの営業日誌』の山岡先生からは営業の研修を、1 年間にわたり月 1 回実施しました。これらを通じて、職員のスキル向上と組織全体の強化を図りました。

今年度は、特定技能生の受け入れを 17 名（御立 6 名、特養魚崎 1 名、ケアハウス魚崎 2 名、土山 2 名、西庄 3 名、西庄グループホーム 2 名、ひろみね 1 名）実現することができました。海外で学習中の候補生についても、引き続き受け入れを予定しており、入国後にはメンタルケアや生活支援を提供しています。さらに、日本語学習や介護福祉士資格取得を支援し、スムーズに業務に適応できるようサポートしてまいりました。

これらの取り組みを通じて、ささゆり会は地域社会への貢献を深め、利用者とそのご家族へ質の高いサービスを提供していくことを目指します。全ての職員が一丸となり、課題に取り組み、改善実行を進めてまいります。

令和7年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記3つの重点項目である。

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・ 特定技能生の受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ 業務の無駄を可視化し業務改善
 - ・ 施設のDX化
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・ 幹部職員の育成研修
 - ・ 特定技能生の採用と育成
 - ・ 虐待防止対策の推進

以下、令和7年度の事業報告を、主要な運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議に大別して、その概要を報告する。

1.主要運営の経緯

- I. 定款の変更と諸規程の改訂
 - R7.6.11 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について
 - R7.6.26 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改訂について
 - R7.10.20 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について
 - R7.12.12 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について
 - R8.3.11 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について

2.施設経営と介護サービス

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・ 特定技能生の受け入れと段階的な育成システムの構築
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ ケアカルテシステムを導入し、端末所持による記録入力の効率化
 - ・ ICT機器の活用による業務効率化とサービス向上
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・ 心理面のサポートや業務効率化による職員の負担軽減
 - ・ 虐待防止対策

IV. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受 入 先	人数
姫路市医師会看護専門学校	15
兵庫徳誠会歯科衛生士学校	16
姫路福祉専門学校	10
神戸学院大学	4
龍野北高等学校	13
兵庫県立大学（厨房）	4
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	2
関西福祉大学	3
総合リハビリテーションセンター	1
安室中学校（トライやるウィーク）	2
広嶺中学校（トライやるウィーク）	5
増位中学校（トライやるウィーク）	2
合計	77

魚崎事業所

受 入 先	人数
豊岡短期大学	1
兵庫県立総合衛生学院	2
魚崎中学校（トライやるウィーク）	2
合計	5

ふれあい子供食堂（リストランテ・ヴォーノ西庄）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子供参加人数	21	5	12	10	-	8	6	6	10	8	11	9	106

※8月は夏休みのため中止、12月はテイクアウトにて開催。

V. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

デイサービス田寺	赤松 和美
デイサービス御立西	内海 良枝
サンライフ土山	ゾー ミョー トウ
サンライフ土山	マリサ カルティカ プトリ
サンライフ土山	中田 恋叶
グループホーム西庄	ミヤッ カラヤー シュエ
ケアハウス魚崎	グエン ティ バン アイン
ケアハウス魚崎	ププト アンジャルワティ
合計	8名（内外国人 5名）

・ケアマネージャー

サンライフひろみね	中田 萌
ケアハウス魚崎	西谷 奏子
合計	2 名

3.幹事会、理事会、評議員会

定款の変更、諸規程の改訂、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

I. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第 1 回監事会	令和 6 年度事業報告・決算などの監査	R7.6.3	御立 2F 会議室
第 1 回理事会	第 1 号議案 令和 6 年度事業報告承認について 令和 6 年度会計決算承認について 令和 6 年度監査報告について 第 2 号議案 社会福祉充実残額、社会福祉充実計画について 第 3 号議案 新理事・監事の推薦について 第 4 号議案 定時評議員会の開催日時、場所及び上程議案について 第 5 号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について 第 6 号議案 資産運用について	R7.6.11	御立 2F 会議室
定時評議員会	第 1 号議案 社会福祉充実残額、社会福祉充実計画の承認について 第 2 号議案 新役員の選任について 報告事項 令和 6 年度事業報告について 令和 6 年度会計決算報告について 令和 6 年度監査報告について	R7.6.26	御立 2F 会議室
第 2 回理事会	第 1 号議案 理事長、業務執行理事の選定について 第 2 号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第 3 号議案 次期評議員候補者の評議員選任・解任委員会への推薦について 第 4 号議案 評議員選任・解任委員会の開催日時、場所、議題等について 第 5 号議案 資産運用委員の選任について 第 6 号議案 会計監査人の報酬額について 第 7 号議案 雇用慣行賠償責任保険の（更新）加入について 第 8 号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改訂について	R7.6.26	御立 2F 会議室

第3回理事会 (書面決議)	第1号議案 管理者の変更について 第2号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について	R7.10.20	
第4回理事会 (書面決議)	第1号議案 資産運用 (SPDR ゴールド売却) について	R7.10.27	
第5回理事会 (書面決議)	第1号議案 バンガード VOO (アメリカ株 S&P500) 売却について	R7.11.22	
第2回監事会	上半期事業推進状況の監査	R7.12.2	御立 2F 会議室
第6回理事会	第1号議案 令和7年度上半期事業報告について 令和7年度上半期会計決算報告について 令和7年度上半期監事監査報告について 第2号議案 令和7年度第1次補正予算(案)承認について 第3号議案 資産運用について 第4号議案 借入金について 第5号議案 第1回臨時評議員会の開催日時、場所、議題等について 第6号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について	R7.12.12	魚崎 会議室
第1回臨時評議員会	第1号議案 令和7年度第1次補正予算(案)承認について 報告事項 令和7年度上半期事業報告について 令和7年度上半期会計決算報告について 令和7年度上半期監事監査報告について	R7.12.23	御立 2F 会議室
第7回理事会 (書面決議)	第1号議案 管理者の変更について	R8.1.31	
第8回理事会	第1号議案 令和7年度法人・拠点区分会計第2次補正予算案承認について 第2号議案 令和8年度事業計画案・会計予算案承認について 第3号議案 第2回臨時評議員会の開催日時、場所及び上程議案について 第4号議案 サービス付き高齢者向け住宅等の譲受に関する検討の件について 第5号議案 借入金について 第6号議案 資産運用について 第7号議案 管理者の変更について 第8号議案 理事の補充、理事候補者の選定について 第9号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について 第10号議案 役員賠償責任保険の更新について	R8.3.11	御立 2F 会議室

第2回臨時評議員会	第1号議案	令和7年度法人・拠点区分会計第2次補正 予算承認について	R8.3.27	御立2F 会議室
	第2号議案	令和8年度事業計画案・会計予算案承認に ついて		
	第3号議案	理事の選任について		
	第4号議案	サービス付き高齢者向け住宅等の譲受に関 する検討の件について		

II. 介護保険推進委員会

会 議 名	内 容	期日	場所
第1回介護保険推 進委員会	令和7年度上半期事業推進状況報告と課題検討	中止	
第2回介護保険推 進委員会	令和8年度事業計画の策定案について	R7.11.12	魚崎

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和7年度 事業報告書

今年度は、昨年度に引き続き「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を経営スローガンに掲げ、全員で日々の業務改善、生産性向上、および業務の標準化に努めた。特に、質の高いサービス提供に向けたガバナンスの強化とコンプライアンスの遵守を目的に、全介護・看護職員への研修を徹底し、意識改革を促した。

具体的には、身体拘束・高齢者虐待防止、およびハラスメントに関する研修に注力し、法定研修に加えて社会保険労務士や弁護士などの外部講師、さらには理事長による研修を実施して法人内の意識統一を図った。また、全職員が確実に受講できるよう研修の録画配信や、実践力を高める事例検討研修の複数回開催など、受講環境への配慮と職員育成を積極的に進めた。

ケアの質向上においては、9月に全入所者のマットレスを体圧分散性能に優れたモルテン社製の製品に刷新し、褥瘡予防対策を更に強化した。また、ベッドセンサーやカメラ等の活用による見守り強化が実を結び、総事故件数は前年度の193件から今年度は133件へと大幅に減少した。今後は防ぎきれないリスクに対しても排除・軽減を徹底し、さらなる事故防止に努める。なお、3月に発生したノロウイルスについては、迅速な感染対策により施設内での蔓延を阻止できた。今後も状況の変化に応じ、対策を適宜改定しながら徹底していく。

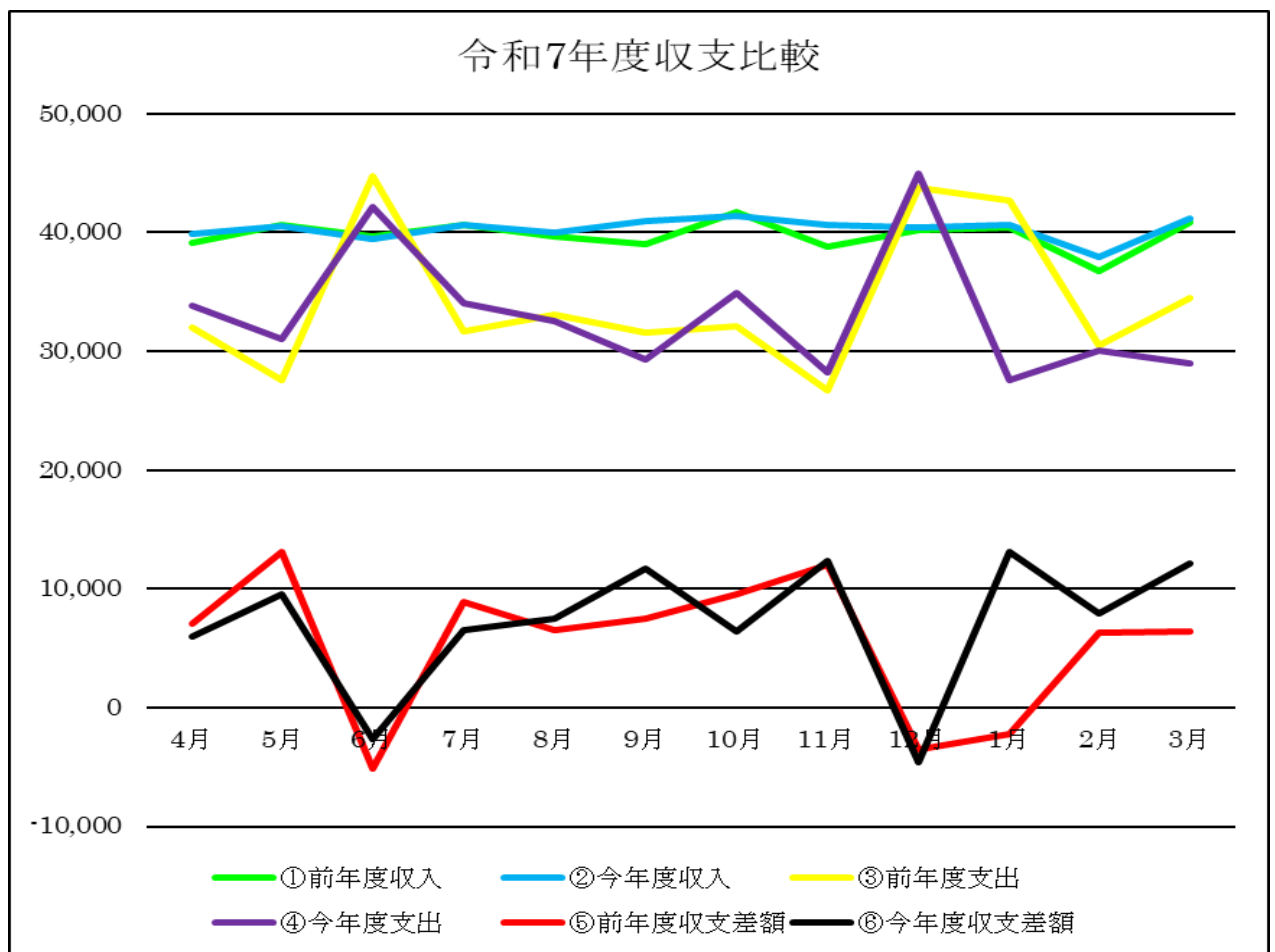
業務面では、対人援助の基本である「人物理解・個別化」を再徹底し、PDCAサイクルを用いた業務の標準化と生産性向上を図った。昨年度導入したケアカルテにより、記録時間の短縮とペーパーレス化が進み、間接援助業務は効率化された。しかし、退職者と休職者の発生時期が重なったことによる人員不足が現在も続いており、効率化で生み出した時間を直接援助業務（利用者本位の介護）に充てるという本来の目標にまで至らず、日々の業務対応に追われているのが現状の課題である。

収入面においては、入院・退所者が少なかったことから、平均ベッド稼働率は98.07%（目標98%）と目標を達成した。今後もショートステイ利用者からの計画的な移行や、ショート相談員・医務との情報共有体制の強化により、安定した稼働率を維持していく。また、入所率の安定と加算の確実な取得により、介護報酬収入が前年度比で約619万円の増収となった。支出面では、人件費や物価・水光熱費の高騰があったものの、昨年度比96.77%に抑えた結果、収支差額は前年比9.24%となった。今後は、将来的な人件費確保のためにも、適正人員でのサービス提供を可能にする介護技術向上研修を実施し、さらなる業務の効率化・標準化に努めていく。

1. 年間収支比較

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
前年度収入	39,090	40,650	39,671	40,683	39,624	39,060	238,778	—
今年度収入	39,864	40,566	39,485	40,629	40,034	40,992	241,570	101.17%
前年度支出	31,983	27,552	44,763	31,739	33,100	31,589	200,726	—
今年度支出	33,881	31,036	42,155	34,051	32,540	29,280	202,943	101.10%
前年度収支差額	7,107	13,098	-5,092	8,944	6,524	7,471	38,052	—
今年度収支差額	5,983	9,530	-2,670	6,578	7,494	11,712	38,627	101.51%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
前年度収入	41,685	38,789	40,223	40,482	36,778	40,891	477,626	—
今年度収入	41,389	40,647	40,390	40,668	37,938	41,216	483,818	101.30%
前年度支出	32,141	26,734	43,779	42,709	30,492	34,439	411,020	—
今年度支出	34,928	28,281	44,967	27,582	30,016	29,017	397,734	96.77%
前年度収支差額	9,544	12,055	-3,556	-2,227	6,286	6,452	66,606	—
今年度収支差額	6,461	12,366	-4,577	13,086	7,922	12,199	86,084	129.24%



2. 利用者
数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R6年度実績	2,955	3,043	2,948	3,012	2,931	2,895	17,784
R7年度実績	2,939	2,974	2,922	3,044	3,027	2,978	17,884
前年度比	-16	-69	-26	32	96	83	100
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度実績	3,035	2,854	2,975	2,955	2,690	3,031	35,324
R7年度実績	3,099	2,984	2,947	3,004	2,796	3,073	35,787
前年度比	64	130	-28	49	106	42	463

3. 稼働率
(単位：％)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R6年度実績	98.81%	98.16%	98.27%	97.16%	94.55%	96.50%	97.24%
R7年度実績	97.97%	95.94%	97.40%	98.19%	97.65%	99.27%	97.74%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度実績	97.90%	95.13%	95.96%	95.32%	96.07%	97.77%	96.80%
R7年度実績	99.97%	99.47%	95.06%	96.90%	99.86%	99.13%	98.07%

4. 入院日数
(単位：日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和6年度	88	68	127	79	198	4	564
令和7年度	78	120	80	62	78	25	443
前年度差	-10	52	-47	-17	-120	21	-121
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度	61	142	133	139	115	102	1256
令和7年度	19	49	173	102	0	23	809
前年度差	-42	-93	40	-37	-115	-79	-447

5. 特養空床数

(単位：床)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
令和 6 年度	54	52	49	86	138	110	489
令和 7 年度	71	115	73	54	73	21	407
前年度差	17	63	24	-32	-65	-89	-82
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	59	137	127	132	107	95	1146
令和 7 年度	15	43	162	98	0	15	740
前年度差	-44	-94	35	-34	-107	-80	-406

6. 事故分類別発生数

(単位：件)

	A	B	C	合計
合計	3	3	127	133

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

A ランク内容：左大腿骨顆上骨折、右上腕骨骨折、窒息後の誤嚥性肺炎・・・各 1 件

B ランク内容：バルーン抜去、骨折疑い、左額裂傷・・・各 1 件

7. 退所者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
看取り介護	2	4			1		7
病院			2	1		1	4
急死							0
その他			2	1			3
合計	2	4	4	2	1	1	14
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
看取り介護		1	1		3	2	14
病院			3	2			9
急死							0
その他				1			4
合計	0	1	4	3	3	2	27

サンライフ御立 ショートステイ

令和7年度 事業報告書

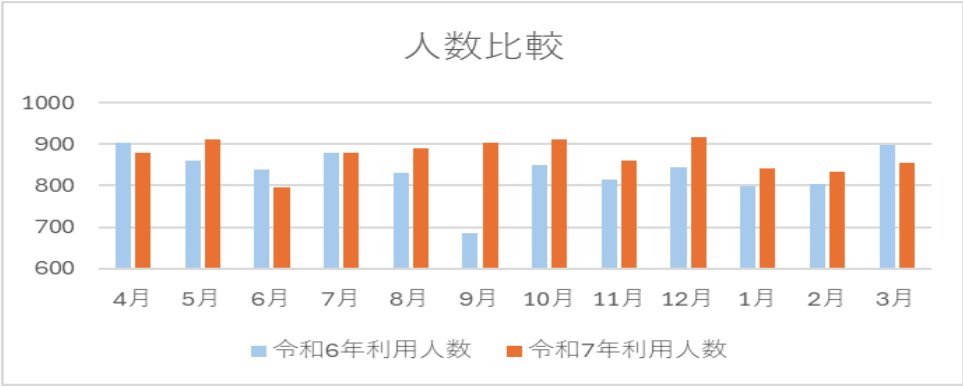
「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」を基盤とし、自ら考え動いていけるように全員の意識を高め、業務効率化にも力を入れて取り組んだ。

ケアカルテの使用、端末による入力で紙媒体を減らし、記録にかかる時間も減少させることができている。下半期には眠りスキャンも全室稼働し始め、体動センサーとしての使用を開始している。今後はこれを睡眠分析にも活用し、覚醒リズムからトイレ誘導のタイミングを図るなど有効に使用していきたい。カメラについては来年度に設置が完了する。事故件数については昨年度とほとんど変わらない数字であったが、受診や入院を要する事故は今年度6件発生している。ヒヤリハットによる危険予測は継続しているが、新規で行動が読めない方も多い。夜間帯の事故が多くみられるため、超低床ベッドやセンサーをうまく使用して防止に努めたい。

今年度も6月から7月初旬にかけてフロア内でコロナ感染が発生し、複数名が施設内療養となったことで利用のキャンセルが相次ぎ稼働率を落としたが、その後は安定した稼働をキープすることが出来、結果としては収入は約6%アップ、収支差額は約70%のアップとなった。30床に対し、半数以上ロングショート、長期利用の方の割合を多くしていることで、感染が出た際も家に帰ることができず施設内療養を余儀なくされる。短期利用予定の方に療養者がいることを伝えるとキャンセルが続出するため、期間中は空床が増える。感染対策もだが、感染が発生した際に出来る限り短い期間で終息するよう対応することが大切である。ロングショートから特養への入所人数は23名と昨年度より4名少なかったが、4～5名連続で入所があると待機が追い付かず空床を作ってしまった。特養相談員、看護師と連携し年間を通して常に待機確保に努める必要がある。

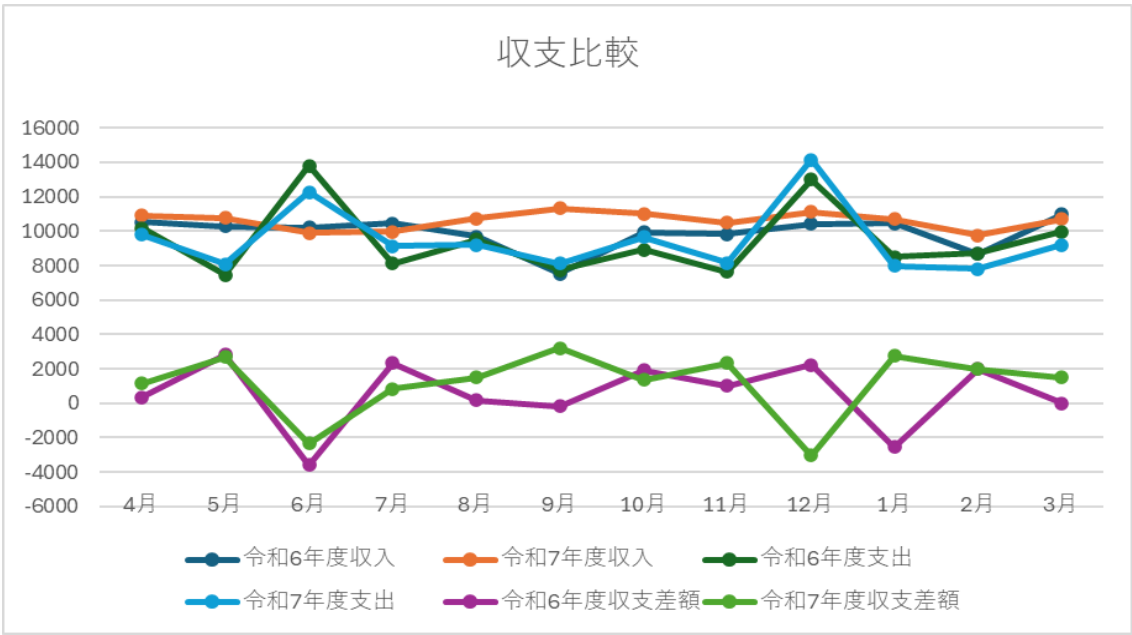
●年度別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年利用人数	903	861	839	879	831	686	4999
令和7年利用人数	879	912	797	879	891	905	5263
人数比較	▲ 24	51	▲ 42	0	60	219	264
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年利用人数	851	814	844	799	803	899	10009
令和7年利用人数	912	861	918	842	833	856	10485
人数比較	61	47	74	43	30	▲ 43	476



●年度別収支比較

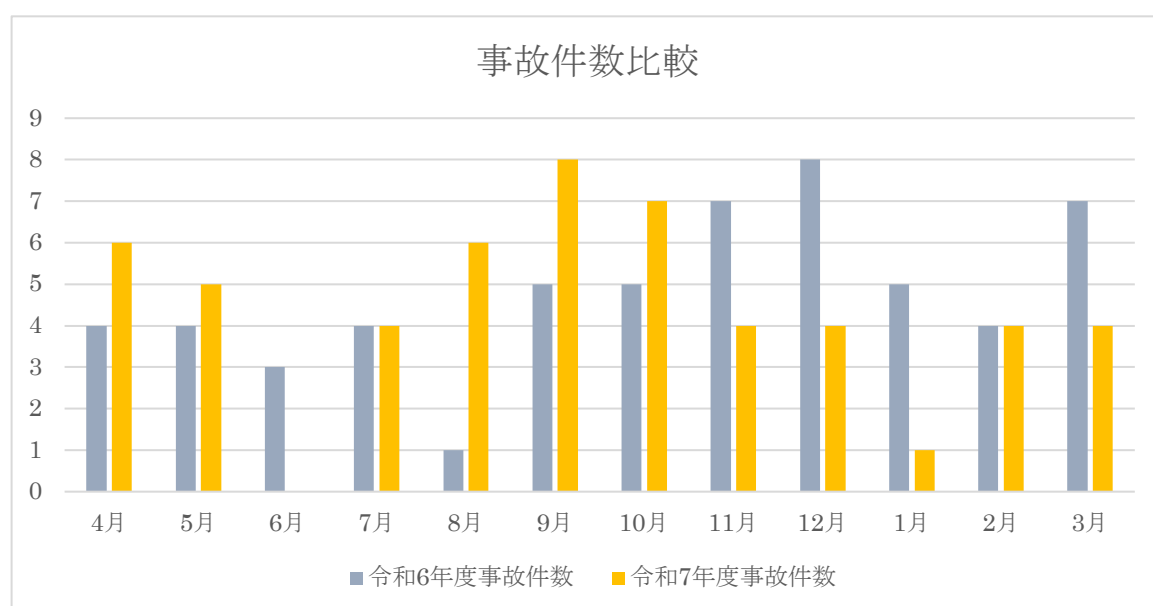
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	10543	10272	10203	10453	9702	7539	58712
令和7年度収入	10,927	10,771	9,916	9,975	10,722	11,313	63,624
令和6年度支出	10,186	7,442	13,801	8,125	9,528	7,730	56,812
令和7年度支出	9,780	8,084	12,268	9,132	9,209	8,109	56,582
令和6年度収支差額	357	2,830	-3,598	2,328	174	-191	1,900
令和7年度収支差額	1,147	2,687	▲ 2,352	843	1,513	3,204	7,042
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	9,940	9,838	10,437	10,474	8,682	10,995	120,446
令和7年度収入	11,007	10,498	11,118	10,704	9,934	10,758	127,643
令和6年度支出	8,923	7,624	12,990	8,500	8,698	9,963	113,378
令和7年度支出	9,652	8,152	14,137	7,965	8,891	9,986	115,365
令和6年度収支差額	1,017	2,214	▲ 2,553	1,974	▲ 16	1,032	7,068
令和7年度収支差額	1,355	2,346	▲ 3,019	2,739	1,043	772	12,278



●年度別事故件数比較

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度事故件数	4	4	3	4	1	5	21
令和 7 年度事故件数	6	5	0	4	6	8	29
前年度比較	2	1	▲ 3	0	5	3	8
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度事故件数	5	7	8	5	4	7	57
令和 7 年度事故件数	7	4	4	1	4	4	53
前年度比較	2	▲ 3	▲ 4	▲ 4	0	▲ 3	▲ 4

入院を要する事故 1 件 受診を要する事故 6 件



昨年度は骨折事故が 3 件あったが、今年は 2 件あり。そのうち 1 件は入院加療となった。転倒後の痛みが強かった件と、頭部を打った 2 件については受診を要する事故となった。

夜間の尿パウチの廃棄を忘れたために、翌朝接着部分が外れて尿がもれる事故があった。短期利用の方で、こちらで普段パウチ交換を実施しておらず、手順書をみながら看護師に対応してもらった。

服薬忘れ、誤薬の事故が年間で 5 件発生している。予測不能な転倒事故等と違い、防げる事故なので、対策強化で 0 にしたい。

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和 7 年度 事業報告書

今年度は医務室で QC 活動を行った。経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」の上位方針を踏まえ、間接業務の時間の削減を目指した。結果として 34.8%の時間削減ができ、業務効率化を図る事ができた。

また、端末や PC のアプリを使用し、スケジュールや業務内容を管理・共有し、業務の進捗状況を見える化した。

各委員会活動

I. 感染症

今年度では、ショート、特養併せて合計 10 名の新型コロナウイルス感染があった。例年少なからず施設内で新型コロナウイルスの感染が発生するが、1 週間～10 日程度で終息し、顕著な ADL の低下もなかった。

1 月では特養入居者 1 名にインフルエンザ B 型感染があったが、予防対策として同室者へタミフルの投与を行った。結果として、感染は広がらず 1 名のみで終息することができた。これらの経験を次年度以降にも活かしていきたい。

II. 褥瘡

今年度の褥瘡件数では、年間施設内発生件数が 12 件であった。年間の施設内発生件数は昨年の 28 件と比べ減少している。しかしながら、入所時に褥瘡持ち込みの利用者が治癒に時間を要する難治性のケースが多く、ピーク時の 6～11 月では平均で 3.8 件/月の褥瘡対応があった。対策として、年間を通して往診や受診を行いながら皮膚状態だけでなく循環器面へのアプローチを継続した。その結果、停滞していた難治性褥瘡において顕著な治癒傾向が見られた。次年度以降も多職種による情報の即時共有を軸とし、個々のリスクに応じた予防的ケアを実施することで、新規発生の抑制と早期発見に努めていきたい。

III. 看取り

今年度は新規看取り同意者は 25 名、14 名の看取り対応を行った。これまで、「看取り＝何もしない」と誤認されている家族様も多く、看取りを推奨していく上での障害となっていた。その誤認を少しでも払拭できるよう、看取りについてのパンフレットを作成し、家族様へ説明する際に使用・配布を行った。結果、家族様にも好評いただき、円滑に看取りの同意が得られるケースも増えたと実感している。

今年度では看護師の異動や退職もあり、QC 活動を活かしつつ年間を通して業務効率化を目指した。その一環で、委員会の開催回数を加算要綱範囲内で削減した。

ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて、今年度、ベッド稼働率は 98.07%と目標値である 98%を達成することができた。受診件数は 293 件、入院件数は 38 件、入院延べ日数は 809 日、1 人当たりの平均入院日数は 21.29 日/人であった。受診件数は年々増加傾向にあり、早期対応に向けて精力的に活動できていると感じている。

大西メディカルクリニック協力の下、入所者様の健康診断を 8/22、8/29 に実施した。健診結果を嘱託医へ報告、内服薬調整や受診の提案を行い、早期対応に繋げる事ができた。

IV. 職員の健康増進

職員健康診断を姫路市医師会協力の下に、11/1 に実施した。昨年同様に検査項目に腫瘍マーカーを追加し、疾患の早期発見に繋がるよう調整を行った。

腰痛検査も年 2 回実施し、健康診断結果要精査や要受診の職員へは受診推奨の書類を個別に配布した。

人間ドッグ助成対象の職員には積極的な健診への呼びかけを行い、今年度では 11 名実施した。

研修会や看護体制加算の安定に向けて

今年度では、姫路西消防署からリトルアンと AED を借りて、医務主体で介護職員へ心肺蘇生法の研修を行った。特養・ショート職員で 35 名の参加があり、次年度以降も新人研修の一環として継続していく予定である。

体制加算については、他部署への看護師応援や非常勤看護師 2 名が退職するなど、加算範囲内ではあるが看護体制は不安定な年度だった。今年度は 4 月から看護師の募集を開始したが、R8 年 3 月に非常勤職員を 1 人採用するまでは中々採用に至らなかった。今後ショーツテイの看護体制加算Ⅱの再取得や他部署への応援協力のためにも、長期的な視野で採用活動を継続して行っていきたい。

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和7年度 事業報告書

1. 人材の定着・育成

前年度は、1名の退職と新入職員・中途職員の計2名入職があった。引継ぎに関しては、マニュアル等の活用もあり、スムーズに終えることが出来た。また、職員のみでは回らないことも多いため、パート職員への指導にも力を入れた。厨房業務・事務業務のマニュアルの追加と更新は少しずつではあるが、進められた。誤配膳やショートの入退所の間違いは減少しているため、引き続き、意識・知識の定着に力を入れていきたい。

2. 献立の充実

人気のあるカレーは月1回提供するようにし、また揚げ物や麺類、炊き込みご飯などの季節感のある献立も取り入れるようにした。今年度も、米や野菜は高値が続き、冷凍野菜や加工品の値上げもあった。安い食材を取り入れたり、調味料も安いものへ切り替え、ロス減少への取り組みをしてはいるが、現状の食材費の維持が限界の状況であった。

今年度は防災食の期限が切れるものが多く、献立にいれつつ消費した。使用してみて、取り扱いがしにくいものや、量が少なすぎるものは別の商品への変更をした。また、ノロウイルスの発生により、使い捨て容器も使用したが、現場から食べづらいとの意見もあった。介護職員も含め、容器の変更も検討していきたい。

3. 衛生管理

昨年度も異物混入や食中毒の発生はなかった。最近は食中毒の発生の記事をよく目にするため、衛生管理マニュアルの見直し・職員への指導を再度行い、異物混入・食中毒の発生防止に努めていきたい。

今年度は、職員の増えたため、食器の漂白にも力を入れた。食器も長年使用しているため、漂白剤やメラミンスポンジだけでは、落ちな着色汚れもあった。汚れがひどいものは新しい食器への交換も来年度は検討していきたい。

4. 栄養マネジメント

職員が増えたことで、ミールラウンドや会議への参加も少しずつできるようになってきている。会議等の参加は、1人の職員が行くのではなく、常勤職員で分担して参加できるようにしていきたい。

デイサービスセンター サンライフ御立

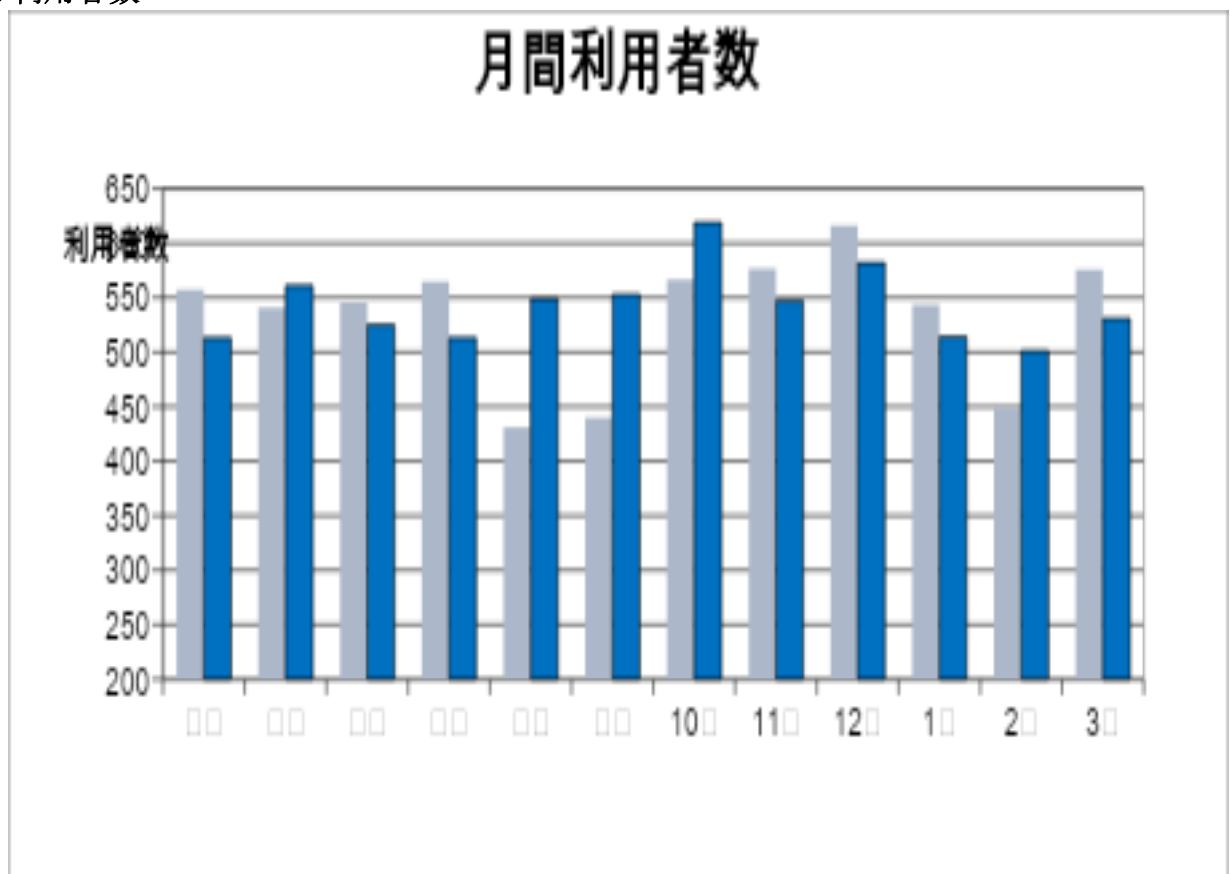
令和7年度 事業報告書

令和7年度は、『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』のスローガンを基に、職員一人ひとりが主体性を持ち日々の業務や課題を自分自身の問題と考えながら、サービスの質向上に取り組みました。職員研修では、虐待防止・事故防止・感染対策・認知症ケアなどの学びを深め知識や技術の向上に努めました。今後もより安心・安全なサービスが提供できるように努力します。

好評の音楽レクリエーションを継続し、季節の歌や懐かしい曲を楽しんでいただきました。歌やリズム活動を通して利用者様の笑顔が増え、心身の活性化につながりました。買い物や季節行事などの外出を実施し、気分転換や利用者様同士の交流も深まり楽しみや意欲向上につながりました。

定期的に居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへ訪問し情報共有を行い、事業所の取り組みを伝え、利用者様の状況報告や連携を行うことで信頼関係の構築に努めました。

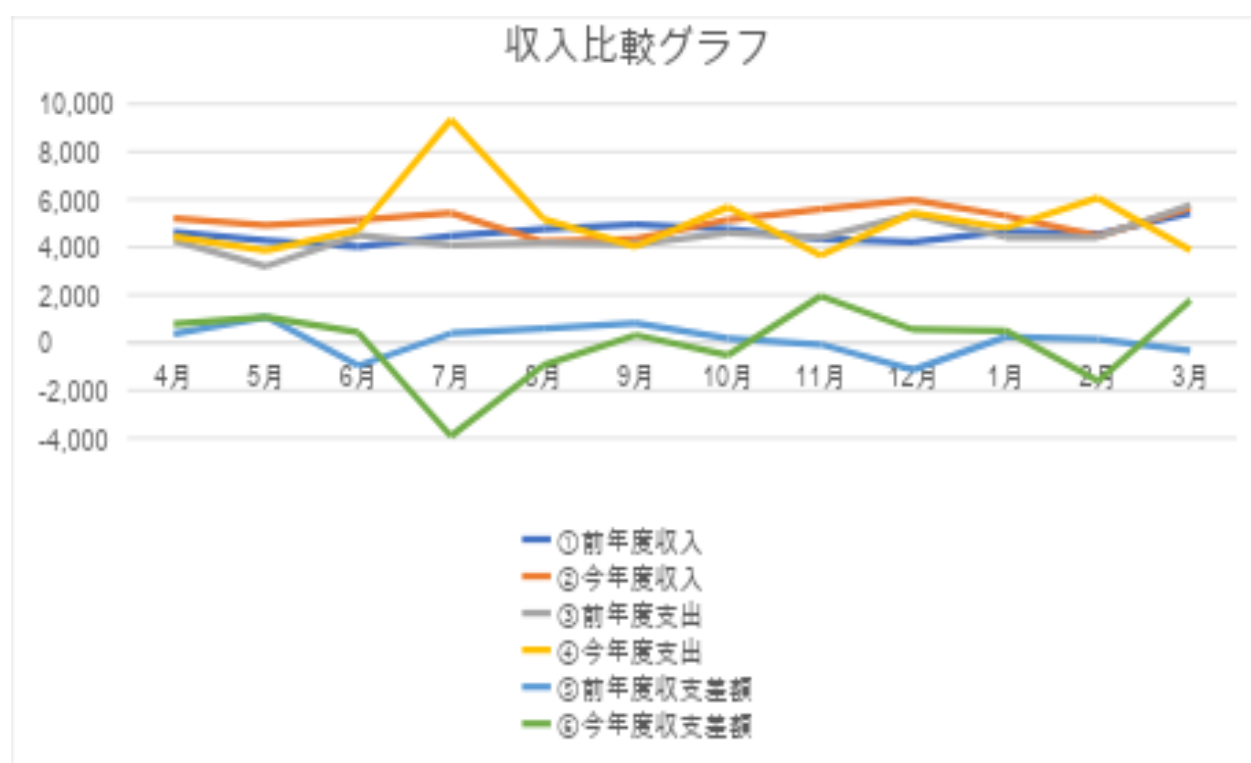
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	5,216	4,918	5,157	5,425	4,232	4,351	29,299	
②今年度収入	4,932	5,245	4,935	4,770	5,121	5,136	30,139	102%
③前年度支出	4,431	3,860	4,736	9,431	5,183	4,031	31,582	
④今年度支出	3,913	3,863	4,627	5,132	5,033	4,924	27,492	87%
⑤前年度収支差額	785	1,058	421	-3,916	-951	320	-2,283	
⑥今年度収支差額	1,019	1,382	308	-362	88	212	2,647	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	5,517	5,601	5,976	5,317	4,456	5,646	61,452	
②今年度収入	5,823	5,142	5,419	4,963	4,674	4,791	60,591	98%
③前年度支出	5,681	3,648	5,430	4,806	6,069	3,874	61,090	
④今年度支出	5,000	5,016	5,778	4,968	4,642	4,045	56,941	93%
⑤前年度収支差額	-524	1,953	546	511	-1,613	1,772	362	
⑥今年度収支差額	823	126	-359	-5	1,427	-171	4,149	



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均 (合計)
事業 対象者													
要支援 1	88.0 (3)	86.5 (2)	86.0 (2)	86.5 (2)	84.66 (3)	84.66 (3)	84.66 (3)	84.66 (3)	84.66 (3)	82.0 (2)	81.0 (2)	82.0 (2)	84.66 (30)
要支援 2	88.0 (8)	88.09 (11)	88.05 (11)	89.22 (9)	89.5 (9)	89.9 (11)	90.0 (11)	90.72 (11)	90.09 (11)	90.18 (11)	89.27 (11)	90.36 (11)	89.44 (125)
要介護 1	85.71 (21)	85.95 (20)	84.71 (20)	85.04 (21)	85.0 (21)	85.0 (20)	85.34 (20)	85.68 (20)	84.81 (19)	85.63 (21)	84.61 (20)	85.54 (19)	85.22 (242)
要介護 2	83.45 (11)	83.45 (11)	84.0 (10)	84.27 (10)	83.75 (11)	81.21 (12)	80.76 (12)	80.76 (11)	81.62 (14)	81.75 (12)	81.38 (14)	83.78 (15)	82.51 (143)
要介護 3	83.7 (9)	83.7 (10)	83.7 (10)	82.88 (8)	83.62 (8)	84.66 (8)	84.2 (10)	84.9 (9)	85.1 (9)	85.33 (7)	86.0 (6)	72.83 (6)	83.38 (100)
要介護 4	83.6 (6)	83.83 (4)	89.2 (4)	89.5 (4)	89.0 (5)	89.0 (5)	89.0 (5)	88.0 (4)	85.5 (4)	87.8 (5)	86.8 (5)	87.71 (5)	87.41 (56)
要介護 5	84.25 (4)	84.5 (4)	85.0 (2)	85.33 (3)	86.25 (3)	87.66 (3)	87.66 (3)	87.66 (3)	87.66 (3)	88.0 (3)	87.0 (3)	88.0 (2)	86.58 (36)
合計	85.24 (62)	85.14 (62)	85.81 (59)	86.10 (57)	85.96 (60)	86.01 (62)	85.94 (64)	86.08 (60)	87.33 (63)	85.81 (61)	85.15 (61)	84.31 (60)	85.6 (732)

上段の数字は平均年齢、（ ）内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度(令和 8 年 3 月現在)

(職員 13 名) 正職員 3 名 (内理学療法士 1 名) 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 9 名 (内入浴介助職員 3 名)

							個別機能指導員を 含まない	
	営業 日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/ 日	職員 一人対	職員/日	職員一人対
4 月	26	513	1,044	19.7	6.2	3.2	5.2	3.8
5 月	27	561	1,293	20.8	7.7	2.7	6.7	3.1
6 月	25	525	1,285	21.0	7.7	2.7	6.7	3.2
7 月	27	513	1,348	19.0	8.0	2.4	7.0	2.7
8 月	26	549	1,169	21.1	7.0	3.0	6.0	3.5
9 月	26	553	1,240	21.3	7.4	2.9	6.4	3.3
10 月	27	617	1,087	22.9	6.5	3.5	5.5	4.2
11 月	25	547	1,194	21.9	7.1	3.1	6.1	3.6
12 月	27	582	1,213	21.6	6.9	3.1	5.9	3.7
1 月	24	514	1,180	21.4	7.0	3.0	6.0	3.5
2 月	24	501	1,182	20.9	7.0	3.0	6.0	3.5
3 月	26	531	1,271	20.9	7.6	2.8	6.6	3.2

ケアハウスサンライフ御立

令和7年度 事業報告書

今年度のスローガンとして「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を掲げスタートした。

1. 活動的な活気に満ちた生活を送る為に

入居者の年齢は、90 歳以上が 42.9%を占める。身体の基本となる食事は毎日決まった時間に提供され、十分な睡眠も確保されている。規則正しい生活が長生きの秘訣だと感じる。ケアハウスでの生活は、各々入居者が理想的な生活リズムが確立できている。

又、ある程度のストレスは、生きていく上での刺激になる。「健康寿命」の延伸が大きなポイントであり、加えて「寿命の質」も大切な事柄となる。医療分野が発達したことによって世界的に寿命が伸びている中、単純に生命を維持させるのではなく健康で自立した時間を伸ばそうという考えはとても重要だ。超高齢社会に突入した我が国は、医療・介護保険料が問題になっている。健康寿命の延伸に取り組むことで高齢者一人ひとりが介護・医療サービスを使う機会が減り、日本全体の保険料問題の解決にもつながるのではないかと考える。

次年度の課題として、10 数年休止中だった大浴場を点検及び修理をして準備を整えた。毎月 26 日(風呂の日)に開放を予定している。入居者間の ADL の格差が問題になると思う。将来の自分自身の姿かもしれない・・・とは、決して考えない。自分とは違うみたいな意識、偏見・・・そこに共存という言葉は生まれないのか。

2. 各種行事・クラブ活動

●実施項目一覧

健康チェック	月 1 回実施 チェック後、コーヒーサービス
バスハイク、外食の日	4/7, 9 お花見 11/28, 30 紅葉狩り(バスハイク)
誕生会(年 4 回)	4, 7, 10, 2 月に実施 7 月は、100 才のお祝い
ふれあい喫茶	誕生会のない月 8 回/年
いきいき百歳体操	週 1 回実施
ラジオ体操	週 4 回実施
カラオケ教室	月 1 回実施
新規 体操教室	未実施
フレイルチェック	未実施
学習療法	持ち帰りの形で継続(週 1 回)
手作り教室	月 1 回実施 フェルト手芸、切り絵、壁面飾り等

入居者 1 人ひとりが、今現在の身体状況を把握してもらう為「骨密度測定」「フレイルチェック」「口腔内チェック」は未実施。

3. 入居者状況

入居者の年齢は、90 才以上が 15 名、全体の 42.9%を占める。又、介護保険非認定者が全体の 17.1%で、介護が必要・不必要の格差が大きくなった。生活する上で家族様等、訪問介護、訪問看護のサポートが必要となり入室制限の中、許可を得て継続実施となった。

介護認定状況 (R8. 3. 31 現在)

単位：人

	非認定	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2 以上	合計
5 階	3	1	4	7	2	17
6 階	3	3	6	6	0	18
合計	6	4	10	13	2	35

サービス利用状況 (R8. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	ディサービス	訪問リハビリ	福祉用具貸与
5 階	10	3	14	0	6
6 階	10	2	4	0	8
合計	20	5	18	0	14

入居者年齢・性別状況 (R8. 3. 31 現在)

単位：人

	～69 才	～74 才	～79 才	～89 才	90 才～	合計	平均年齢
男性	1	2	0	3	2	8	80.9 才
女性	0	0	4	10	13	27	87.9 才
合計	1	2	4	13	15	35	86.3 才

最高年齢：100 才(女性)

最低年齢：68 才(男性)

4. 空室ゼロの対策

この一年間で新規入居者は 6 名、退去者は 3 名。満室の月は一度もなく、月毎の入居者累計実績数は前年度 12,299 名、今年度 12,065 名で 234 名の減少となった。

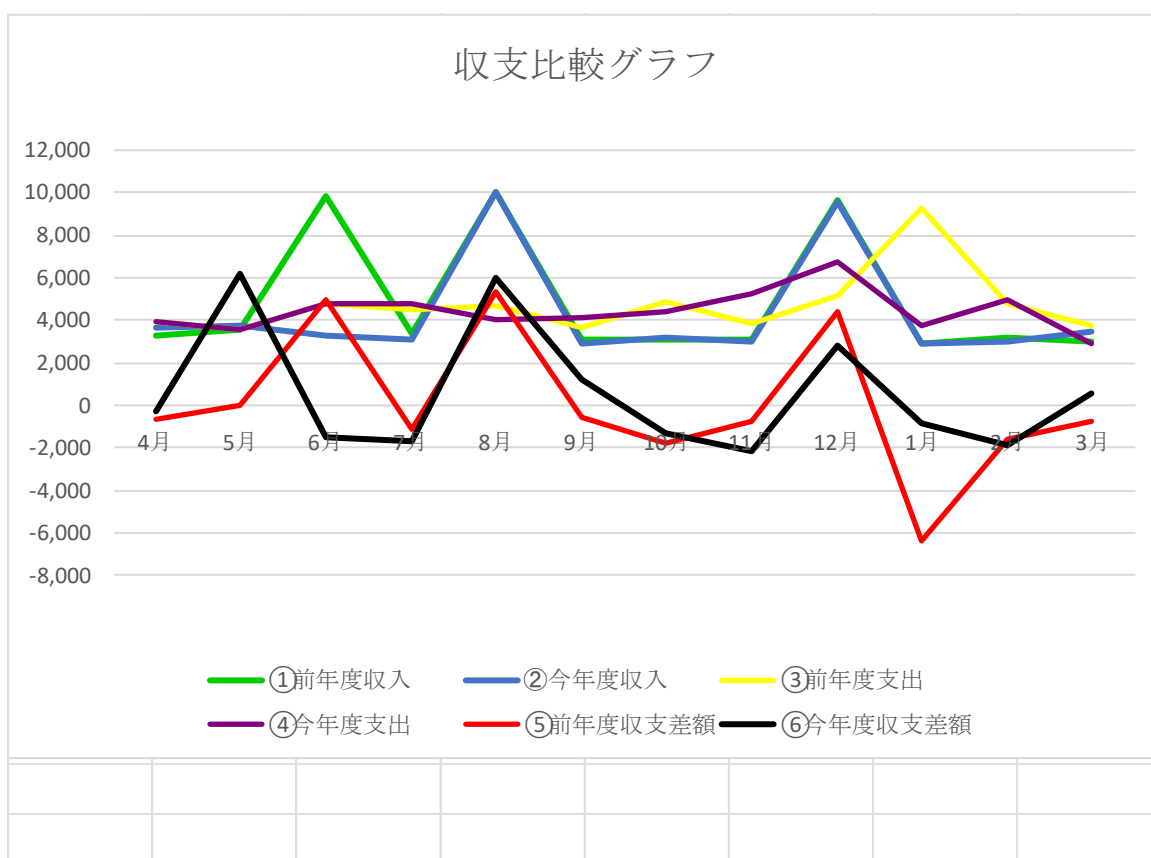
コロナ感染予防の為、見学者の対応は 1 階ホールのみの実施となった。入居に関する問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースもあった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

●年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	3,252	3,551	9,821	3,387	10,082	3,108	33,201	—
② 今年度収入	3,684	9,790	3,257	3,115	10,006	2,959	32,813	98.9%
③ 前年度支出	3,904	3,534	4,816	4,518	4,693	3,677	25,142	—
④ 今年度支出	3,908	3,548	4,763	4,787	4,037	4,167	25,212	100.3%
⑤前年度収支差額	-652	17	5,005	-1,131	5,389	-569	8,069	—
⑥今年度収支差額	-224	6,242	-1,506	-1,672	5,969	1,208	7,601	94.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	3,124	3,103	9,657	2,925	3,196	3,016	58,222	—
② 今年度収入	3,157	3,042	9,562	2,872	3,045	3,484	57,975	99.6%
③ 前年度支出	4,850	3,860	5,199	9,274	4,795	3,753	56,873	—
④ 今年度支出	4,430	5,230	6,738	3,732	4,953	2,903	53,198	93.5%
⑤前年度収支差額	-1,726	-757	4,458	-6,349	-1,599	-737	1,349	—
⑥今年度収支差額	-1,273	-2,188	2,824	-860	-1,908	581	4,777	354.1%



ユニット老人ホームサンライフひろみね

令和7年度 事業報告書

今年度経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」を基に職員の持つ専門性を向上させ、ご利用者一人ひとりに目をむけたサービス提供に繋がるよう支援すると共に職員が抱える負荷の軽減に努めながら、生産性向上に取り組んだ。

GoogleTV を各ユニットに購入したため、いつでも YouTube が使用でき、体操や歌謡曲、様々な動画を使用することができた。施設内でのレクリエーションは活性化しており、一緒に実施しなくてもよい体操などを活用する場合は、タブレットの見守りカメラやチェアセンサーも活用し、見守りの「ながら業務」を実施でき、食事準備やちょっとした物品補充、掃除やリネン交換等も行えている。

外出や買い物回数は大幅に増え、様子を撮影したものを施設内に掲示もおタブレット等を活用した事故防止だけでなく、導線を考えた配置換えや収納の整理を実施し、収納場所の確保も定期的に行った。

昨年度、配置に関する問題が多く、人員不足で他施設からヘルプ依頼し対応する時期があったり、書類の不備などがあったが、今年度は職員の異動や外国人の受入れにより、ユニットらしい取り組みを図れる体制を整えることができた。また、設備・備品において、築年数・使用年数が経ってきており、床の部分的な張替え、IH や冷蔵庫、洗濯機、各居室のエアコンや給湯器・洗面台の故障が相次いでおり、部品が無く修理できない状況で新規購入となっているケースが殆どであった。

全居室に見守りカメラが導入されており、年度末に見守り機器である aams を土山から譲り受け、全床導入となった。

今年度は昨年度に比べ、収支差額が約 204 万の減収となった。減収の大きな要因として平均ベッド稼働率が 96.3%と目標に達しなかったことがあげられる。取得可能な加算は確実に取得し、介護度の見直しなどを積極的に行ったが、退院や入所調整がスムーズにいかないこともあった。また今年度は、ADL 維持等加算、栄養ケアマネジメント加算が未算定となったことも一因である。

支出は、人件費が昇給などに合わせ職員の補充として外国人職員の受入れ等があり、約 446 万の増加と大きく影響している。

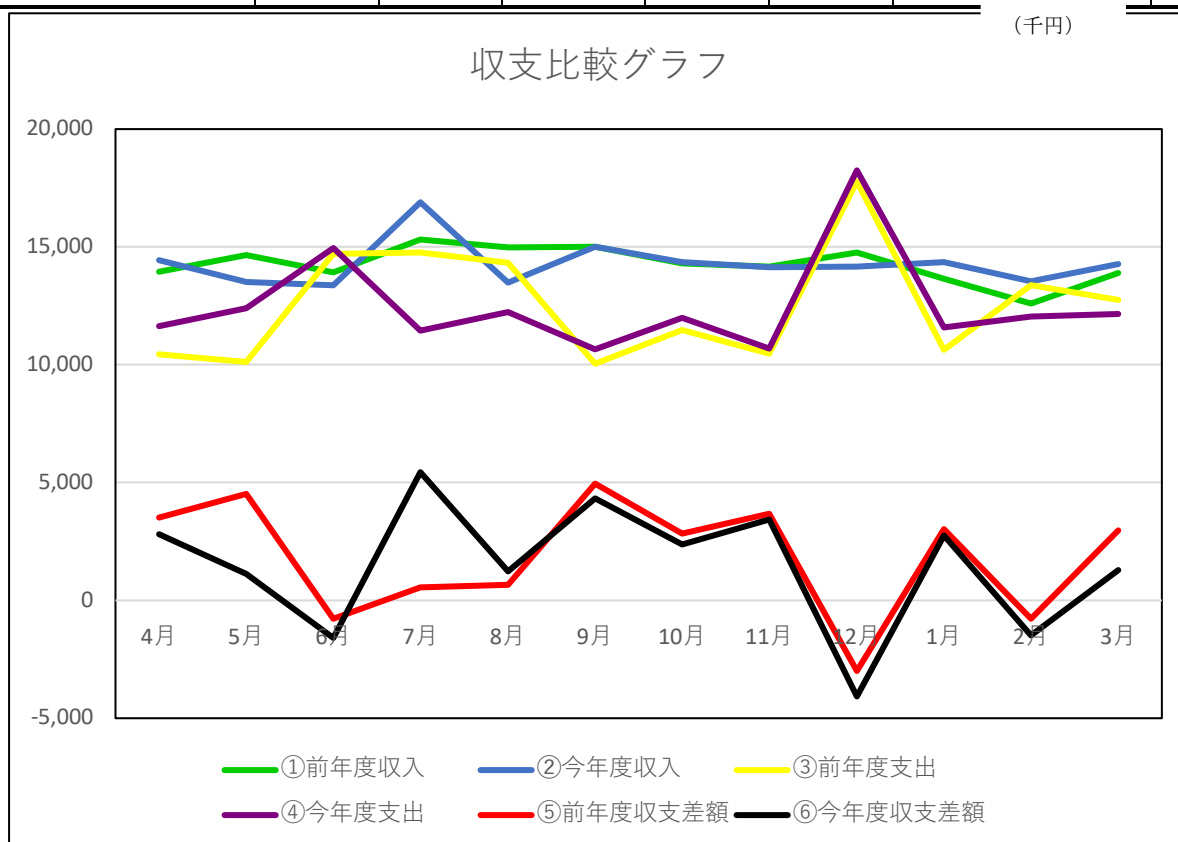
●年間収支

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	13,959	14,642	13,915	15,314	14,985	14,999	87,814	—
②今年度収入	14,434	13,522	13,372	16,894	13,477	14,997	86,006	97.94
③ 前年度支出	10,455	10,128	14,705	14,764	14,336	10,044	74,431	—
④今年度支出	11,626	12,397	14,962	11,454	12,240	10,654	73,333	98.52
⑤前年度収支差額	3,505	4,514	▲790	550	649	4,955	13,383	—
⑥今年度収支差額	2,808	1,125	▲1,590	5,440	1,237	4,343	12,673	94.69

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	14,301	14,152	14,774	13,650	12,597	15,451	172,739	—
②今年度収入	14,358	14,132	14,173	14,357	13,531	14,537	171,152	99.08
③前年度支出	11,470	10,468	17,769	10,624	13,369	11,982	150,114	—
④今年度支出	11,987	10,692	18,249	11,590	12,052	12,662	150,564	100.30
⑤前年度収支差額	2,831	3,685	▲2,995	3,026	▲772	3,469	22,626	—
⑥今年度収支差額	2,371	3,440	▲4,076	2,767	1,479	1,934	20,588	90.10

(千円)



●令和 7 年度介護状況

項目		令和 7 年 3 月末	令和 8 年 3 月末
日中オムツ使用率		2 名 (7%)	3 名 (10%)
入浴統計	特浴	1 名 (3%)	3 名 (10%)
	リフト付個浴	28 名 (97%)	24 名 (83%)
	個浴	0 名 (0%)	1 名 (3%)
食事形態	普通食	11 名 (38%)	14 名 (48%)
	刻み食	8 名 (28%)	4 名 (14%)
	極刻み食	4 名 (14%)	4 名 (14%)
	ミキサー食	6 名 (21%)	6 名 (21%)
	経管栄養	0 名	0 名
褥瘡者		0 名 (0%)	0 名 (0%)
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施 ※		12 名	8 名

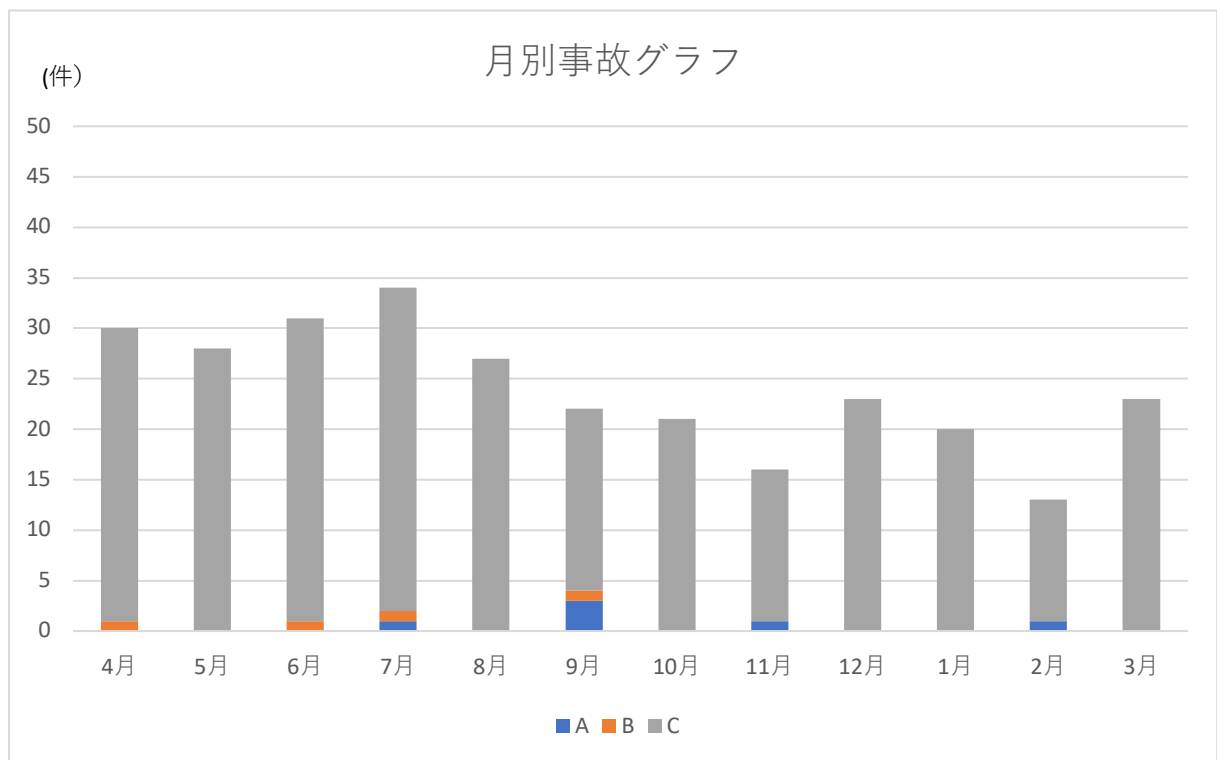
※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

●事故件数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計 (件)
A	0	0	0	1	0	3	4
B	0	0	1	1	0	1	3
C	29	28	30	32	27	18	164
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計 (件)
A	0	1	0	0	1	0	6
B	0	0	0	0	0	0	3
C	21	15	23	20	12	23	278

A：入院・加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要しない事故

月別事故グラフ



デイサービスサンライフ田寺

令和7年度 事業報告書

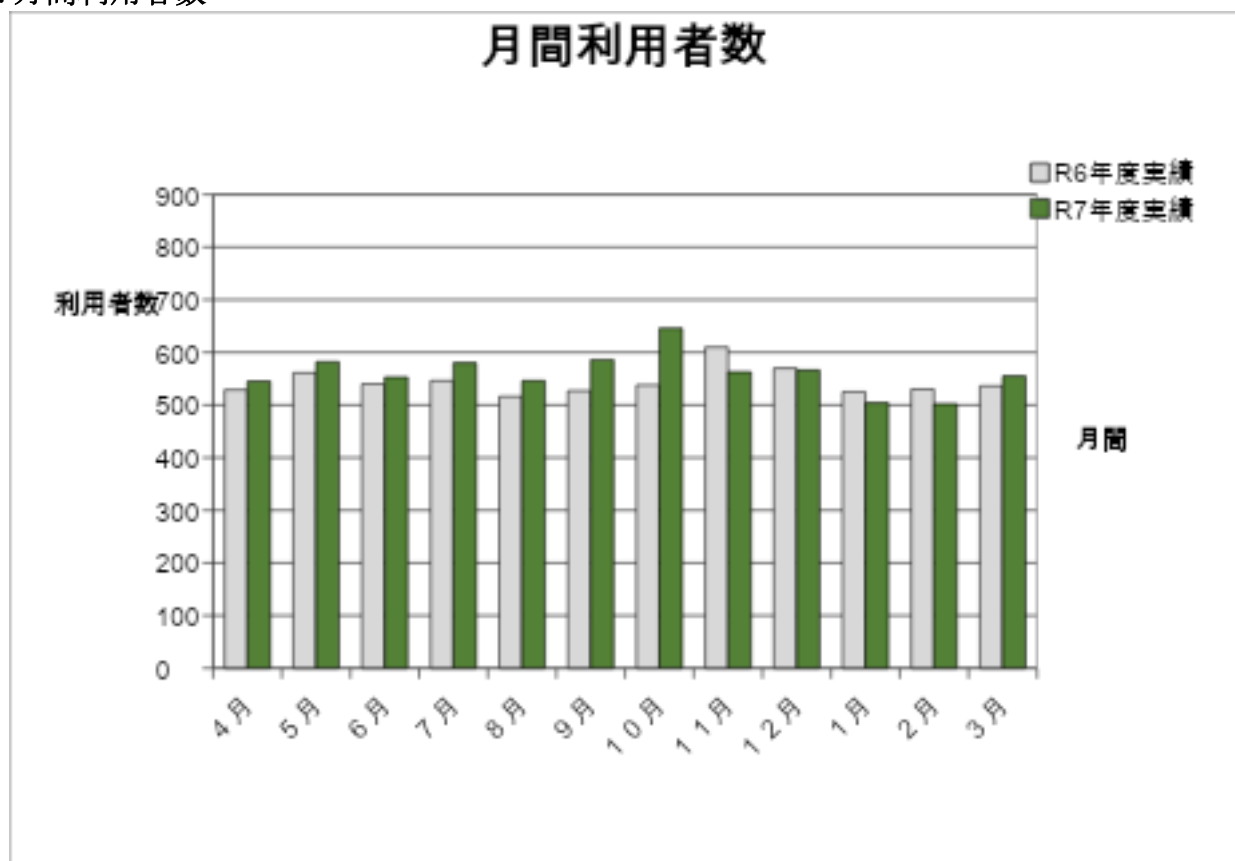
令和7年度の実績では利用者数は上半期は増加傾向であったが、11月より入院者数や長期お休みの方の増加で平均利用人数が大幅に減少してしまった。また職員の高齢化による退職などで安定した人員の確保ができず、新規利用者の受け入れも厳しい状況であった。

支出の面では前年度に引き続き、築年数の経過による建物の老朽化での修繕費の増加や人件費の高騰で支出を抑えることが困難であり、結果前年度に比べ赤字を減らすことはできたが黒字への展開は叶わなかった。

大型車の運転ができる職員の補充が叶いにくく、しばらく外出を中止していたが、今後は外出レクを無理のない程度に再開すると共にデイサービス内で行えるレクリエーションの種類の充実化を図り、既存の顧客満足度を上げることに専念する。

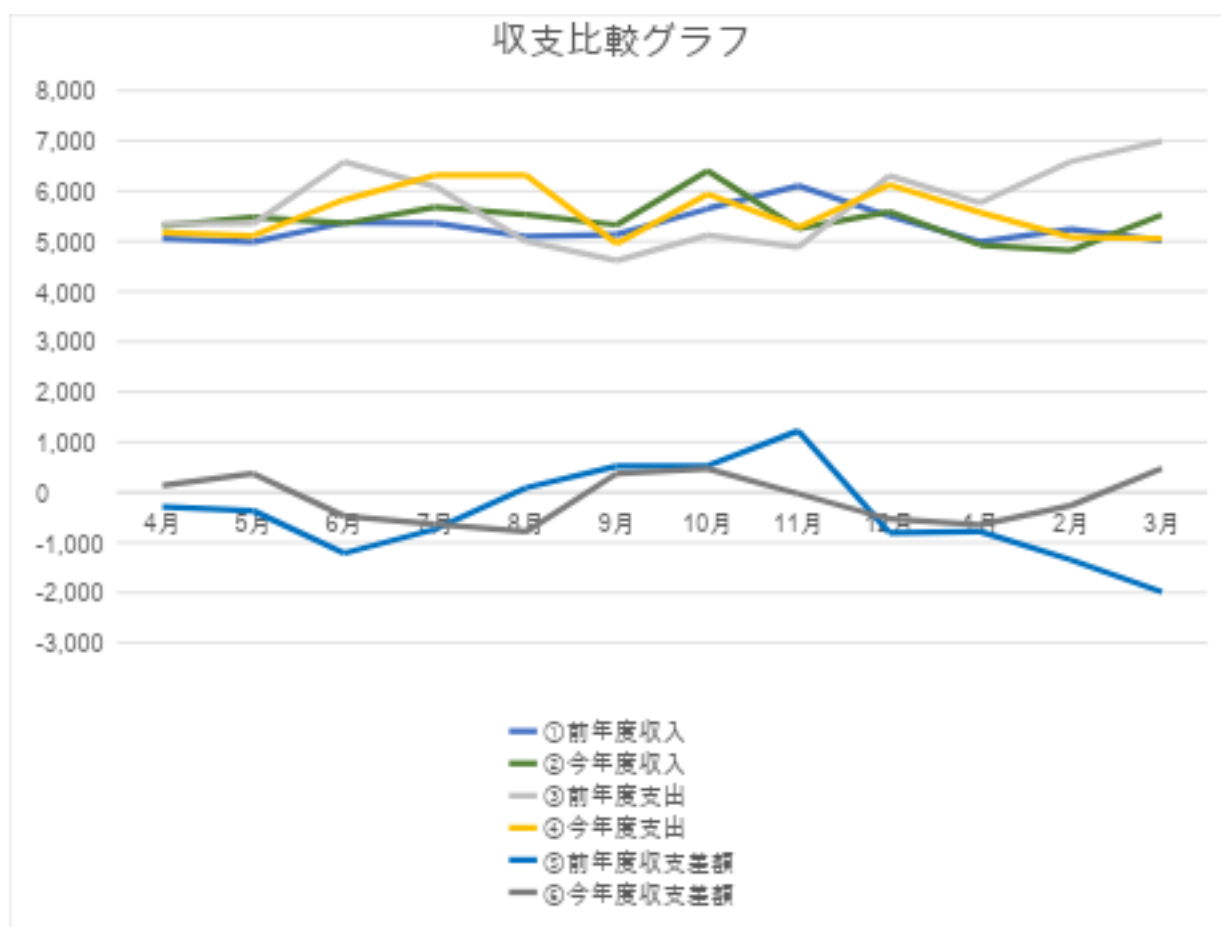
物価の高騰を受け、ガソリン代やレクリエーション等に係る娯楽費用等が増加してくる可能性が高いが、節約でサービスの質が低下しすぎないように年間で計画を立てるなどし、支出が増加しすぎないように検討していく。

1. 月間利用者数



2. 前年度収支比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
1 前年度収入	5,059	4,988	5,368	5,360	5,090	5,137	31,002	—
2 今年度収入	5,302	5,483	5,355	5,680	5,529	5,328	32,677	105.4%
3 前年度支出	5,352	5,357	6,582	6,096	4,999	4,616	33,002	—
4 今年度支出	5,169	5,111	5,830	6,315	6,136	4,955	33,516	101.5%
5 前年度収支額	-101	1,821	-1,230	-1,617	-599	-2,827	-4,553	
6 今年度収支額	-293	-369	-1,214	-736	91	521	-2,000	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
1 前年度収入	5,649	6,103	5,499	4,990	5,247	5,012	63,502	—
2 今年度収入	6,401	5,250	5,592	4,928	4,818	5,531	65,197	102.6%
3 前年度支出	5,123	4,877	6,305	5,768	6,591	6,997	68,663	—
4 今年度支出	5,936	5,280	6,126	5,574	5,083	5,054	66,569	96.9%
5 前年度収支額	-70	100	-1,821	-1,465	-4,759	-1,834	-14,402	
6 今年度収支額	526	1,226	-806	-778	-1,344	-1,985	-5,161	



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均 (合計)
要支援 1	83.19 (4)	84.48 (5)	83.35 (4)	89.31 (3)	89.15 (5)	85.36 (6)	87.18 (7)	84.40 (6)	84.49 (6)	84.81 (6)	86.97 (5)	83.63 (6)	85.45 (63)
要支援 2	88.37 (5)	86.65 (6)	87.12 (7)	86.82 (6)	86.69 (8)	86.97 (10)	87.03 (11)	88.02 (9)	88.10 (9)	88.19 (9)	89.30 (7)	88.56 (7)	87.63 (94)
要介護 1	86.15 (28)	86.04 (26)	86.23 (28)	85.35 (28)	85.58 (30)	86.49 (28)	86.64 (29)	86.84 (29)	86.37 (26)	86.56 (22)	86.75 (23)	86.62 (27)	86.47 (324)
要介護 2	86.89 (11)	86.49 (14)	87.29 (15)	87.37 (15)	85.57 (15)	84.71 (15)	84.33 (17)	84.32 (14)	84.40 (14)	84.81 (15)	85.36 (15)	84.97 (14)	85.51 (174)
要介護 3	87.10 (4)	89.23 (5)	88.73 (8)	86.67 (7)	84.93 (6)	85.74 (7)	85.82 (7)	88.39 (7)	87.30 (8)	87.47 (8)	87.54 (8)	88.34 (9)	87.31 (84)
要介護 4	92.83 (2)	92.92 (2)	93.00 (2)	93.08 (2)	93.17 (2)	94.56 (3)	94.64 (3)	94.72 (3)	94.81 (3)	94.89 (3)	93.67 (2)	93.75 (2)	93.99 (29)
要介護 5	77.67 (1)	77.75 (1)	77.83 (1)	77.92 (1)	78.00 (1)	78.08 (1)	78.17 (1)	81.92 (2)	82.00 (2)	78.42 (1)	82.13 (2)	82.25 (2)	80.03 (16)
平均 (合計)	86.45 (55)	86.44 (59)	86.78 (65)	86.90 (62)	86.48 (67)	86.23 (70)	86.35 (75)	86.63 (70)	85.38 (68)	86.59 (64)	86.89 (62)	86.52 (67)	86.55 (784)

3. 介護度別平均年齢及び利用者数

上段の数字は平均年齢、（ ）内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度（R8 年 3 月現在）

職員 17 名（正職員 2 名 非常勤看護師 3 名 非常勤理学療法士 1 名
非常勤歯科衛生士 1 名 非常勤介護職員 10 名）

個別機能指導員（看護師）
1 名含まない

	営業日 数	利用者/月	職員実質時間数/月	利用者/日	職員/ 日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	545	1,985	20.96	11.6	1.8	9.1	2.3
5 月	26	582	1,889	22.31	10.7	2.1	8.6	2.6
6 月	25	553	1,825	22.08	10.6	2.1	8.5	2.6
7 月	27	580	1,954	21.48	11.0	1.9	8.6	2.5
8 月	26	546	1,723	21.00	9.72	2.2	6.8	3.1
9 月	26	586	1,796	22.54	10.5	2.1	8.0	2.8
10 月	27	646	1,924	23.93	10.7	2.2	7.7	3.1
11 月	25	563	1,771	22.52	10.3	2.2	8.0	2.8
12 月	27	566	1,965	20.96	11.0	2.2	7.8	2.7
1 月	24	504	1,698	21.00	9.6	2.2	7.7	2.7
2 月	24	502	1,669	20.92	10.4	2.0	7.7	2.7
3 月	26	555	1,614	21.35	9.1	2.3	7.1	3.0

ヘルパーステーションサンライフ御立

令和7年度 事業報告書

今年度目標スローガン「すべてを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」を掲げ、全職員・登録ヘルパーの方向性を同じくサービス提供に努めることが出来た。

年度当初の目標設定とは大きく状況が変わり、2名の職員退職という非常事態の中スタートした4月。業務の振り分け・担当割の調整・居宅への説明に追われる中、対応に大きく揺れ動いた1年であった。

一旦規模を縮小し、今後は再度回復に努めてはいたが、業務を消化していくだけで精一杯の現状は否めないままである。

人材育成や確保に関しては、ヘルパーの高齢化で世代交代を行う必要はあるが、なかなか新規採用も叶わず、頭を抱える現状には変わりはない。

そのような中でも、義務である虐待、ハラスメント・感染症・BCP研修及び各月毎の内部研修・特定事業所加算要件の個人別研修は、計画通り実施出来ている。

心身ともに安定し、仕事と家庭の両立を図る上でも大切な有給休暇取得。

リフレッシュ休暇の様な、連続休暇取得は難しい現状となったが、休める時に休む。

休む為の調整は必ずするを念頭に、取得は計画的に行えた。

この先、常勤職員を増やさない限り、利用者増は見込めないが、今後採用の方向での調整に努めていきたい。

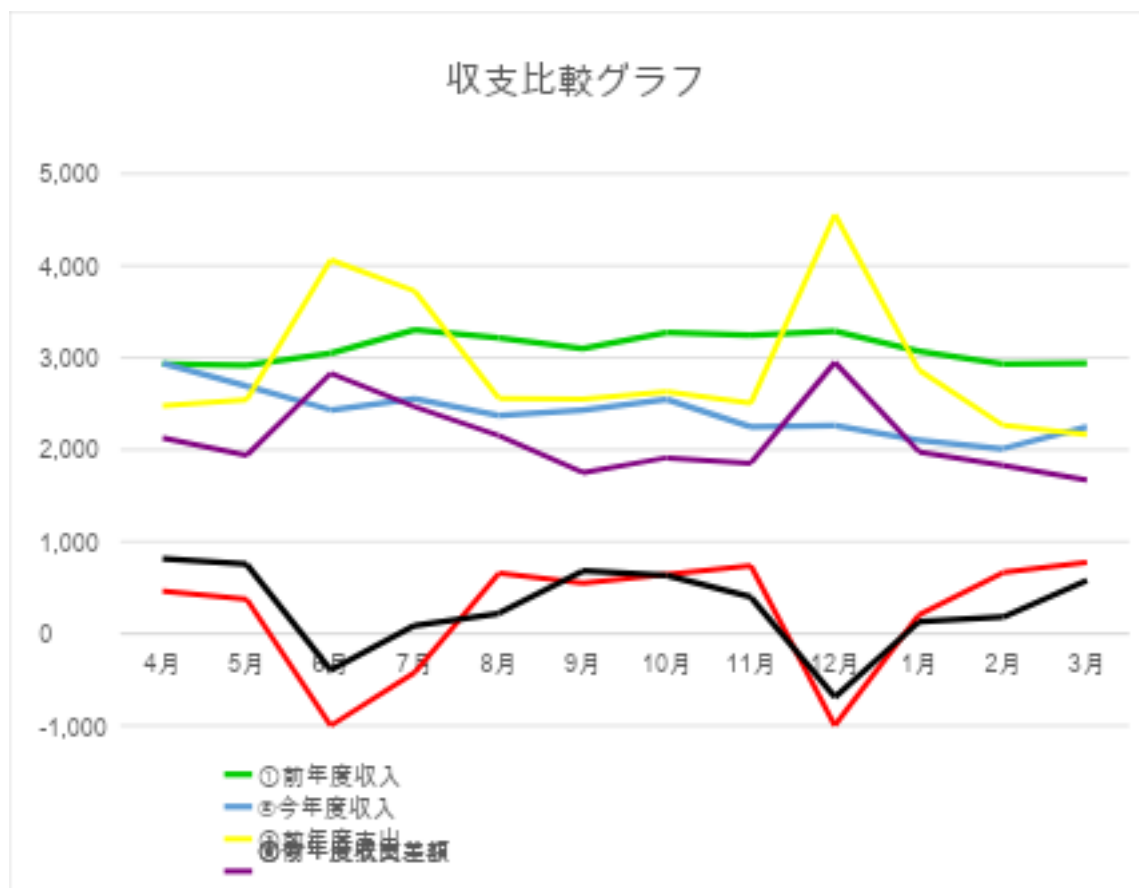
●令和7年度 内部研修内容

実施月	テーマ	担当者
4月	人事考課表と個人面談	藤木
5月	「接遇力」を高めるために出来る事	川上
6月	看取りケア	藤木
7月	食中毒予防	川上
8月	虐待防止と身体拘束	藤木
9月	安全運転管理者研修	川上
10月	ハラスメント動画研修	藤木
11月	個人面談	藤木
12月	感染症対策	川上
8年1月	糖尿病「血糖値スパイク」	藤木
2月	排泄ケア	川上
3月	今年度の振り返り	川上

年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	2,935	2,919	3,046	3,303	3,214	3,098	18,515	—
②今年度収入	2,939	2,691	2,433	2,555	2,374	2,433	15,425	83
③前年度支出	2,475	2,545	4,064	3,725	2,558	2,551	17,918	—
④今年度支出	2,127	1,938	2,830	2,467	2,155	1,752	13,269	74
⑤前年度収支差額	460	374	-1,018	-422	656	547	597	—
⑥今年度収支差額	812	753	-397	88	219	681	2,156	—
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	3,277	3,244	3,287	3,070	2,929	2,940	37,262	—
②今年度収入	2,548	2,250	2,261	2,105	2,011	2,247	28,847	77
③前年度支出	2,632	2,506	4,556	2,866	2,267	2,167	34,916	—
④今年度支出	1,913	1,852	2,950	1,977	1,831	1,668	25,460	73
⑤前年度収支差額	645	738	-1,270	204	663	772	2,349	—
⑥今年度収支差額	635	398	-689	128	180	579	3,387	144



職員減による受け入れ利用者人数減に伴う収入減少。
人件費等の支出も相応での減の為、利益は昨年度に比べ増となっている。

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和7年度 事業報告書

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」に対し、多職種と連携し、利用者、家族に対し、相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援を行った。

収入については、利用者数が、要支援者、要介護者、共に大きく増加したために、増加した。支出については、4月に常勤職員1名追加、7月に産休明け短時間勤務職員が1名復帰、1月に非常勤職員が1名退職となり、人件費が大きく増加。金額の高い購入品が無かったが、増加した。収支差額としては、収入が増加、支出が増加であり、少しのプラスとなった。

地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療との連携を促進し在宅で利用者様に満足して頂けるように提供を行った。

1. 担当利用者・収入の確保

新規獲得件数は208件。特養や老健入所、長期入院、永眠などの終了ケースが多くある。総数は令和7年4月が要介護142件、要支援81件の223件、令和8年3月が要介護183件、要支援127件の310件となった。営業活動も毎月行っている。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし、特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努めている。

全体としての担当人数が増えたことで、収入については、昨年度と比較し大きく増加の結果となった。

2. サービスの質の向上

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で一緒に考え、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努めた。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行った。

3. 有給休暇、連続リフレッシュ休暇の確実な取得状況

年次有給休暇の10日以上取得者の5日以上取得はできている。連続リフレッシュ休暇は、昨年に続き現状で取得している職員はいない。連続リフレッシュ休暇の支障として考えられることは、長期休暇を取得することで利用者様や家族様からの相談対応に支障が出てしまわないかとの不安がある。今後も検討が必要。

4. 特定事業所集中減算の回避

毎月、集計を行い減算にならないように注意した。他事業所の情報等を収集し、紹介を行った。

5. 介護予防支援

令和7年度も、要支援者の地域包括支援センターからの依頼や、更新時に要支援になった方が多く、要支援者の利用者数は増加傾向となった。引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1.2	R6	78	78	80	81	79	80	77	76	79	74	78	78	938
	R7	81	82	86	108	108	104	124	133	135	130	126	127	1,344
	差	+3	+4	+6	+27	+29	+24	+47	+57	+56	+56	+48	+49	+406

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1～5	R6	120	122	125	133	127	128	136	136	137	138	137	138	1,577
	R7	142	145	144	140	150	155	167	167	180	178	177	183	1,928
	差	+22	+23	+19	+7	+23	+27	+31	+31	+43	+40	+40	+45	+351

7. 収入の確保

様々な理由で、増減があるため、定員を維持増加できるように営業活動を行った。ケアマネの増員により、全体の担当件数を増やせたため、要介護の利用者、要支援の利用者どちらも大きく増加となった。

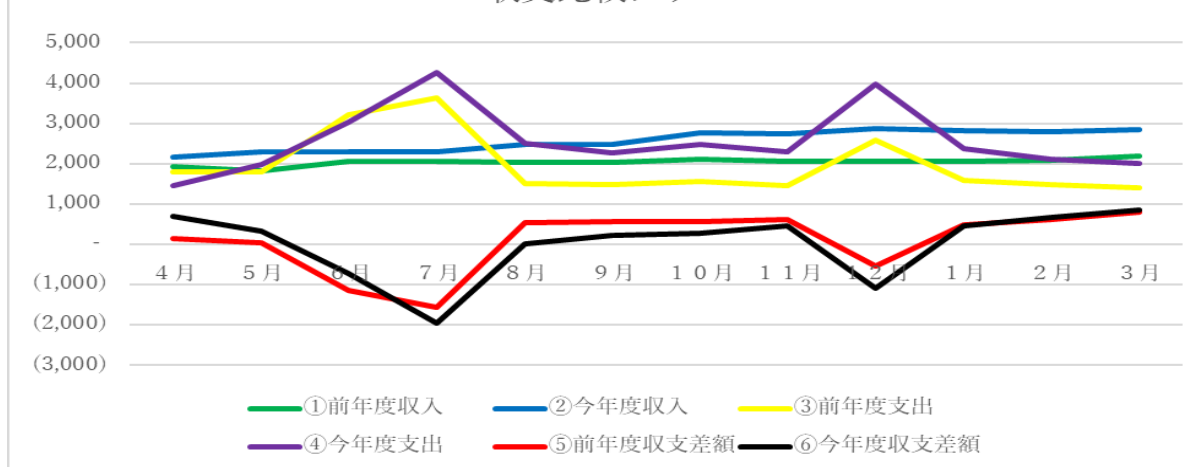
他の収入として、委託業務である姫路市の介護保険認定調査は、毎月 25 件程度を上限に行った。他の市からの依頼も積極的に受けた。

8. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,923	1,832	2,069	2,058	2,024	2,025	11,951	
②今年度収入	2,154	2,288	2,295	2,291	2,488	2,477	13,993	117.09
③前年度支出	1,782	1,798	3,218	3,629	1,498	1,472	13,397	
④今年度支出	1,456	1,972	3,025	4,255	2,492	2,266	15,466	115.44
⑤前年度収支差額	141	34	-1,149	-1,571	526	573	-1,446	
⑥今年度収支差額	698	316	-730	-1,964	-4	21	-1,473	-
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	2,122	2,049	2,050	2,051	2,078	2,178	24,479	
②今年度収入	2,754	2,733	2,873	2,816	2,781	2,854	30,804	125.84
③前年度支出	1,564	1,439	2,595	1,580	1,479	1,395	23,449	
④今年度支出	2,485	2,290	3,981	2,370	2,116	2,009	30,717	130.99
⑤前年度収支差額	558	610	-545	471	599	783	1,030	
⑥今年度収支差額	269	443	-1,108	446	665	845	87	8.45

収支比較グラフ



デイサービスサンライフ安室

令和7年度 事業報告書

令和7年度は「美容レクリエーションの定着」や「個別ニーズに合わせたイベント運営」が功を奏し、利用者様の満足度向上と定着に大きく寄与した。

また、季節ごとのイベント、喫茶サンライフ安室の開催、外出機会の提供など、選択制と特別感のあるアプローチを行った。これらが新規利用者への強力なアピールポイントとなり、居宅介護支援事業所からの紹介案件の増加に繋がった。

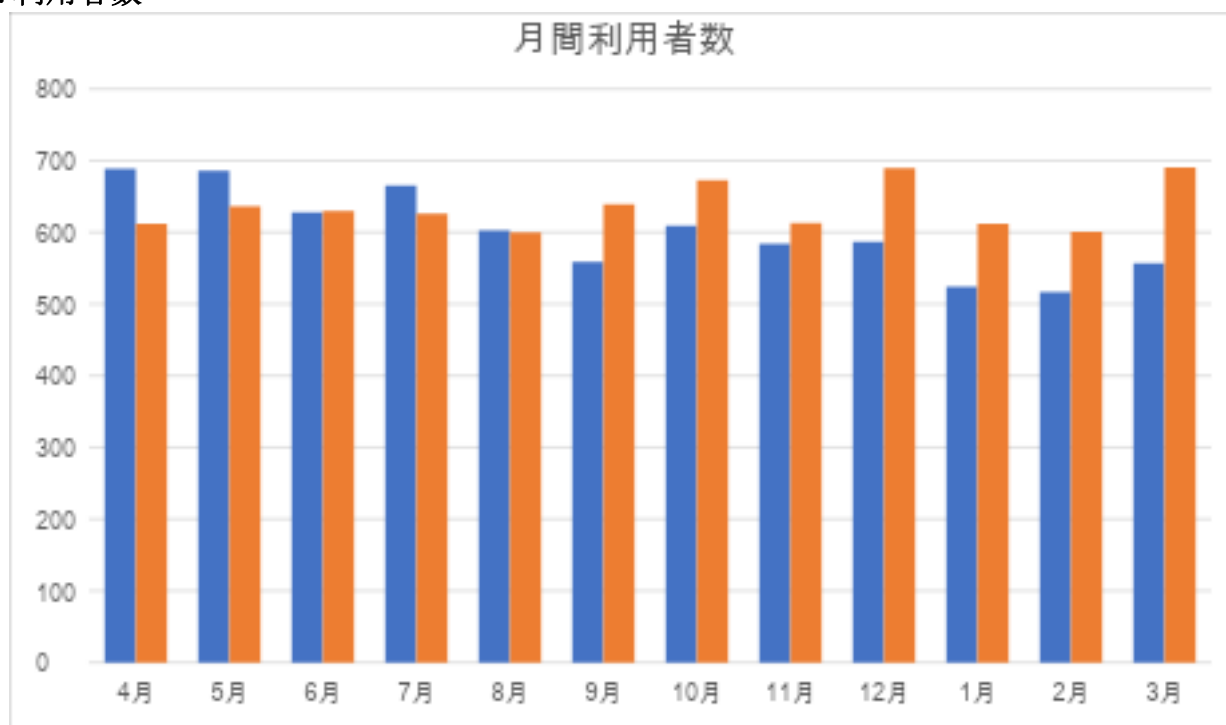
運営面においては、ICT導入による業務効率化を段階的に進めたことで、職員の事務負担が大幅に軽減された。これにより、職員が利用者様と直接向き合うコミュニケーションの時間や、個別ケアの質の向上に多くの時間を充てることが可能となった。

利用者数の推移に関しては、前年度は年度後半にかけて減少傾向にあったが、本年度は営業体制の強化により、9月以降前年実績を大きく上回る推移を見せた。

収支に関しては、年度累計の収入は前年比110.6%と大幅に伸長した。支出面では物価高騰の影響を強く受けたものの、運営の見直しや効率化を進めたことで、支出比率を前年比98.4%に抑え込むことに成功した。その結果、前年度の赤字基調から脱却し通期で4,311千円の収支差額を確保することができた。

次年度に向けては、現在の好調な利用者数を維持しつつ、安心・安全なサービスを提供し、安定した事業運営と収益確保の両立を継続していく。

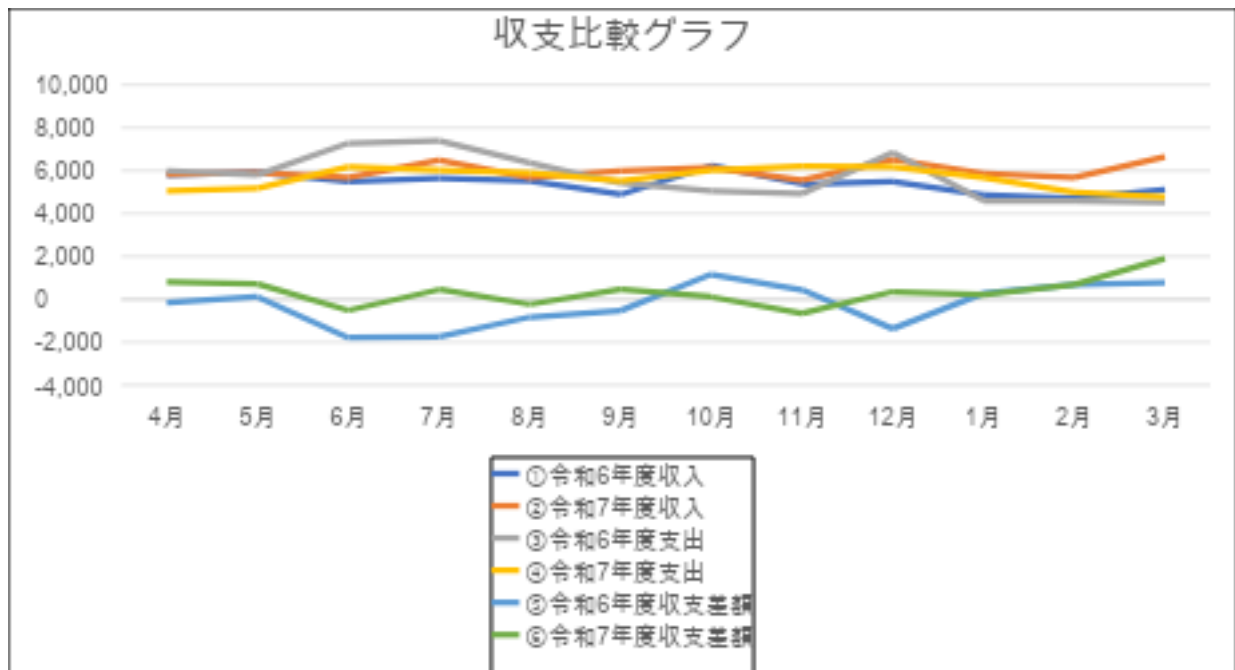
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
1 令和 6 年度収入	5,814	5,918	5,496	5,648	5,526	4,884	33,286	-
2 令和 7 年度収入	5,845	5,909	5,671	6,480	5,666	5,985	35,556	106.8%
3 令和 6 年度支出	5,980	5,806	7,283	7,398	6,353	5,413	38,233	-
4 令和 7 年度支出	5,038	5,185	6,182	6,025	5,898	5,521	33,849	88.5%
5 令和 6 年度収支差額	-166	112	-1,787	-1,750	-827	-529	-4,947	-
6 令和 7 年度収支差額	807	724	-511	455	-232	464	1,707	-
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
1 令和 6 年度収入	6,227	5,379	5,481	4,870	4,724	5,108	65,075	-
2 令和 7 年度収入	6,142	5,562	6,521	5,879	5,673	6,653	71,986	110.6%
3 令和 6 年度支出	5,066	4,929	6,856	4,591	4,590	4,535	68,800	-
4 令和 7 年度支出	6,031	6,210	6,163	5,668	4,995	4,759	67,675	98.4%
5 令和 6 年度収支差額	1,161	450	-1,375	279	134	573	-3,725	-
6 令和 7 年度収支差額	111	-648	358	211	678	1,894	4,311	-



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均 (合計)
要支援 1	87.29 (4)	87.38 (4)	88.27 (5)	88.35 (5)	88.43 (5)	88.52 (5)	87.63 (7)	87.32 (6)	87.40 (6)	86.57 (5)	83.53 (6)	85.87 (9)	87.09 (67)
要支援 2	87.60 (16)	87.68 (16)	87.18 (14)	87.52 (13)	87.98 (15)	88.16 (16)	88.18 (14)	87.23 (15)	87.60 (14)	87.79 (14)	88.01 (13)	87.69 (15)	87.72 (175)
要介護 1	86.51 (25)	86.48 (24)	86.24 (27)	86.32 (27)	86.21 (27)	86.06 (31)	86.23 (30)	86.23 (30)	86.50 (30)	86.76 (31)	85.89 (25)	86.44 (27)	86.32 (334)
要介護 2	88.77 (11)	87.38 (11)	87.46 (11)	87.55 (11)	85.49 (9)	86.92 (10)	86.99 (12)	86.74 (12)	86.87 (13)	86.11 (14)	86.01 (15)	85.67 (17)	86.76 (146)
要介護 3	94.85 (4)	91.14 (6)	90.48 (7)	90.56 (7)	88.48 (7)	88.56 (7)	88.64 (7)	87.89 (7)	87.98 (7)	87.59 (8)	88.50 (6)	88.58 (6)	89.21 (79)
要介護 4	83.83 (11)	83.03 (10)	83.62 (12)	83.20 (10)	84.07 (9)	84.16 (9)	83.88 (10)	82.47 (8)	84.05 (8)	84.14 (8)	84.22 (8)	84.30 (8)	83.73 (111)
要介護 5							87.92 (1)						
平均 (合計)	87.95 (71)	87.97 (71)	88.13 (76)	88.24 (73)	88.30 (72)	88.03 (78)	88.00 (81)	88.13 (78)	87.48 (78)	87.26 (80)	87.45 (73)	87.17 (82)	87.84 (913)

上段の数字は平均年齢、（ ）内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度（令和 8 年 3 月現在）

職員 16 名（正職員 2 名 非常勤看護師 3 名非常勤介護職員 11 名）

機能訓練指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4 月	26	612	1625	23.5	9.7	2.4	8.4	2.8
5 月	27	636	1814	23.6	10.8	2.2	9.4	2.5
6 月	25	630	1659	25.2	9.9	2.6	8.7	2.9
7 月	27	626	1801	23.2	10.7	2.2	9.4	2.5
8 月	26	600	1640	23.1	9.8	2.4	8.5	2.7
9 月	26	639	1676	24.6	10.0	2.5	8.6	2.9
10 月	27	673	1661	24.9	9.9	2.5	8.7	2.9
11 月	25	613	1484	24.5	8.8	2.8	8.1	3.0
12 月	27	690	1621	25.6	9.6	2.6	8.4	3.0
1 月	24	612	1561	25.5	9.3	2.7	8.2	3.1
2 月	24	601	1546	25.0	9.2	2.7	8.4	3.0
3 月	26	691	1736	26.6	10.3	2.6	9.2	2.9

姫路市安室地域包括支援センター

令和7年度 事業報告書

姫路市においても2035年に向けて85歳以上の高齢者が増え続け、介護を担う人口が減少していく。また、今後急増が見込まれる要支援者に対する財源は不足している。2040年においても、地域包括ケアシステムを持続するために、介護保険の利用について意識を改革していくことが緊急の課題となっている。地域包括支援センターでも多様なサービスを選んでもらうための介護予防ケアマネジメントの展開が必要となっており、2027年度の第10期計画に向けて市の方針に合わせて、総合相談の対応ができるよう努めている。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼を実施し、伝達事項や地域役員・関係機関・事業所からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行った。毎日の朝礼で実施することにより、全職員への周知徹底を図り、何度も伝達が必要とならないよう、朝礼欠席者は記録を確認する等、効率化を図っている。また、各職員のスキルアップにつながるよう毎月1人ずつ主催する担当者を決め、月1回の職員会議を継続して行った。職員会議では、年間通して行わないといけない研修等も含み、もれのないよう実施できている。

困難事例等に関しては、ホワイトボードを使用し、可視化した事例検討をすることで、情報の整理と課題抽出を行い、適切な支援ができるようにしている。また、写真で記録することで、会議録作成の手間の軽減に努めた。相談対応者については、年に3回程度、終結について話し合いを行い、メリハリをつけた支援に努めた。

高齢者虐待に関しては、新規13件、昨年度からの継続1件の対応があり、そのうち8件についてコア会議を開催した。姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき、市や中央保健福祉センター等関係機関と連携をとり対応した。引き続き、各関係機関と連携を密にし、早期対応に努めたい。

研修については、今年度も案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしており、より多くの研修を受講することができた。また、オンライン研修を主とすることで、業務の効率化を図ることができている。受講した研修については、朝礼等の機会を利用し、事業所内で伝達研修を行い、共有を図っている。

認知症カフェについては、開催支援を行い、2か所で定期開催を継続することができた。また、認知症サポーター養成講座については、現役世代が参加できるよう9月の祝日に開催したが、思うように集客はできず、高齢者の参加が多かった。申し込みを電話・FAXのみとしていたため、今後は、参加申し込みに2次元コードを活用する等検討していきたい。

いきいき百歳体操については、新規立ち上げグループはなかったが、12グループが継続開催できている。今年度より姫路市が行ういきいき百歳体操のポイント取得アプリ

が変更となり、スムーズに移行できるよう、また年度末にはポイント交換について、支援を行った。

介護予防については、今年度も安室・安室東両公民館での介護予防講座の開催が継続できている。安室東公民館では公民館講座で、安室公民館では毎月開催されている「認知症・介護予防教室」の中で開催できた。

今年度も、センター便りを3か月に1回（自治会協力により全戸回覧実施できている）、地域役員向け活動報告書を2か月に1回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいる。また、生活支援体制検討会議については、安室東校区で、民生委員児童委員定例会で、2か月に1回開催開始することができ、来年度も継続開催することが決定しており、さらなる連携強化に取り組めた。

総合相談支援事業の相談者（重複あり）

（件）

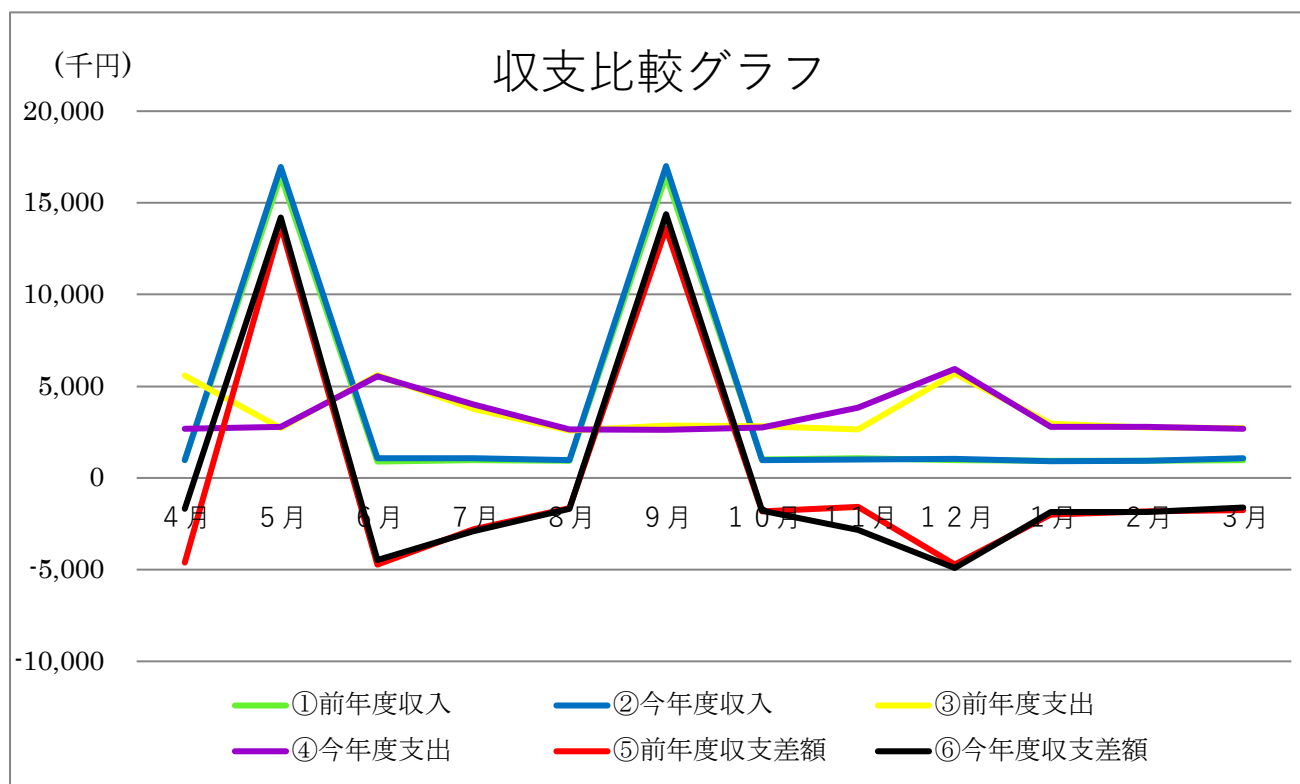
区分	家族・本人	行政 (市役所)	行政 (警察等)	ケアマネ ジャー	介護保険 サービス 事業者	医療機関	民生委員	地域団体 等	その他
4月	146	4	3	20	12	5	8	2	9
5月	165	4	2	27	3	10	3	6	6
6月	201	4	0	38	30	30	14	8	15
7月	203	2	0	39	32	19	5	8	9
8月	161	5	0	19	11	8	3	1	0
9月	202	6	1	32	33	22	9	4	25
10月	240	5	5	38	48	18	4	0	14
11月	164	8	3	27	10	10	4	3	13
12月	194	6	1	14	13	16	10	4	19
1月	195	5	3	22	16	19	4	8	3
2月	151	2	0	12	13	10	3	3	5
3月	227	5	4	30	14	15	0	8	2
合計	2,249	56	22	318	235	182	67	55	120

●年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	980	16,971	1,068	1,085	968	17,005	38,077	
②今年度収入	1,083	15,758	968	949	966	17,076	36,800	97
③前年度支出	2,673	2,773	5,544	4,002	2,658	2,625	20,275	
④今年度支出	2,806	3,102	5,498	3,866	3,017	2,800	21,089	104
⑤前年度収支差額	-1,693	14,198	-4,476	-2,917	-1,690	14,380	17,802	
⑥今年度収支差額	-1,723	12,656	-4,530	-2,917	-2,051	14,276	15,711	88
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	990	1,072	966	950	952	969	43,976	
②今年度収入	980	992	1,033	913	933	1,065	42,716	97
③前年度支出	2,813	2,652	5,689	2,951	2,768	2,709	39,857	
④今年度支出	2,756	3,838	5,942	2,784	2,774	2,693	41,876	105
⑤前年度収支差額	-1,823	-1,580	-4,723	-2,001	-1,816	-1,740	4,119	
⑥今年度収支差額	-1,776	-2,846	-4,909	-1,871	-1,841	-1,628	840	20

※5月・9月 姫路市より委託料収入あり



特別養護老人ホームサンライフ土山

令和 7 年度 事業報告書

今年度は、安定したサービス提供体制の構築を目指し、継続的な介護人材の確保に重点を置いて取り組みを進めた。紹介会社からの人材紹介に加え、特定技能生や専門学校卒業生などの外国人職員の採用、さらに地域情報誌を活用した募集活動など、多方面から積極的に採用を行なった。しかし、採用後の定着が難しく、離職を伴う再募集が繰り返される状況となった。その結果、紹介料などの採用関連費用は年間で約 330 万円に達し、依然として大きな課題として残っている。また、体調不良等による急な欠勤も多く、安定した勤務体制の確保が求められている。

サービスの質の向上に向けては、「レクリエーション・余暇時間を充実させる」をテーマに QC 活動を実施した。インターネット環境を活用した運動プログラム、口腔体操、カラオケなど、多様な活動を取り入れた。その結果、利用者の活動意欲が高まり、意欲的かつ活動的に過ごしていると感じられる利用者が 22%増加するなど、一定の成果が見られた。

また、利用者の楽しみである家族との時間をより大切にするため、面会可能時間帯であれば時間制限を設けない運用へと変更した。これにより、利用者が家族とゆっくり過ごすことが出来るようになり、心身機能の向上にもつながった。さらに、家族と職員がコミュニケーションをとる機会も増え、より良い関係づくりにもつながった。

業務効率化の面では、夜間業務の負担軽減やケアの質の向上を目的として、ICT 機器や AI 技術の導入準備を進めた。「眠りスキャン」や介護ソフト「ケアカルテ」の活用に向けて環境整備を進めた。

収支面では、平均稼働率は 96.9%となり、目標値には 0.1%届かなかったものの、令和 6 年度と比較して介護報酬及び利用料収入は約 434 万円増加した。また、補助金収入の増加もあり、事業活動収入全体では約 760 万円の増収となった。

一方、支出面では、インフレによる物価高騰の影響に加え、人件費の増加等により約 1,000 万円の増加となった。その結果、収支差額は約 328 万円の減少となっている。

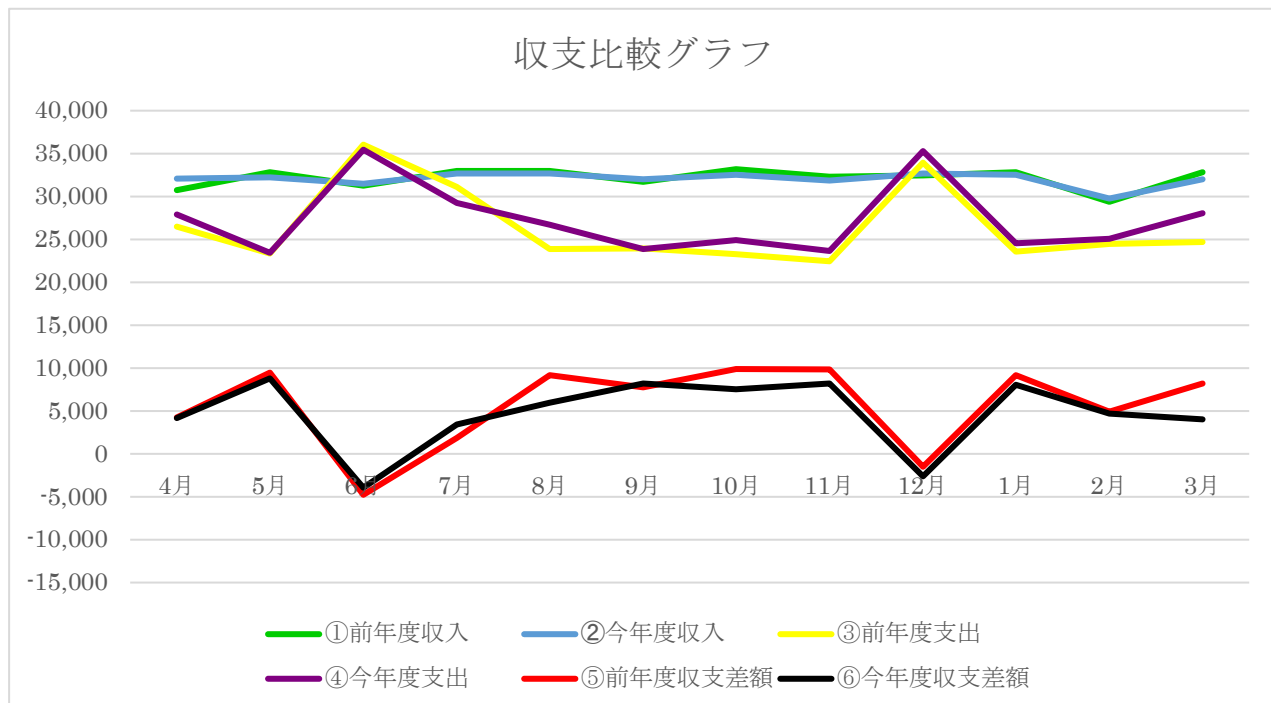
特に人件費については、介護人材の確保競争が激化する中、安定したサービス提供体制を維持するため、職員の処遇改善、福利厚生の実施及び労働環境整備を推進したことにより、前年度比約 1,000 万円の増加となった。これは、職員定着及びサービス品質維持に必要な取り組みとして実施したものである。

今後については、介護負担軽減や業務効率化を進めるとともに、適正な人員配置と健全な施設運営に努め、安定した事業運営を目指していきたい。

年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	30,712	32,825	31,269	32,950	33,009	31,682	192,447	—
② 今年度収入	32,061	32,230	31,510	32,659	32,681	32,026	193,167	100.3
③ 前年度支出	26,481	23,355	36,039	31,079	23,840	23,946	164,740	—
④ 今年度支出	27,899	23,434	35,452	29,261	26,699	23,846	166,591	101.1
⑤ 前年度収支差額	4,231	9,470	-4,770	1,871	9,169	7,736	27,707	—
⑥ 今年度収支差額	4,162	8,796	-3,942	3,398	5,982	8,180	26,576	95.9
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	33,181	32,288	32,488	32,790	29,378	32,833	385,405	—
② 今年度収入	32,491	31,842	32,658	32,541	29,757	32,030	384,486	99.7
③ 前年度支出	23,294	22,446	33,966	23,584	24,475	24,668	317,173	—
④ 今年度支出	24,948	23,650	35,252	24,516	25,087	28,023	328,067	103.4
⑤ 前年度収支差額	9,887	9,842	-1,478	9,206	4,903	8,165	68,232	—
⑥ 今年度収支差額	7,543	8,192	-2,594	8,025	4,670	4,007	56,419	82.6



2. 利用者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R6 年度実績	1,997	2,093	1,986	2,048	2,065	2,015	12,204
R7 年度実績	2,072	2,087	2,041	2,109	2,109	2,075	12,493
前年度との差異	75	-6	55	61	44	60	289
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R6 年度実績	2,117	2,028	2,076	2,102	1,853	2,091	24,471
R7 年度実績	2,112	2,025	2,112	2,097	1,926	2,050	24,815
前年度との差異	-5	-3	36	-5	73	-41	344

3. 入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R6 年度実績	2	2	4	4	3	3	18
R7 年度実績	1	3	3	0	2	0	9
前年度との差異	-1	1	-1	-4	1	-3	-9
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R6 年度実績	2	4	1	0	5	2	32
R7 年度実績	1	0	2	0	2	2	16
前年度との差異	-1	-4	1	0	-3	0	-16

4. 稼働率

(単位：%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R6 年度実績	95.1	96.5	94.6	94.4	95.2	96.0	95.3
R7 年度実績	98.6	96.1	97.1	97.1	97.0	98.0	97.3
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R6 年度実績	97.6	96.6	95.7	95.3	94.6	96.4	95.7
R7 年度実績	97.0	96.0	97.3	96.5	98.0	94.5	96.9

5. 令和7年度別要介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	0	0	0
65歳以上～75歳未満	475 (17)	699 (23)	3140 (11)	1488 (51)
75歳以上～85歳未満	1133 (40)	4175 (141)	1283 (43)	6591 (224)
85歳以上～95歳未満	3797 (128)	6827 (230)	2371 (80)	12995 (438)
95歳以上	357 (12)	1863 (62)	692 (23)	2912 (97)
100歳以上	0	933 (31)	313(11)	1246 (42)
合計	5762 (197)	14497 (487)	4973 (168)	25232 (852)

前半の数字は延べ日数、() 内の数字は実人数を示しています。

6. 令和7年度 事故分類別発生者数

	A	B	C	合計
合計	0	2	176	178

Aランクの事故

なし

7. 令和7年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	2	0	1	2	2	0	7
病院	0	0	0	0	0	0	0
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	1	2	2	0	7
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	2	3	1	2	1	3	19
病院	0	0	0	0	0	0	0
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	1
合計	3	3	1	2	1	3	20

サンライフ土山ショートステイ

令和7年度 事業報告書

本年度は、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症を持ち込むことはなく、営業することができた。

人材育成については、職員の入れ替わりが多く、難しかった。引き続き仕事の適切な割り振りを行ない、指導も続けていく。また変わらず報告、連絡、相談が疎かなままなので、個別に指導を行なっていくこととする。

レクリエーションについても、職員の入れ替わりが多く、企画書を提出して行なうようなレクリエーションはできなかったのもので、次年度への課題としたい。

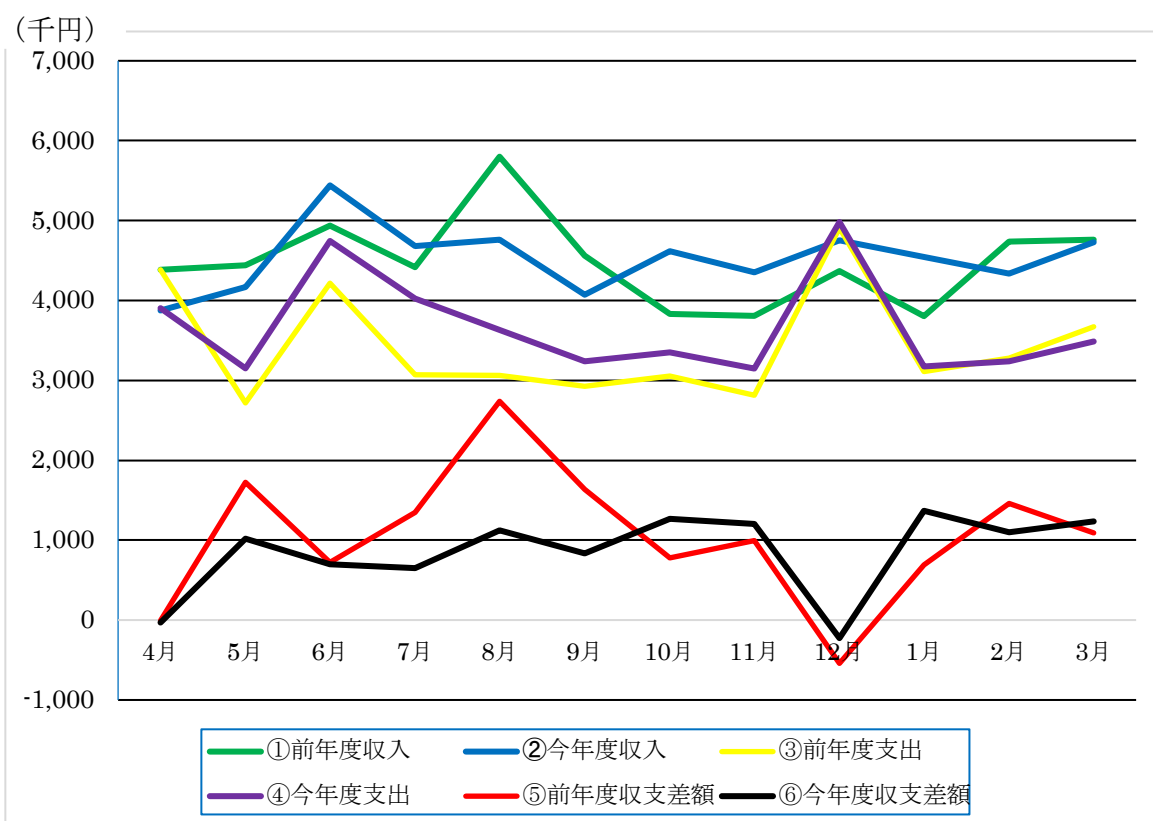
事故については、数は増加しており、前年度同様の同じ利用者様の繰り返しの事故や入院になる事故も発生しているため、引き続きできる範囲での対策を講じていく。

収入面に関して、目標である稼働率は達成することはできた。ただ月により稼働率の差が大きく、前年度同様、急なキャンセルの際の穴埋めをスムーズに行なうことができるよう努めていく。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	4,385	4,441	4,939	4,420	5,800	4,564	28,549	—
② 今年度収入	3,875	4,168	5,441	4,678	4,762	4,071	26,995	94.56
③ 前年度支出	4,388	2,718	4,213	3,074	3,062	2,929	20,384	—
④ 今年度支出	3,904	3,151	4,744	4,027	3,635	3,237	22,698	111.35
⑤ 前年度収支差額	-3	1,723	726	1,346	2,738	1,635	8,165	—
⑥ 今年度収支差額	-29	1,017	697	651	1,127	834	4,297	52.63
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	3,830	3,810	4,366	3,804	4,737	4,760	53,856	—
② 今年度収入	4,615	4,349	4,756	4,544	4,340	4,727	54,326	100.8
③ 前年度支出	3,052	2,815	4,908	3,110	3,280	3,673	41,222	—
④ 今年度支出	3,349	3,148	4,982	3,176	3,241	3,490	44,084	106.9
⑤ 前年度収支差額	778	995	-542	694	1,457	1,087	12,634	—
⑥ 今年度収支差額	1,266	1,201	-226	1,367	1,099	1,237	10,242	81.0



2. 令和6年度・令和7年度 利用人数比較

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
6年度実績	314	307	347	385	335	316	2,004
7年度実績	275	348	320	334	328	299	1,904
前年との差異	-39	41	-27	-51	-7	-17	-100
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6年度実績	290	253	280	314	305	318	3,764
7年度実績	319	315	321	308	284	328	3,779
前年との差異	29	62	41	-6	-21	10	15

3. 令和6年度・令和7年度 宿泊人数比較

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
6年度実績	279	266	305	338	293	278	1,743
7年度実績	239	310	275	282	278	251	1,635
前年との差異	-40	44	-30	-56	-15	-27	-124
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6年度実績	251	213	239	269	271	275	3,277
7年度実績	269	273	271	266	242	273	3,229
前年との差異	18	60	32	-3	-29	-2	-48

4. 令和6年度・令和7年度 月ごとの稼働率

(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率（6年）	104.6	99.0	115.6	124.1	108.0	105.3	
稼働率（7年）	91.6	112.2	106.6	107.7	105.8	99.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率（6年）	93.5	84.3	90.3	101.2	108.9	102.5	103.1
稼働率（7年）	102.9	105.0	103.5	99.3	101.4	105.8	103.4

5. 令和7年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満						4 (1)		4 (1)
65歳以上 ～75歳未満			215 (12)	11 (2)	38 (13)			264 (27)
75歳以上 ～85歳未満		6 (3)	154 (36)	11 (4)	534 (31)	63 (11)	46 (8)	814 (93)
85歳以上	2 (1)	13 (3)	515 (93)	560 (61)	488 (57)	568 (58)	551 (41)	2697 (314)
合計	2 (1)	19 (6)	884 (141)	582 (67)	1060 (101)	635 (70)	597 (49)	3779 (435)

前半の数字は延べ日数、() 内の数字は実人数を示しています

6. 令和6年度・令和7年度 事故件数比較

	A	B	C	合計
事故件数（6年）	2		35	37
事故件数（7年）	1		43	44

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

R7年度

A 左大腿骨転子部骨折

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和7年度 事業報告書

令和7年度は、医務については6名でスタートを切り増減なく他職種協働のもと勤務することができた。令和7年度ささゆり会のスローガンである「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行」のもと業務に邁進することができた。

安心・安全な医療・看護提供を最優先に各種業務において、日進月歩で変化する医療・看護技術の習得や情報収集に努め、体調不良者等発生時には、適切な観察や治療により健康状態の早期回復に努め入所者様の安心・安全に寄与した。また各種業務において、疑義があった場合は他部署を含め担当者と確認・調整等行い、情報の共有に留意し「全てを自分の問題として捉え」業務を実行することができた。

健康的に治療を要する等の新入居者様も多く、厚生病院、心療内科、および皮膚科の各施設医への回診にて治療や報告・連絡・相談、家族様への連絡等の実施や入居前に受診されていた病院等への確認や調整することが多くなり、また体調急変者の受診付き添いや入・退院者への対応等がある中で、業務の効率化として、各施設医と調整のもとFAX・画像などを使用したオンラインによる早期受診に努め、体調不良者の重篤化の軽減に努めるとともに、付き添い職員の時間的拘束が減少した分、フロアへの滞在時間を増やすことができた。

食事介助や口腔衛生についても、6月から長瀬歯科が加わり上野歯科との両医師、歯科衛生士との連携のもと、入所者様個々の状態の把握、必要な食事形態の提供や介護職員・他の職員との連携・協働により、口腔トラブル防止に努めることができ、今まで以上に、より細かいケアの実施により誤嚥防止指導に積極的に関与できた。また口腔ケアの実施や講習により口腔衛生全般の向上に取り組むことができた。

「ひとり一人が改善実行」のもと日々各種業務の簡素化・効率化に留意した。特に業務改善事項として、感染症委員会と協働で感染症物品倉庫の整理整頓・物品表示表を作成し物品配置が瞬時に分かるよう工夫し、バイタル測定機器を統一したかごを購入し置き場を作成、一目で使用状態が分かる様創意工夫を行い見える化に努めた。また各階に感染症物品を一箱に入れ、夜間や介護職員が少ない時間帯でも早期の対応が可能となった。感染対策を行うことで、介護職員の労力軽減が図れた。医務として入所者様健康管理表を作成し禁忌薬品や感染症の有無、特異な医薬品等の内服有無、看取り意向等一表化し毎月更新し医務・介護士に配布し意識の統一化、業務の効率化が図れた。その他の医務業務についても検討を何度も行い日々の業務に要する時間を減少させることができた。時間の短縮や効率化により、わずかな時間でもフロアに出向き、介護職員・入居者様とコミュニケーションを図り、医務としてのニーズの取得に留意した。

医務業務能力向上の為、各種研修にも積極的に参加し、医務内でのワンポイント教育等で知識・技術の習得に努め、医務職員「心一つ」で入居者様対応が出来、家族様や施設に貢献できた。

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和 7 年度 事業報告書

令和 7 年度は栄養マネジメント強化加算におけるミールラウンドを強化し、より利用者様にあった食事形態で提供できるよう努めた。また、食材費が高騰する中で少しでも価格を抑えられるよう食材の見直しを行った。

栄養マネジメント強化加算については、令和 8 年 3 月末現在、低栄養状態のリスクが高リスク及び中リスクに該当する利用者様は全体の 46% (32 名) に当たり、令和 7 年 3 月時点の 51% (36 名) と比較すると 5%改善した。また、算定要件にある週 3 回以上のミールラウンドはなかなか厳しいながらもなんとか実施できている。ラウンド対象者が減った分、低リスクの方にも少しずつ目を向けられるようになったと思う。

食材費の高騰に対しては、調味料類の見直しを一斉に行い味も考慮しながら価格の安いものに変更した。また、価格の高い魚や野菜の使用を控えて献立作成を行った結果、食材に偏りが生じマンネリ化傾向にあったが、2 週間に 1 度の頻度で新しいメニューを取り入れ、味付けを大きく変えることで味のバリエーションを増やした。そして、1 度きりになってしまったメニューも多くあるが、定着したメニューも数多くあり献立の幅が少し広がった。

その他に、食材料費を少しでも抑えるため麺料理の提供回数を月 2 回に増やし、肉の代替として大豆ミートの使用を開始した。月 2 回の麺料理に関しては「次はラーメンが食べたい。」とリクエストをいただくこともあり、利用者様からの反応が良いように思う。大豆ミートの使用に関しては、下処理の仕方で豆臭さが残ったり食感が悪くなったりと安定した状態で提供することが難しく、まだまだ改良の必要がある。

非常食については、2025 年に賞味期限を迎えるものが複数あったが、計画的に献立に組み込み廃棄することなく消費できた。また、非常食献立 (ミキサー食) の一部見直しを行った。

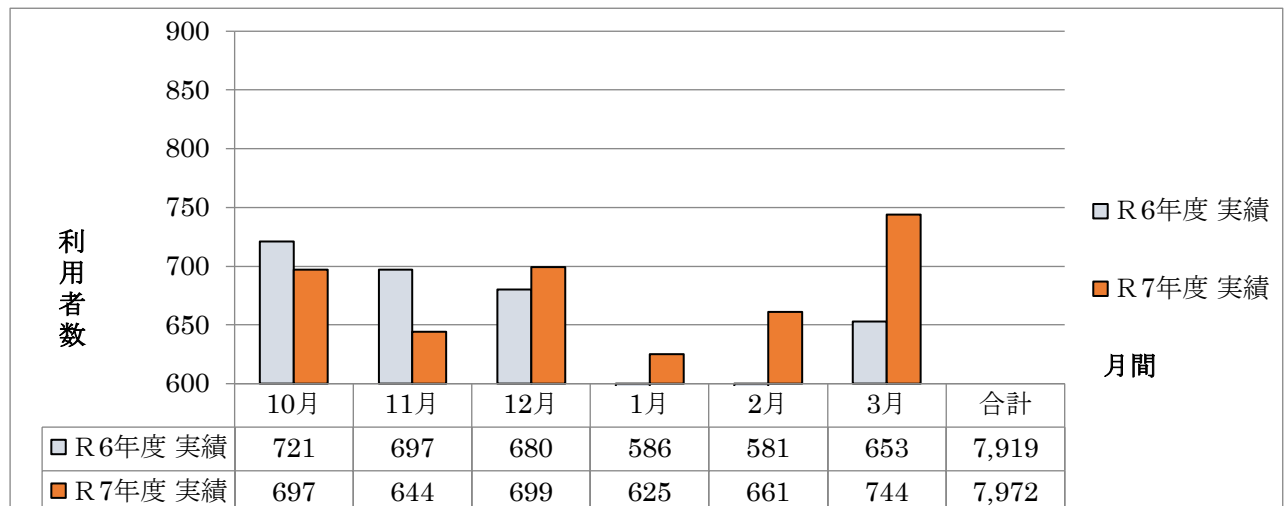
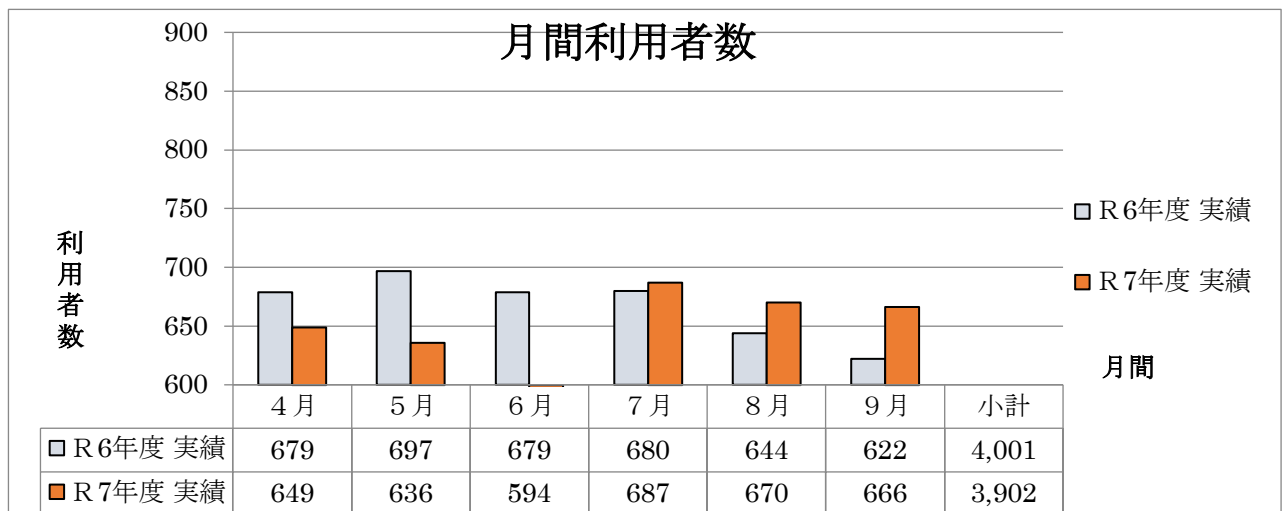
人員については、6 月から新たに 1 名入職し上半期は比較的安定していたが、12 月末に 1 名退職されてからは、新しい職員の採用には至らず不足した状態である。また、70 歳を過ぎた高齢の職員が 1 名在籍しており、いつ退職されてもおかしくない状態にある。そのため、新規職員の採用に努めるとともに既存の職員で協力し、厨房運営に支障をきたさないようにしたい。

デイサービスサンライフ土山

令和7年度 事業報告書

感染対策を継続することで、クラスターを出すことなく、デイサービスを営業することができた。隔週の外出レクリエーションを毎月継続して行うことができた。また、希望者には買い物外出を月1回実施することで利用者様が外に出る機会を増やすことに努めた。機能訓練や体操、レクリエーションを実施することで残存能力維持や意欲向上に努めた。利用者人数が1月になるまであまり伸びず月平均利用者数は25.7名で、目標の28名を達成出来なかった。収入面では前年度に比べて増加となった。支出面でも送迎車を7月に新しく購入した結果、前年度とほぼ同じ金額になった。結果収支差額は前年度より180万円程増加した。今後は職員で役割分担を行い、計画的な営業活動を積極的に行う。また介護支援専門員・他事業所・家族様との連携を図り、新規顧客の獲得に繋げていきたい。既存の利用者様においては、新しい外出先やイベントを企画することで、楽しみがもてるように努めていきたい。

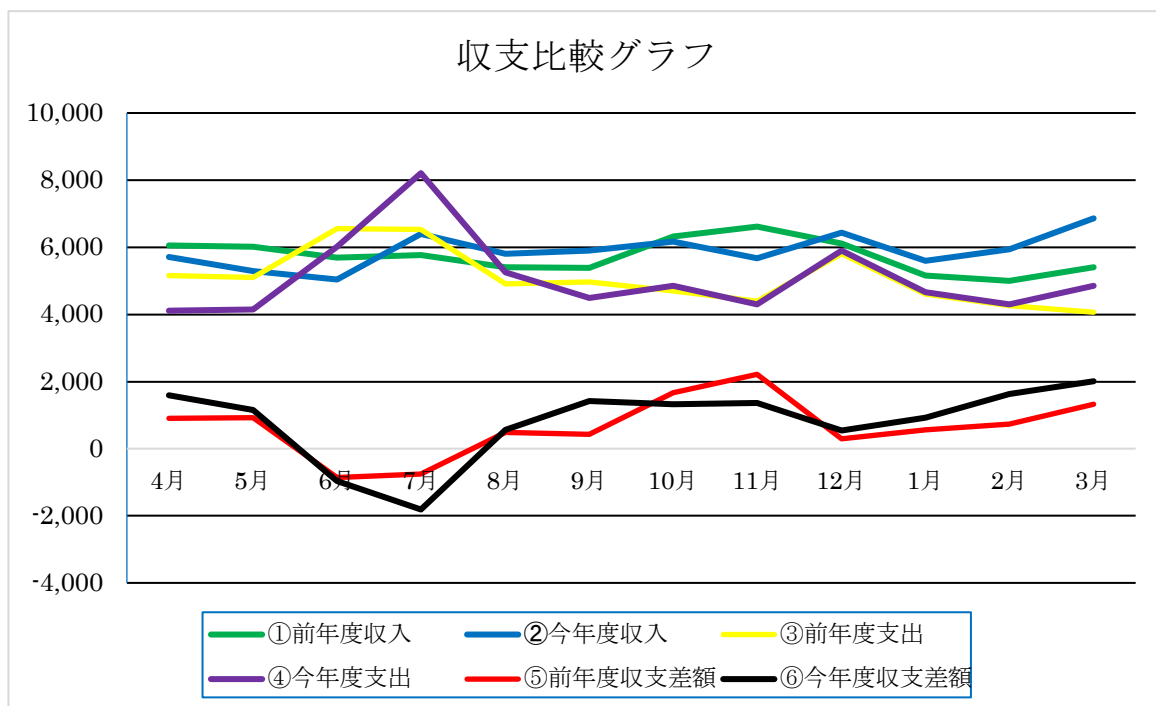
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	6,053	6,022	5,696	5,775	5,397	5,378	34,321	—
② 今年度収入	5,701	5,295	5,039	6,395	5,814	5,905	34,149	99
③ 前年度支出	5,151	5,102	6,556	6,540	4,917	4,958	33,224	—
④ 今年度支出	4,111	4,147	6,007	8,208	5,260	4,495	32,228	97
⑤ 前年度収支差額	902	920	-860	-765	480	420	1,097	—
⑥ 今年度収支差額	1,590	1,148	-968	-1,813	554	1,410	1,921	175
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	6,329	6,616	6,104	5,163	4,999	5,397	68,929	—
② 今年度収入	6,176	5,669	6,433	5,591	5,931	6,862	70,811	102
③ 前年度支出	4,699	4,402	5,815	4,600	4,261	4,065	61,066	—
④ 今年度支出	4,852	4,303	5,894	4,670	4,301	4,854	61,102	100
⑤ 前年度収支差額	1,660	2,214	289	563	738	1,332	7,893	—
⑥ 今年度収支差額	1,324	1,366	539	921	1,630	2,008	9,709	123



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
65歳未満				132 (12)			68 (8)		200 (20)
65歳以上 75歳未満		121 (16)	46 (12)	51 (14)	39 (6)		13 (2)		270 (50)
75歳以上 85歳未満		34 (8)	439 (63)	958 (81)	227 (21)	375 (43)	180 (26)	147 (13)	2360 (255)
85歳以上	43 (6)	365 (81)	356 (46)	1913 (165)	850 (85)	1016 (100)	553 (58)	46 (6)	5142 (547)
合計	43 (6)	520 (105)	841 (121)	3054 (272)	1116 (112)	1391 (143)	814 (94)	193 (19)	7972 (872)

前半の数字は延べ回数、（ ）内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度（R8年3月現在）

職員 15 名（正職員 4 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 8 名）

個別機能指導員（看護師）1 名含まない

	営業日 数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	649	1820.3	24.9	10.7	2.32	8.8	2.83
5 月	27	636	2142.5	23.5	12.1	1.93	9.1	2.57
6 月	25	594	1908	23.7	11.2	2.10	8.0	2.96
7 月	27	687	2090.5	25.4	11.9	2.13	8.5	2.97
8 月	26	670	1995	25.7	11.3	2.26	8.1	3.14
9 月	26	666	2026.8	25.6	11.9	2.15	8.6	2.96
10 月	27	697	2056.5	25.8	11.6	2.21	8.4	3.04
11 月	25	644	1894.8	25.7	11.1	2.30	8.0	3.19
12 月	27	699	2142.2	25.8	12.1	2.13	8.8	2.94
1 月	24	625	1971	26	11.2	2.32	8.1	3.18
2 月	24	661	1882.75	27.5	11.9	2.29	8.7	3.15
3 月	26	744	2113.8	28.6	12	2.38	8.7	3.25

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和 7 年度 事業報告書

令和 7 年度は、新規獲得もコンスタントに依頼があり売り上げ増となった。新規利用者獲得の為、毎月営業活動を行い平均的に利用者も増え、営業活動の結果が出ている。新規依頼は、要支援の利用者がまだまだ多いが、地域包括支援センターとの連携により、要介護者の新規依頼も確実に増えてきている。困難事例であっても、各事業所・地域包括と連携し解決出来るよう、事業所全体で取り組みを行なってきた。今後も地域で必要とされ信頼される居宅介護支援事業所になるよう、介護支援の専門職であると意識し、営業活動に取り組んでいくと共に、利用者のニーズに沿ったプランが提供できるように継続して取り組みを行なう。

1. 営業・新規獲得実績

(単位 : 件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
営業実績	12	10	4	12	14	12	64
新規獲得	5	7	2	7	5	4	30
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
営業実績	13	12	8	8	8	8	121
新規獲得	5	5	3	2	7	5	57

2. 居宅介護料収入

(単位 : 千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度	893	879	971	962	898	851	5,455
令和 7 年度	1,145	1,171	1,153	1,161	1,072	1,133	6,837
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	1,000	998	985	966	1,060	1,163	11,630
令和 7 年度	1,170	1,097	1,123	1,069	1,095	1,176	13,570

3. 予防委託料収入

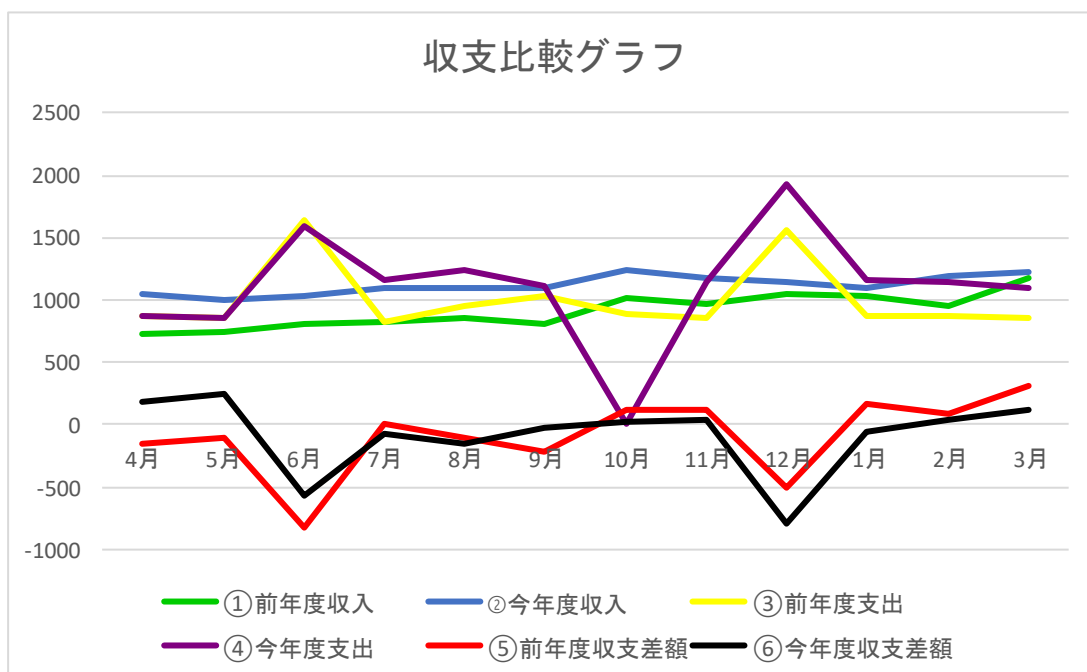
(単位 : 千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度	216	201	238	242	245	240	1,384
令和 7 年度	269	275	293	298	293	287	1,719
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	181	327	251	262	239	255	2,903
令和 7 年度	291	303	276	283	247	282	3,403

4. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	1,210	1,210	1,343	1,423	1,245	1,195	7,627	
② 今年度収入	1,653	1,537	1,619	1,459	1,423	1,461	9,154	120.0
③ 前年度支出	1,037	1,029	1,938	1,031	1,050	1,046	7,133	
④ 今年度支出	1,023	1,450	2,004	1,093	1,117	1,047	7,736	108.4
⑤前年度収支差額	137	181	-595	392	195	149	494	
⑥今年度収支差額	630	87	-385	366	306	414	1,418	287.0
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	1,262	1,393	1,359	1,392	1,435	1,560	16,031	
② 今年度収入	1,551	1,593	1,483	1,467	1,443	1,670	18,363	114.5
③ 前年度支出	1,063	1,008	1,988	1,093	1,191	1,723	15,202	
④ 今年度支出	1,115	1,063	2,034	1,105	1,095	2,315	16,467	108.3
⑤ 前年度収支差額	199	385	-629	299	244	-163	829	
⑥ 今年度収支差額	436	530	-551	362	348	-645	1,896	228.7

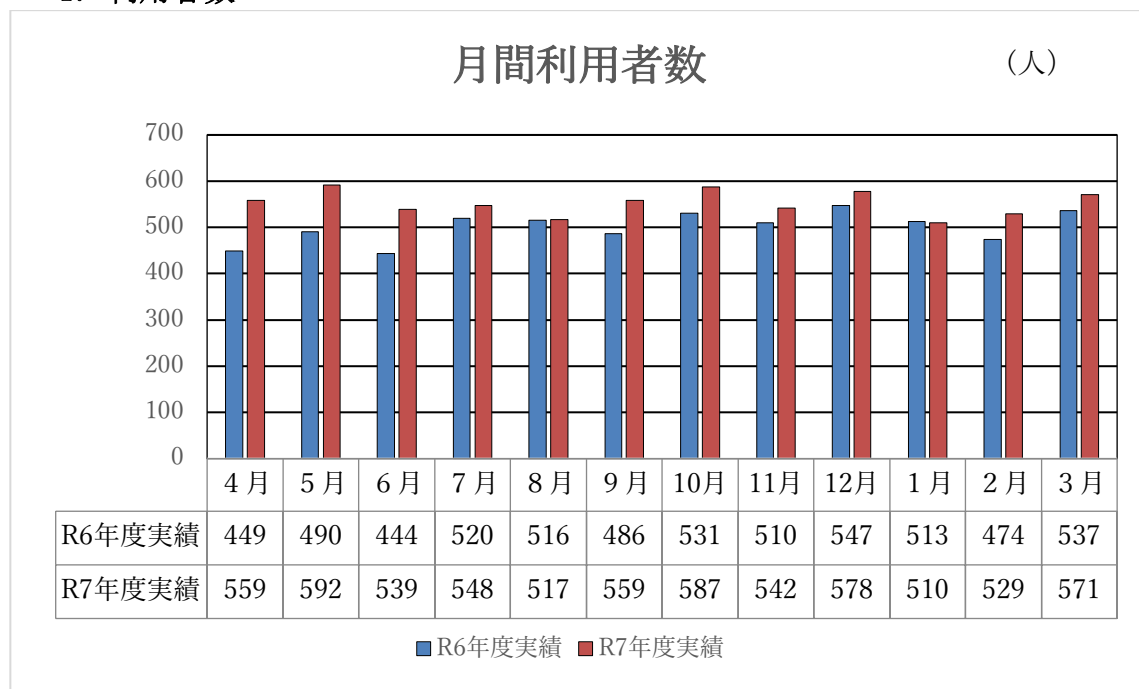


リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和7年度 事業報告書

令和7年度経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を
もとに、職員一人ひとりが主体的に課題に向き合い、小さな改善の積み重ねによるサービスの
質向上と利用者数の増加を目指した。リハビリ特化型デイサービスとしての機能を最大限
に発揮し「できることを増やす支援」と「楽しみながら続けられるリハビリ」を両立させる
ことで、利用者の“できる喜び”を支えることを大切にした。収入面では、月平均利用者数
21.4名となり、目標の20.1名を達成することができ、安定的な収入増につなげることがで
きた。一方、支出面では、非常勤職員の人件費に加え、網戸やトイレ、給湯設備、消防設備
等の修繕費の増加により支出増となったが、全体として収支差額は、前年度比171%となり、
収益面において一定の成果を上げることができた。今後も、職員一人ひとりが「自分たちの
行動が経営に直結する」という意識を持ち、主体的に改善提案を行う体制づくりを進めてい
く。利用者満足と職員満足の両立を図りながら、地域から選ばれ続けるリハビリ特化型デイ
サービスとして、安定した運営基盤の確立を目指す。

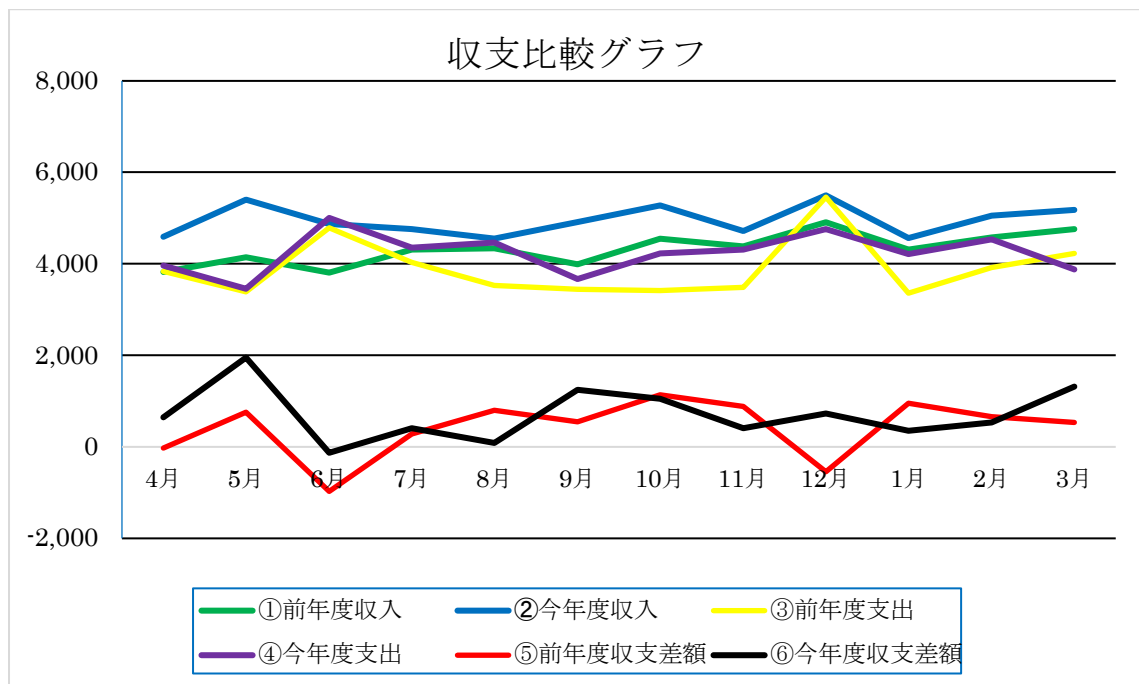
1. 利用者数



令和6年度実績 6,017人 令和7年度実績 6,631人 前年度比 110.2%

2. 年間収支比較

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
1 前年度収入	3,821	4,142	3,809	4,311	4,336	3,996	24,415	—
2 今年度収入	4,598	5,408	4,876	4,761	4,553	4,916	29,112	119%
3 前年度支出	3,841	3,390	4,782	4,028	3,534	3,445	23,020	—
4 今年度支出	3,959	3,456	5,005	4,355	4,472	3,668	24,915	108%
⑤前年度収支差額	-20	752	-973	283	802	551	1,395	—
⑥今年度収支差額	639	1,952	-129	406	81	1,248	4,197	301%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
1 前年度収入	4,553	4,378	4,910	4,315	4,573	4,761	51,905	—
2 今年度収入	5,284	4,724	5,498	4,562	5,058	5,186	59,424	114%
3 前年度支出	3,415	3,488	5,458	3,360	3,917	4,230	46,888	—
4 今年度支出	4,233	4,315	4,762	4,209	4,530	3,875	50,839	108%
⑤前年度収支差額	1,138	890	-548	955	656	531	5,017	—
⑥今年度収支差額	1,051	409	736	353	528	1,311	8,585	171%



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業 対象 者	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	合 計
65 歳未満				9 (1)	71 (9)	48 (12)	102 (12)		230 (34)
65 歳以上 75 歳未満		35 (8)	217 (29)	20 (5)	122 (17)	3 (2)			397 (61)
75 歳以上 85 歳未満	69 (8)	192 (50)	344 (52)	932 (105)	845 (87)	469 (72)	144 (17)		2995 (391)
85 歳以上	24 (3)	152 (37)	627 (83)	1416 (161)	451 (52)	80 (17)	233 (24)	26 (3)	3009 (380)
合計	93 (11)	379 (95)	1188 (164)	2377 (272)	1489 (165)	600 (103)	479 (53)	26 (3)	6631 (866)

前半の数字は延べ回数、() 内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R8 年 3 月末現在)

職員 19 名【内訳】正職員 2 名 非常勤職員 17 名

							個別機能指導員 1 名含まない	
	営業 日数	利用者/月	職員総時間数/ 月	利用者/日	職員/月	職員一人 対	職員/月	職員一人 対
4 月	26	559	1,297	21.50	7.6	2.8	6.6	3.3
5 月	27	592	1,364	21.93	7.7	2.8	6.7	3.3
6 月	25	539	1,398	21.56	8.2	2.6	7.2	3.0
7 月	27	548	1,503	20.30	8.5	2.4	7.5	2.7
8 月	26	517	1,405	19.88	7.9	2.5	6.9	2.9
9 月	26	559	1,434	21.50	8.4	2.6	7.4	2.9
10 月	27	587	1,675	21.70	9.5	2.3	8.5	2.6
11 月	25	542	1,373	21.70	8.0	2.7	7.0	3.1
12 月	27	578	1,532	21.40	8.7	2.5	7.7	2.8
1 月	24	510	1,441	21.25	8.1	2.6	7.1	3.0
2 月	24	529	1,440	22.08	9.0	2.5	8.0	2.8
3 月	26	571	1,560	22.35	8.8	2.5	7.8	2.9

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和7年度 事業報告書

令和7年度ささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人一人が改善実行！」に沿って、業務の課題を明確にし、5Sや改善活動による業務の効率化に努めた。

間接業務時間を短縮し、心に余裕を持ち質の高いサービスを提供できるように、補助金申請を行い、眠りスキャン・眠りスキャン eye 等の見守り機器やタブレットやスマートフォンで記録が出来る介護支援ソフトケアカルテ等 ICT 機器の導入を行った。感染予防に努めながらも、居室での面会、外出及び外泊を再開し、開かれた施設になるように努めている。虐待予防の研修や体制の維持、病院との連携体制の維持継続、非常災害 BCP の研修や訓練を行い、安心して安定した介護サービスを継続して提供できるように努めている。また、電気代・ガス代・食材費などの高騰が続いている為、節約活動を継続している。地域貢献として、多人数と関わり、一緒に食べる喜びを感じ食育に繋がるレストランテ・ボーノを運営している。

1. 人材育成について

外国人職員を含めすべての職員に居室担当を決め、家族への意向確認やケアプランの原案を日本人職員と一緒に作成することで、介護職としての意識と自覚を持たせている。

2. 介護の質について

I. 生産性向上の取り組み

施設全体での 5S 活動を行い、生産性向上委員会では改善活動に取り組んでいる。申し送り時間の短縮として紙ベースでの申し送りに変更することで、時間短縮が適い直接介護の時間を増やすことが出来た。ただ、ご利用者に対しての大きな問題は生じていないが、用紙の内容確認不足による伝達ミスがいくつか生じた。QC 活動では『ケース記録時間のばらつきを無くす』をテーマにした活動を行った。時間だけでなく内容のばらつきも軽減された。補助金申請を行い、眠りスキャン・眠りスキャン eye・ケアカルテを導入することが出来た。さらに電話交換機を交換することでスマートフォンでの記録や職員間の連携強化となった。

II. 余暇活動支援について

近隣の水尾川へお花見散歩を行った。市役所の期日前投票への外出を企画し参議院選挙に3名参加することが出来た。手作りおやつや月1回の誕生会を開催して楽しんで頂いた。秋には運動会、冬にはクリスマス会や寄せ鍋での忘年会等季節に応じたイベントを企画した。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染対策の強化

感染症委員会が主体となり、ガウンテクニックの指導とチェックを行った。感染症委員で研修資料を作成し10月に5類感染症であるコロナ対応及びBCPとして2類感染症に対するゾーニング訓練や初動の物品場所を確認した。2月にノロウイルスに対する感染予防対応研修を行い、事業を継続できるよう努めている。

II. 自然災害 BCP

7月に水災害、11月に地震災害によるBCP避難訓練及びchatwork及びメールを使用した情報共有訓練を実施した。

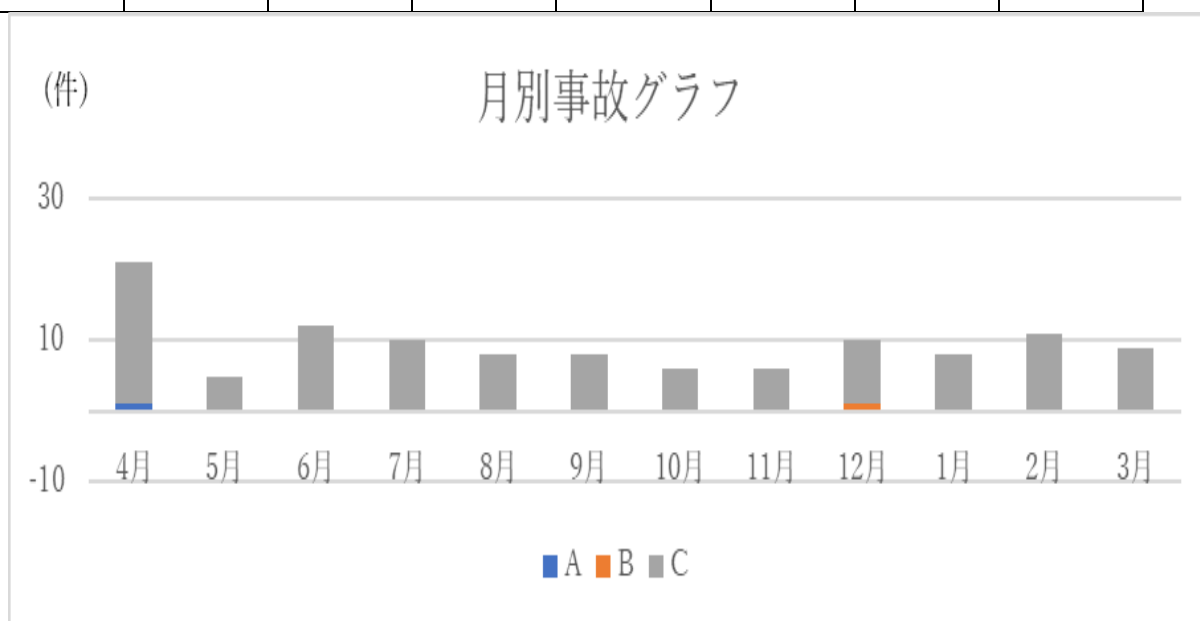
III. 事故について

A ランク事故として、双極性障害の方が躁状態になり歩けると思い込み車椅子から転落し大腿骨頸部骨折の為入院・手術を行う事故が1件あった。体調に応じた服薬調整を行うことで再発予防に努めている。

●事故件数

(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
総数	21	5	12	10	8	8	64
A	1	0	0	0	0	0	1
B	0	0	0	0	0	0	0
C	20	5	12	10	8	8	63
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総数	6	6	10	8	11	9	114
A	0	0	0	0	0	0	1
B	0	0	1	0	0	0	1
C	6	6	9	8	11	9	112



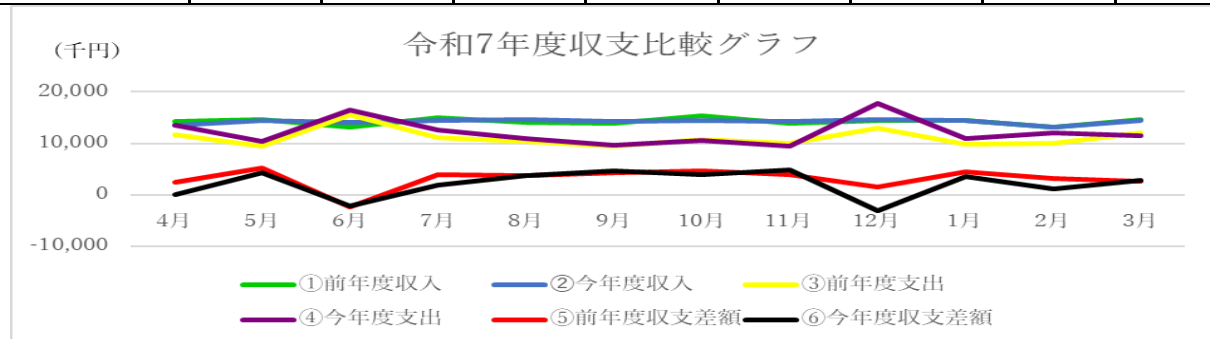
4. 健全経営（収入・支出等）

稼働率は入院者が増加したが早期退院を勧めることで前年度と同様目標値である 98%には到達できた。また、看護師の人員を補うことで看護体制加算Ⅱを算定できている。収入としては昨年と比べほぼ同額となっている。支出面として、光熱水費は昨年と同様に施設全体で節電や節ガス、節水を行うことで使用量の削減は適った。しかし、インフレにより金額は前年と大きく変化はなかった。外国人職員増加によりくすのきの管理費が 20 万円程増額している。転居や自己都合退職による職員の入れ替わりが多く、管理栄養士・看護職員・介護職員の紹介手数料で約 170 万円程増加している。修繕費として 30 万円増加、電話交換機、西側駐車場のカメラの入れ替えを行い約 150 万円増加した。経費全体としては約 350 万円増加した。嘱託職員や非常勤職員への賞与、昇給による人件費が約 550 万円増加している。収支差額としては約 900 万円の減収となっている。

I. 収入差額

令和7年度 年間収入目標 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	14,191	14,613	13,104	14,944	14,170	13,835	84,859	-
②今年度収入	13,510	14,527	14,148	14,454	14,643	14,188	85,472	100.1%
③前年度支出	11,671	9,377	15,520	11,088	10,454	9,499	67,611	-
④今年度支出	13,488	10,293	16,431	12,660	10,985	9,556	73,415	108.5%
⑤前年度収支差額	2,520	5,236	-2,416	3,856	3,716	4,336	17,248	-
⑥今年度収支差額	22	4,234	-2,283	1,794	3,658	4,632	11,444	66.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	15,339	13,961	14,424	14,389	13,209	14,665	170,849	-
②今年度収入	14,454	14,203	14,685	14,414	13,183	14,402	170,817	99.9%
③前年度支出	10,778	10,072	12,981	9,836	10,081	11,994	136,550	-
④今年度支出	10,546	9,423	17,744	10,864	12,063	11,521	145,579	106.6%
⑤前年度収支差額	4,561	3,889	1,443	4,553	3,128	2,671	34,299	-
⑥今年度収支差額	3,908	4,780	-3,059	3,550	1,120	2,881	25,238	73.5%



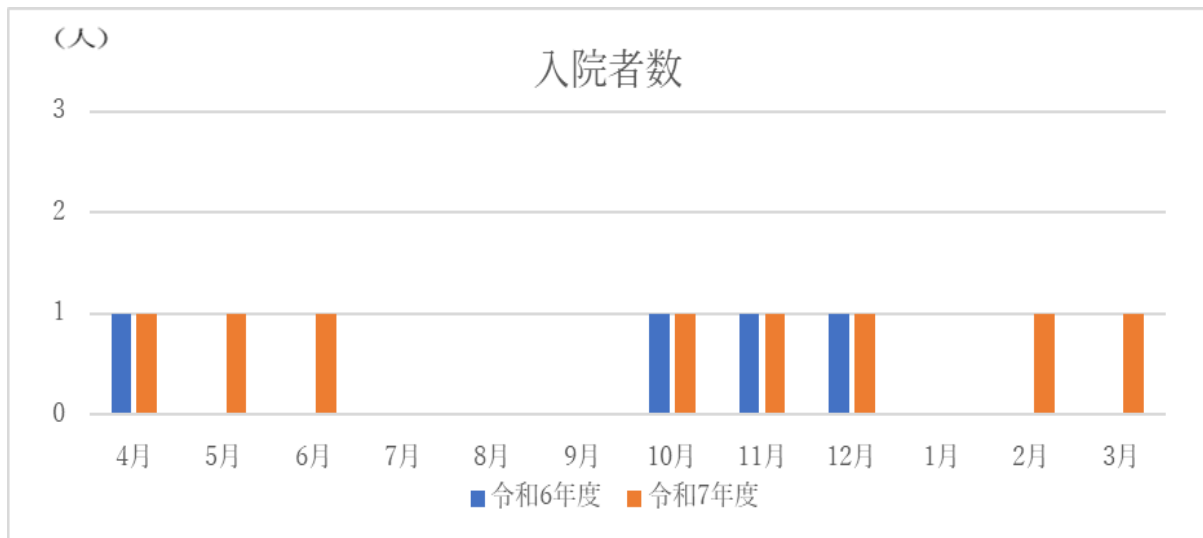
II. 入院者数

入院者数については、前年度が3名であったが今年度は11名となった。内容としては急性心不全、骨折、蜂窩織炎、肺炎、検査入院であった。早期退院をすすめることで機能低下を最低限に抑えることが出来た。施設ケアの力で食事摂取が適い、状態は安定している。

●入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
令和6年度	1	1	1	0	0	0	3	-
令和7年度	2	1	1	2	0	0	6	200%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	比率
令和6年度	1	1	1	0	0	0	3	-
令和7年度	1	1	1	0	1	1	11	366.6%



Ⅲ. 地域貢献

運営推進会議を2か月に1回開催、子ども食堂を月1回20名定員で開催している。低年齢の子ども参加が増え親の参加も増えている。8月は夏休みで利用者が減少している為中止となった。12月は例年通りテイクアウトで開催している。

5. ガバナンスについて（虐待・パワハラ・セクハラ・法令順守・就業規則等）

ささゆり会姫路グループで実施している虐待防止委員会を定期的に開催し、全体研修を実施している。理事長から虐待についての説明や、社会保険労務士、顧問弁護士による研修を全職員に実施することで効果的な虐待予防に取り組んでいる。

心理士による職員相談は昨年度で終了することとなった。

毎月、管理者が加算要件の確認を行い過誤にならないように注意をしている。

サンライフ西庄ショートステイ

令和7年度 事業報告書

令和7年度ささゆり会経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」をもとに作業時間におけるムダの真因を見つけ業務の効率化を行いたい。効率化によりできた時間を活用し余暇活動やリハビリ等の利用者支援に使用したい。また、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを進める為、外国人職員・リーダー・個々の職員に対して責任を持たせ、情報共有できる体制を整えることで、より良いサービスが提供できる人材育成に努めたい。感染症対応の研修を定期的に行い、災害も含めたBCPの研修も行いたい。また、物価上昇が続いている為、ムダを省き対策を行い、支出を抑えていける取り組みを継続する。

1. 人材育成について

外国人職員にも居室担当を決め、日本人職員と一緒にケアプランの原案を考え作成していくことを目標に実際に取り組んだ。内容に関しては訂正箇所が多いが、記入する内容については理解できている。また、会話面でも必要最低限の会話のみになっており、積極的に会話ができている状況。家族様と会話ができるよう引き続きサポートしたい。

2. 介護の質について

I. 生産性向上について

眠りスキンの全室導入や介護ソフト等の導入を行った。また、5S活動は継続できている。

II. 余暇活動支援について

ユニットで毎日実施しているラジオ体操や月1回の行事等は実施できている。

また、レクリエーションの回数を増やすようにと考えていたが回数は増えていない。時間を見つけて個別で施設周辺の散歩は実施できた。今後も職員間でレクの内容を検討し、工夫することで活動量や参加率を上げ、充実させたい。

III. 情報共有について

ユニット会議やフロア会議を定期的に行うことができた。今後も継続することでスタッフ間の情報共有を図りたい。また、短時間での引継ぎに取り組んだが情報の確認不足が増えた。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染症への体制強化

感染対応について日々変化していく中で、外部研修への参加はできていない。マニュアルには随時更新できている。今後も市及び保健所からの情報を収集しマニュアルの更新を行う。また、感染対策について相談し、無駄なものは省き必要な対応だけに絞りたい。

感染対応のガウンテクニックは看護師によるチェックを行った。今後も適切に行えるように定期のチェックや新規職員への指導を継続したい。

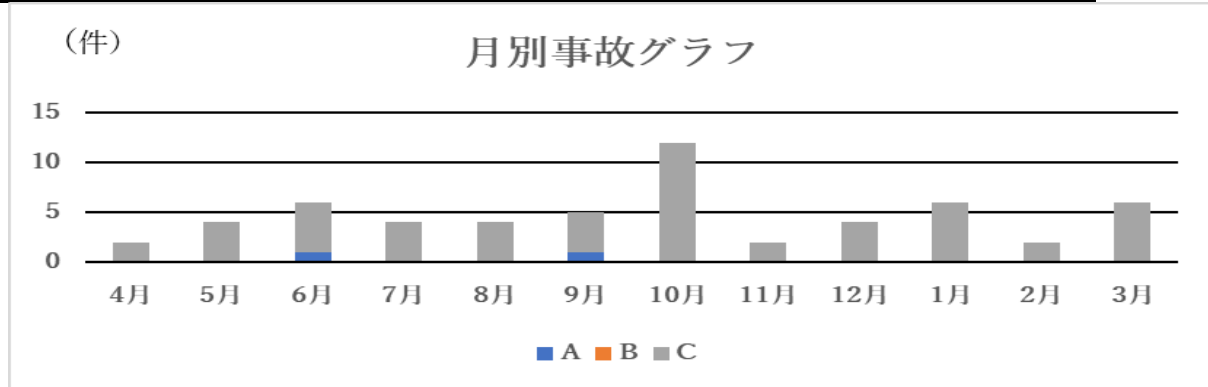
II. BCPについて

感染症や自然災害が発生した場合、入居者に対して適切な介護が提供できるようにBCPの確認・変更及び備蓄品の管理を行った。また、感染症BCP訓練を実施したが、全員が理解できていない部分があった。

●事故件数

(単位：件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	2	4	6	4	4	5	25
A	0	0	1	0	0	1	2
B	0	0	0	0	0	0	0
C	2	4	5	4	4	4	23
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	12	2	4	6	2	6	57
A	0	0	0	0	0	0	2
B	0	0	0	0	0	0	0
C	12	2	4	6	2	6	55



4. 健全経営 (収入の確保と支出)

加算については前年度と同じ加算が取得できた。ロングショート待機者の確保についてはタイミングが合わず入所に時間を要し、今年度の稼働率は96.7%だった。引き続き空床のFAXを居宅や病院等に随時送り、入所率98%以上を目指したい。

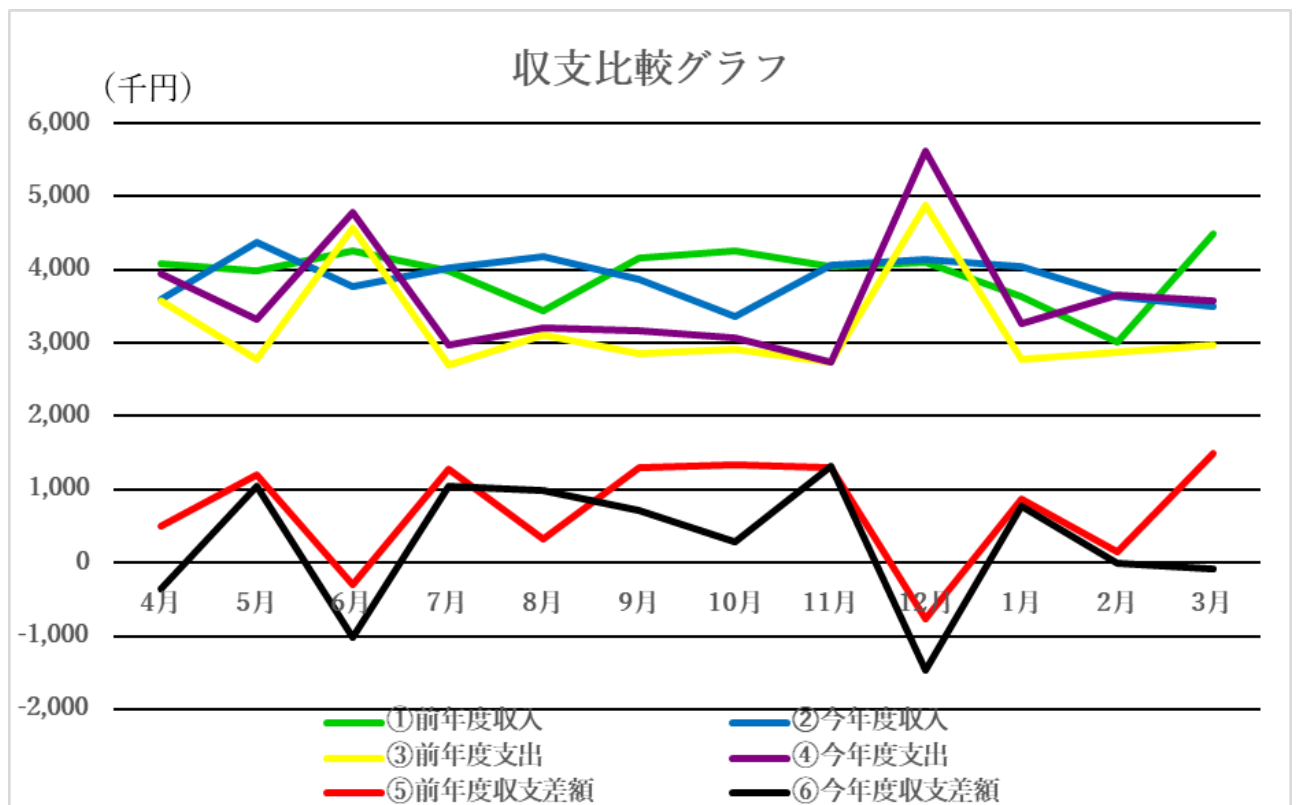
支出面としては電気、ガス、水道の使用量の節約を行い減っているが、料金が上がっている為支出が増加した。その他物価高騰により食材費も上がった。

また、職員の入れ替わりにより外国人職員の紹介料や派遣職員の雇用で人件費が156万円増えた。その他の支出として電話設備整備費や駐車場の防犯カメラの交換があり増加した。

●令和7年度収支

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	4,086	3,990	4,260	3,986	3,440	4,159	23,921	
②今年度収入	3,598	4,382	3,773	4,031	4,185	3,867	23,836	99.64%
③前年度支出	3,586	2,784	4,566	2,700	3,116	2,853	19,605	
④今年度支出	3,948	3,329	4,786	2,982	3,201	3,162	21,408	109.19%
⑤前年度収支差額	500	1,206	-306	1,286	324	1,306	4,316	
⑥今年度収支差額	-350	1,053	-1,013	1,049	984	705	2,428	56.25%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,259	4,047	4,101	3,645	3,019	4,485	47,477	
②今年度収入	3,361	4,058	4,143	4,047	3,635	3,496	46,576	98.1%
③前年度支出	2,923	2,745	4,873	2,776	2,877	2,982	38,781	
④今年度支出	3,078	2,738	5,618	3,270	3,650	3,578	43,340	111.75%
⑤前年度収支差額	1,336	1,302	-772	869	142	1,503	8,696	
⑥今年度収支差額	283	1,320	-1,475	777	-15	-82	3,236	37.21%



5. ガバナンスについて

法人全体の虐待防止研修は職員全員が受けることができた。虐待や不適切ケアに対する知識を深めた。負担が大きい利用者に対する介助方法の検討をユニット会議で話し合った。職員に対しては過度に負担がかからないような体制を構築し、虐待や不適切ケアが生じないように小さなことでも相談するようにリーダーが中心となり会議で声かけを行った。介助に関してはユニット職員で統一した介助ができた。

グループホームサンライフ西庄

令和7年度 事業報告書

令和7年度では、6年度から引き続き「全てを自分の問題として捉え一人ひとりが改善実行」のスローガンをもとに職員間で些細な問題や情報の共有が気軽に出来る環境作りに努めた。外国人職員も増えたこともありコミュニケーションを大切にして、外国人職員をはじめ、どの職員もが分かるまで何度でも気軽に尋ねられるチーム作りを行ったが望む成果として少し物足りない。ケアカルテ、ICT導入により新しい取り扱いに悪戦苦闘する職員もいたが、負担軽減となる事を理解し慣れ親しむように努力をしている。

1. 人材育成について

I. 特定技能実習生が4月、7月、9月と3名入職し介助技術の習得に励んだ。日本語がまだまだ未熟なことから細かな事を伝えるのに互いに何度も言い直しをしていたが、ユニットで同じ説明を丁寧に繰り返し指導するなど、根気よく伝え理解度を上げる努力をした。今では電話対応も出来る様になった。

II. 職員各々の介護力、知識の向上を目標に認知症基礎研修に1名、介護支援専門員実務研修にそれぞれ1名受講した。まだまだ資格取得に関心のない職員もいるが、いい刺激を受け合えるように資格取得に向けて、今後も声掛けを続ける。

III. 非常勤職員数名が夜間の勤務、遅出の勤務が可能となり、職員の勤務出来るシフトが増えている。非常勤職員の理解と協力でシフトも作りやすくなった。職員にとっては入居者様の違う面も伺え介助時の参考やコミュニケーションに役立っている。

2. 介護の質について

介護保険の基本でもある自立支援を念頭に、残存機能の維持を意識し生活リハビリを中心とした介護支援を行っている。『出来る事を職員が奪わない』誕生日会でのケーキ、普段のおやつ、または工作レクなどで好きな色や形を自身で決めるなど自己選択、自己決定のできる機会を増やした。職員の間でも意識が浸透し決めることが出来なくてもまずは聞いてみよう、との声が聞こえる様になった。技能実習生においては、業務優先となり、入居者様の対応は行うが自らすすんでのコミュニケーション等が少ない傾向があるので指導を行った。

3. リスクマネジメント

I. 転倒事故により手術入院となった1件と、2年前の総胆管結石の再発のための治療入院と合わせて2件の入院があった。転倒事故については見守りが不十分な点もあり家族様よりお叱りの言葉と治療費の請求が発生した。身体状態、精神状態に留意し、今後もヒヤリハットに上がる情報を共有しチームで防げる事故は防ぐことに取り組んだ。

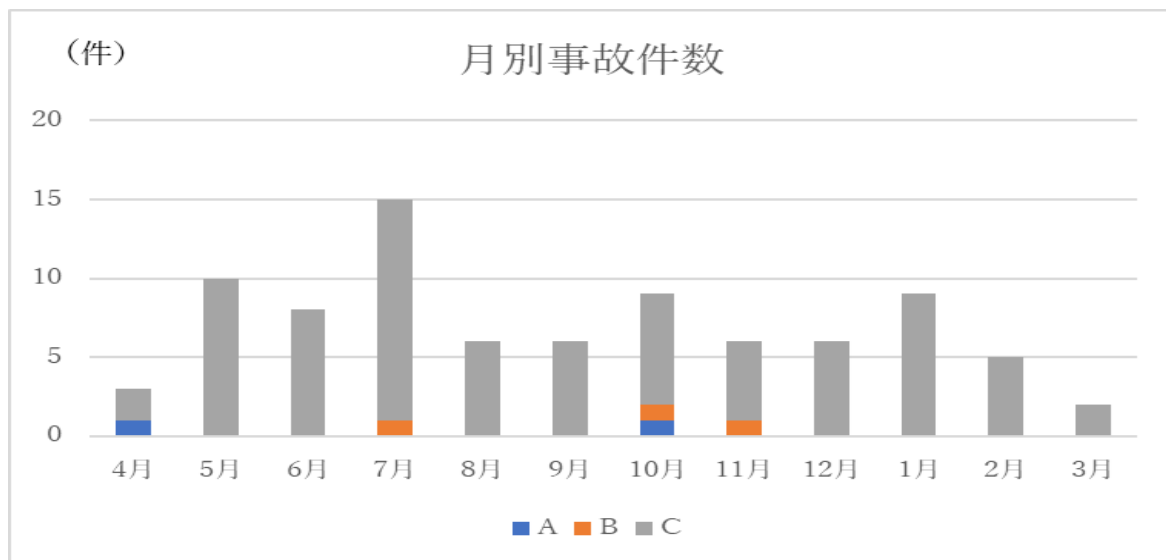
II. 面会がコロナ前のように各居室にて行う事が出来るようになり、面会に来られる回数が増え、多くの家族様に喜んで頂いている。ユニットの様子や職員の様子など家族様が近くで見て感じることで理解を得られているようだ。今後も大きなクレームとならないように普段から家族様との信頼関係を深めていく。

III. 感染症や自然災害の研修や訓練を行い必要に応じてBCPの見直しを行った。8月に入居者2名がコロナ感染したが、定期的なガウンテクニックのチェックを行っていたので感染者を増やすことなく、2週間で終息することが出来た。感染症委員会が中心となり研修も行った。

●令和 7 年度 事故件数

(単位：件)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
A	1	0	0	0	0	0	1
B	0	0	0	1	0	0	1
C	2	10	8	14	6	6	46
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
A	1	0	0	0	0	0	2
B	1	1	0	0	0	0	3
C	7	5	6	9	5	2	80



4. 健全経営（収入の確保と支出）

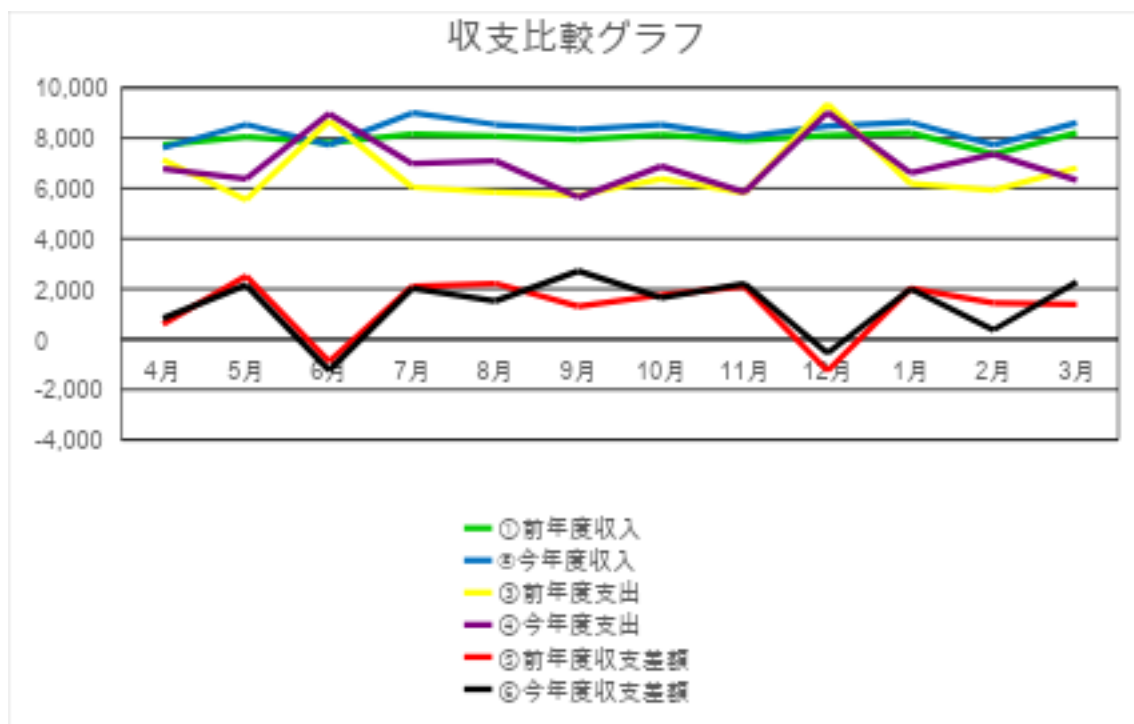
令和 7 年度 上半期では、5 月より家賃の値上げを行い収入の部分に於いて前年度より約 390 万円増える予定だったが、常勤職員 2 名、非常勤 2 名、特定技能実習生 1 名の退職と常勤職員 1 名の異動があり、人員配置が非常に困難となった。人員不足を解消するために新たに 3 名の特定技能実習生をはじめ、日本人職員の採用などで大きく人件費が膨らんでしまった。その他に職員のオリックス生命、トイレの水漏れ修理、駐車場防犯カメラの交換、電話設備の整備等で支出は前年度より 440 万円の増加となった。

R7 年度は 3 人 55 日の入院で、年間平均稼働率は 99%となった。賃上げ、物価上昇、外国人職員の経費と支出は膨らむ傾向にあったが、光熱費や消耗品の節約を節約委員会が中心となり行った。また、ICT 導入に関して多額の出費もあった。

●令和7年度 年間収支

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率 (%)
①前年度収入	7,726	8,052	7,810	8,145	8,063	7,935	47,731	
②今年度収入	7,612	8,542	7,733	8,995	8,540	8,350	49,772	104.2%
③前年度支出	7,123	5,536	8,692	6,045	5,842	5,728	38,968	
④今年度支出	6,784	6,386	8,972	6,975	7,092	5,638	41,849	107.3%
⑤前年度収支差額	603	2,516	-882	2,100	2,221	1,307	8,763	
⑥今年度収支差額	828	2,156	-1239	2,020	1,514	2,712	7,925	90.4%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
①前年度収入	8,139	7,920	8,096	8,216	7,357	8,209	95,668	
②今年度収入	8,521	8,061	8,465	8,622	7,734	8,607	99,782	104.3%
③前年度支出	6,387	5,820	9,350	6,197	5,918	6,817	79,457	
④今年度支出	6,876	5,844	9,016	6,616	7,359	6,324	83,884	105.5%
⑤前年度収支差額	1,752	2,100	-1254	2,019	1,439	1383	16,202	
⑥今年度収支差額	1,645	2,217	-551	2,004	375	2,283	15,898	98.1%



5. ガバナンスについて

昨年度より引き続き法人での虐待防止研修に事業所全職員で取り組んでいる。研修で得た教訓や知識を活かし、虐待に繋がる不適切ケアについても敏感になれている。特に言葉使いに関しては皆で注意をしながら自己を振り返る事が出来つつある。今期に入職した特定技能生たちの見本となるように今後も認識を深めて行く。

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和 7 年度 事業報告書

今後、中重度の高齢者が増加する事が見込まれ、多様化する入居者様のニーズに応えるために安定したサービスを提供していきたい。そのために、医療的な対応の強化と医療・介護の連携が必要となってくる。安全・安楽に過ごせるよう入居者様の体調管理や日々の観察を行い、異常の早期発見に努めていきたい。業務の効率化としてスマートフォン・タブレット・インカム等の ICT 機器を導入した。

1. 感染対策の強化

集団感染の経験を踏まえ、3 か月ごとに PPE 着脱方法の研修を行っている。少しずつではあるが習得できている。今年度、感染対策の見直しを図り新しいマニュアル作りを行い、それに基づき BCP 訓練を実施した。全職員が習得できるまで、感染症に対する知識や行動力が身につくように繰り返し行う必要がある。また、入居者様の感染兆候時には感染対策・検査等を速やかに行い、嘱託医と連携をとり感染拡大防止に努めていきたい。

2. 看取りへの対応の充実

入居者様が最期まで、その人らしい生活を迎えられるよう入所時に意向確認を行い、看取り期になると意向が反映できるよう多職種と連携をとり援助していきたい。今年度新たに 14 名（うちショート 5 名）の方が看取りに同意され、12 名の方を看取った。看取り期になると家族様の気持ちが揺れ動くため、状態変化があった場合は細やかに連絡し、家族様の精神面も支えながら援助していきたい。今後も充実した看取りケアができるように、デスカンファレンスを行い反省点や改善すべき点を修正しながら、より良い看取りができるようにしていきたい。

3. 重症化防止への取り組み

高齢者は体の不調を訴えることが難しいため、気づいた時には重症化していることがある。日頃、入居者様と接する機会が多い介護職員との情報を共有し早期に嘱託医に連絡相談し、施設で出来る対応へと繋げ、重症化しないように努めていった。昨年度より医療と介護の連携推進において施設と協力病院との連携強化を行うために、定期的に回診後、入居者様の情報共有を行っている。その際、嘱託医よりアドバイスをいただき、悪化を未然に防ぎ次へと反映し繋げていくことができた。

加齢による身体機能低下、認知症の悪化などの影響により誤嚥や褥瘡のリスクが高くなっている。今年度褥瘡 6 名であった。引き続きポジショニング、適切な福祉用具の活用やスキンケア・栄養等多職種と連携を密にしながら褥瘡予防へと繋げていきたい。

4. 日常生活機能訓練の強化

身体機能の維持や低下した生活機能の向上を目指していくために、日々の生活リハに加え、多職種と連携しながら一人一人にあった機能訓練を計画実施し ADL の低下を防止する。週 1 回外部理学療法士によるリハ往診時に車椅子の調整、ポジショニングを相談し、入居者様の ADL の低下防止に繋げている。

5. 職員の健康管理への取り組み

全職員が健康診断や予防接種が適切に受けることができるようサポートする。年 1 回のストレスチェックの実施により職員の精神面にも配慮している。

職員が自身の健康について意識が高められるよう働きかけ、職員が体調不良を言える環境作りやコミュニケーションを図っていきたい。

6. ICT 活用について

ICT 機器としてスマートフォン・タブレット・インカムを導入した。インカムを使用した情報伝達やユニットで業務を行いながら記録作成、受診先で記録を作成する事で待機時間を活用等、PC での記録時間を短縮することで業務の効率化を図る。

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和7年度 事業報告書

1. 人材の定着・育成

作業工程を職員間で話し合うことで、作業効率の改善を図った。また職員同士コミュニケーションをとり、確認不足や思い込みによる間違いを未然に防ぐことを心掛けた。また、業務変更は連絡ノート記入後に口頭確認し、ミス防止に努めた。今後も互いに声掛けを続けていく。

2. 献立の充実

七夕や敬老の日など行事食の提供、季節食材の活用、入居者様や給食委員会の意見を献立に反映しました。嗜好調査で出た意見も委員会で議論して取り入れ、引き続き食材費管理にも注意しています。

3. 衛生管理

大量調理施設の衛生マニュアルを遵守し、現状の衛生状態を定期的に見直しています。清潔区分・器具の使い分け・手洗い方法を繰り返し確認し、全国の事例を情報共有して衛生意識向上を図っています。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

介護士や看護師と連携し、ミールラウンドやモニタリングで入所者様の健康状態を把握しました。低栄養や摂取量減少がある場合はゼリー・ジュース等で栄養補助を行い、褥瘡リスクは委員会で検討・対応しています。また、ケアカルテの導入を行い、今後ケアカルテの機能を栄養ケア計画に活かしていきます。

5. 食事形態

食べやすい形態への調整、水分摂取困難な方へのゼリー・トロミ付き飲料、食欲が低い方には必要に応じて栄養補助食品を提供し、個別対応に努めました。

6. 子供食堂の充実

令和7年度も感染対策を徹底し開催しました。おかわりを多くする高学年の子の参加が無くなったことで、参加者の年齢層・参加人数が減少し、全体的に喫食量が減少しました。おやつなど人気メニューを調査し満足度の維持向上にも力を入れています。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者数(人)	12	21	20	18	18	16	20	19	12	11	15
食費(円)	6,996	11,472	8,039	10,276	7,953	6,446	8,224	5,575	7,452	6,817	5,706

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和7年度 事業報告書

今年度は、「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行」というスローガンのもと、利用者様が住み慣れた地域や自宅で安心して生活を継続できるよう、通い・宿泊・訪問を柔軟に組み合わせたサービス提供に努めた。また、職員一人ひとりが課題意識を持ち、利用者様への支援の質向上や業務改善に取り組んだ。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅生活を継続できるよう、一人ひとりの状態や家族状況に応じた介護計画を作成し、サービス提供を行った。通い・宿泊・訪問を柔軟に組み合わせることで利用者様や家族様の負担軽減に努め、安心して生活できる環境づくりに取り組んだ。

2. 人材育成

施設内研修やeラーニングを活用し、介護技術や認知症ケア、感染症対策などについて学ぶ機会を設けた。サービス提供体制強化加算に対応するため、職員ごとに研修計画を作成し、計画的な研修受講を実施した。BCPに関する研修についても実施し、災害時や感染症発生時における対応方法の確認を行った。

3. 身体拘束・虐待防止対策の強化

法人内研修や事業所内研修を通して、虐待防止や身体拘束適正化について学ぶ機会を継続して設けた。また、身体拘束・虐待防止委員会において事例検討や振り返りを行い、職員の意識向上に努めた。

4. 事故の防止

事故報告書やヒヤリハットの内容を職員間で共有し、再発防止策について検討を行った。特に転倒リスクの高い利用者様については、環境整備や見守り強化を行い、事故防止に努めた。

5. 地域関係の強化

地域の方を招き参加していただくような行事をすることができなかった。運営推進会議で民生委員や地域包括職員等から意見を頂き、運営に生かすことができた。

6. 感染症予防

感染症対策は継続していたが、1月に新型コロナウイルスの施設内感染が見られた。利用中止や、在宅訪問への切り替え、居室隔離対応するなどの利用者対応と、感染症対策物品の

活用により、感染拡大は防止することが出来たが、コロナに対する気の緩みも原因の一つと考えられるため、感染対策は毎日行うよう職員間で話し合いを行った。

7. 業務効率化

介護ソフト「ケアカルテ」を活用し、記録業務の効率化を進めた。訪問先での記録入力や音声入力機能の活用により、記録時間の短縮につながった。また、職員間で定期的に使用方法について確認を行い、業務改善につながる活用方法について検討した。

8. 収入・利用者様の確保

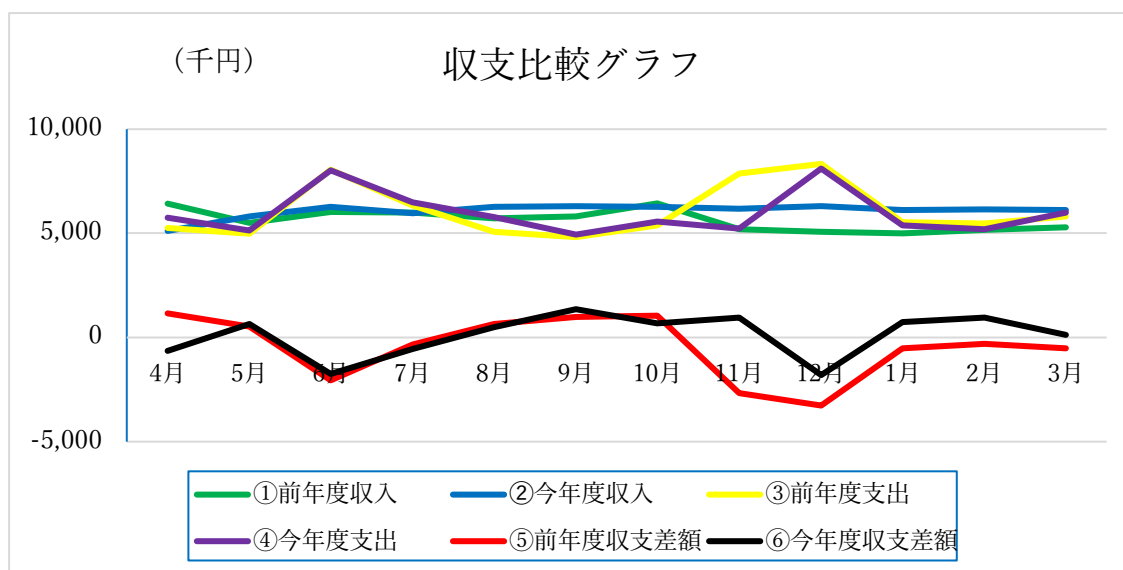
営業活動や関係機関との連携を継続し、新規利用者様の確保に努めたが、入院や施設入所、状態変化によるサービス終了などもあり、登録者数を大きく増やすことは難しい状況であった。収入増加の要因としては、利用者様の状態変化に応じて適切な介護度となるよう必要に

応じて区分変更の提案を行ったことや、看護職員配置加算Ⅲの算定を開始したことがあげられる。収支で見ると、年間収入72,907千円となり、前年度比107.8%の増収となった。支出については今年度、人件費の増加、光熱水費や物価高騰の影響がみられたが、前年度に介護ソフトの購入などの大きな支出があったため、前年度と比べると減少している。年間支出71,674千円、前年度比98.2%となった。その結果、年間収支差額は1,233千円となり、前年度より改善することができた。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	6,431	5,500	6,015	6,008	5,716	5,799	35,469	—
②今年度収入	5,116	5,809	6,272	5,963	6,288	6,299	35,747	100.7%
③前年度支出	5,273	4,973	8,057	6,342	5,077	4,818	34,540	—
④今年度支出	5,764	5,147	8,032	6,500	5,791	4,940	36,174	104.7%
⑤前年度収支差額	1,158	527	-2,042	-334	639	981	929	—
⑥今年度収支差額	-648	662	-1,760	-537	497	1,359	-427	%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	6,438	5,201	5,068	4,999	5,156	5,288	67,619	—
②今年度収入	6,260	6,179	6,307	6,133	6,164	6,117	72,907	107.8%
③前年度支出	5,396	7,869	8,334	5,530	5,475	5,814	72,958	—
④今年度支出	5,577	5,229	8,110	5,385	5,201	5,998	71,674	98.2%
⑤前年度収支差額	1,042	-2,668	-3,266	-531	-319	-526	-5,339	—
⑥今年度収支差額	683	950	-1,803	748	963	119	1,233	%



2. 令和6年度・7年度登録者数 (MAX29名) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R6登録者	21	21	21	21	21	22
R7登録者	19	20	20	20	21	21
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6登録者	20	19	18	19	19	19
R7登録者	21	20	20	20	20	19

3. 令和6年度・7年度延べ利用人数 (通い・訪問・宿泊) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R6通い	413	428	401	432	444	431	2,549
R6宿泊	180	222	186	210	209	209	1,216
R6訪問	289	263	292	301	261	182	1,588
R7通い	435	465	436	451	462	464	2,713
R7宿泊	198	221	203	192	218	222	1,254
R7訪問	101	112	116	123	119	115	686
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6通い	412	361	395	386	385	418	4,906
R6宿泊	189	157	160	147	153	178	2,200
R6訪問	157	109	120	122	111	93	2,300
R7通い	469	415	470	397	406	443	5,313
R7宿泊	206	179	244	207	201	211	2,502
R7訪問	118	104	116	131	116	143	1,414

デイサービスサンライフ岡田

令和7年度 事業報告書

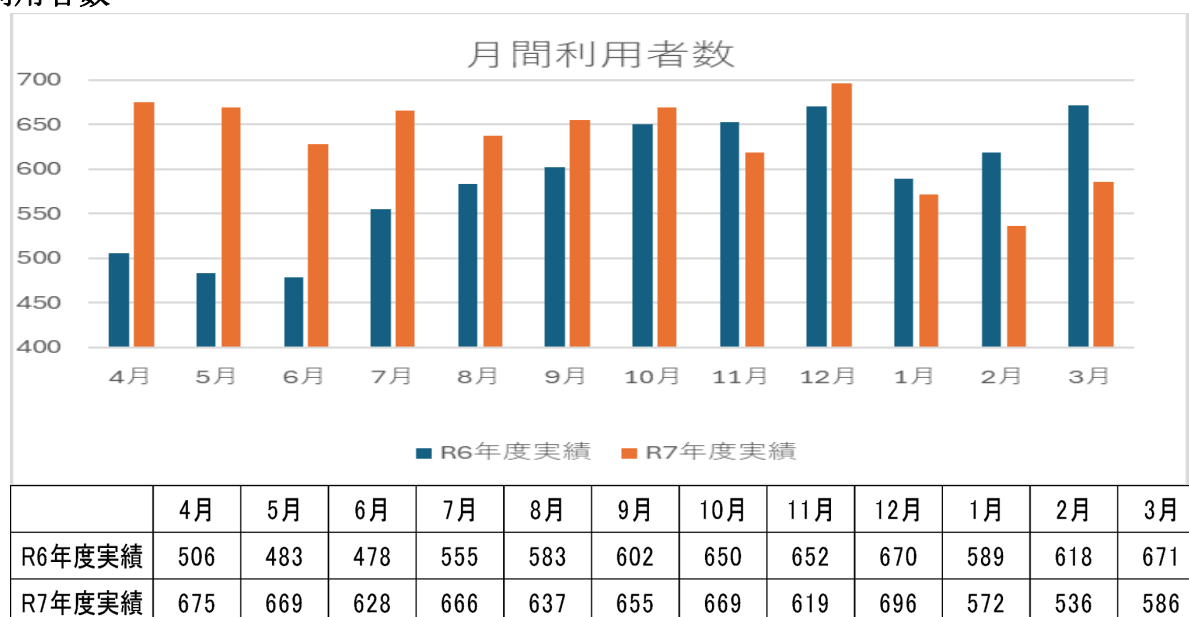
令和7年度の1日平均利用人数は24.52名となった。理学療法士による機能訓練を継続して実施し、利用者様一人ひとりの身体状況に合わせたリハビリ支援に取り組むことで、身体機能の維持・向上に努めた。また、今年度は新たに歯科衛生士を採用し、口腔ケアや口腔機能向上にも力を入れて取り組んだ。口腔体操や口腔内の確認、食事に関する助言等を行うことで、利用者様が安全に食事を楽しみ、健康を維持できるよう支援を行った。専門職による関わりは利用者様やご家族にも安心感につながり、事業所の新たな特色の一つとなった。

また、これまで継続して実施している買物外出や日々のレクリエーション、体操活動についても内容を工夫しながら取り組み、利用者様が楽しみや生きがいを感じながら通うことができるデイサービスづくりに努めた。利用者様同士の交流の場にもつながり、「外出が楽しみ」「体を動かす機会が増えた」などの声も聞かれた。

さらに、居宅介護支援事業所への営業活動や事業所の特色発信にも継続して取り組み、新規利用者の獲得に努めた。理学療法士による機能訓練や歯科衛生士による口腔支援など、多職種による専門的な支援を行っていることを積極的に発信することで、事業所の強みを知っていただく機会につなげていきたい。

一方で、入院や施設入所等による利用終了も見られ、利用人数が安定しない時期もあった。今後も利用者様やご家族のニーズに寄り添いながら、サービス内容の充実や利用者満足度の向上を図り、安心して継続利用していただける事業所づくりに努めていきたい。

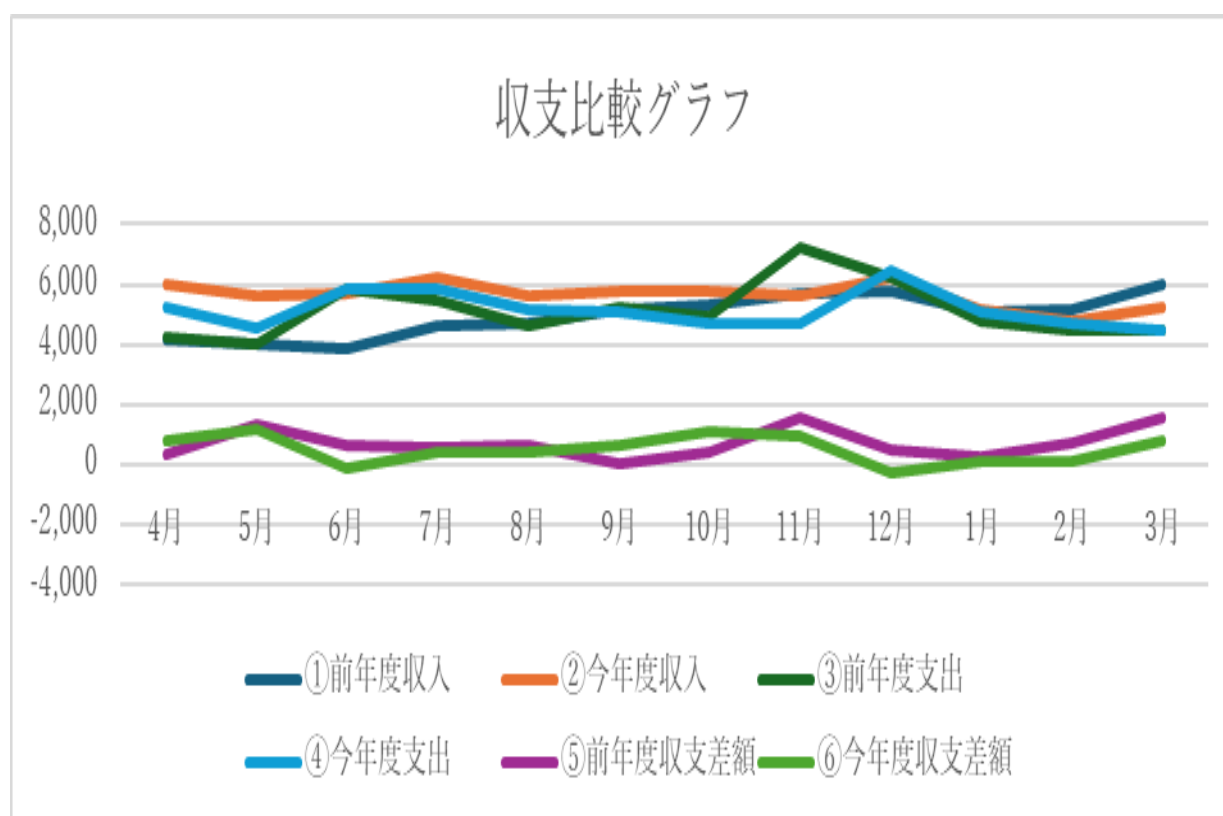
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
①前年度収入	4,196	4,021	3,874	4,630	4,715	5,165	26,601	-
②今年度収入	6,035	5,652	5,687	6,234	5,620	5,746	34,971	131.5%
③前年度支出	4,219	4,013	5,854	5,450	4,604	5,260	29,400	-
④今年度支出	5,266	4,512	5,852	5,860	5,182	5,111	31,792	108.1%
⑤前年度収支差額	361	1,287	668	580	651	36	1,087	-
⑥今年度収支差額	769	1,139	-164	373	433	628	3,179	292.5%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	5,320	5,697	5,748	5,048	5,181	5,994	59,589	-
②今年度収入	5,786	5,647	6,240	5,166	4,749	5,209	67,772	113.7%
③前年度支出	4,910	7,269	6,212	4,809	4,448	4,444	61,492	-
④今年度支出	4,694	4,704	6,469	5,060	4,676	4,460	61,859	100.6%
⑤前年度収支差額	410	1,572	464	239	733	1,550	1,903	-
⑥今年度収支差額	1,092	942	-299	105	72	749	5,913	310.7%



3. 通年介護度別のべ人数及び実利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
事業対象者	9 (1)	9 (1)	8 (1)	9 (1)	9 (1)	9 (1)	8 (1)	9 (1)	9 (1)	8 (1)	8 (1)	9 (1)	8.6 (12)
要支援 1	84 (11)	43 (9)	29 (8)	42 (10)	37 (9)	39 (9)	49 (9)	40 (8)	34 (7)	32 (7)	24 (6)	25 (6)	39.8 (99)
要支援 2	80 (12)	105 (13)	99 (13)	90 (12)	91 (14)	100 (14)	100 (14)	85 (14)	97 (14)	87 (14)	87 (14)	88 (12)	92.4 (160)
要介護 1	252 (26)	265 (25)	244 (26)	256 (24)	246 (23)	240 (23)	255 (24)	227 (23)	240 (22)	224 (24)	222 (25)	246 (23)	243.0 (288)
要介護 2	107 (9)	96 (7)	81 (7)	106 (8)	110 (9)	122 (9)	147 (11)	141 (12)	163 (14)	127 (15)	106 (13)	134 (15)	120.0 (129)
要介護 3	49 (6)	43 (5)	48 (5)	42 (4)	39 (4)	44 (4)	42 (4)	42 (4)	46 (4)	36 (3)	36 (3)	28 (3)	41.2 (49)
要介護 4	77 (5)	81 (5)	94 (7)	98 (7)	84 (5)	80 (5)	78 (5)	59 (4)	65 (4)	34 (3)	29 (4)	34 (3)	67.7 (57)
要介護 5	22 (3)	21 (2)	23 (2)	23 (2)	21 (2)	21 (2)	26 (3)	33 (3)	30 (3)	24 (3)	24 (3)	22 (3)	24.1 (31)
合計	680 (73)	663 (67)	626 (69)	666 (68)	637 (67)	655 (67)	705 (71)	636 (69)	684 (69)	572 (70)	536 (69)	586 (66)	

上段の数字はのべ人数、（ ）内の数字は実利用者人数を示しています

4. 職員充足度（令和8年3月現在）

職員 17 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 2 名 非常勤介護職員 10 名 他 2 名)							機能訓練指導員を 含まない	
	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	26	675	1,539	25.96	9.2	2.8	8.2	3.2
5月	27	669	1,570.5	24.78	9.3	2.7	8.3	3.0
6月	25	628	1,450.5	25.12	8.6	2.9	7.6	3.3
7月	27	666	1,583	24.67	9.4	2.6	8.4	2.9
8月	27	637	1,560	24.50	9.3	2.6	8.3	3.0
9月	26	655	1,592	25.19	9.5	2.7	8.5	3.0
10月	27	669	1,663	24.78	9.9	2.5	8.9	2.8
11月	25	619	1,538	24.76	9.2	2.7	8.2	3.0
12月	27	696	1,642	25.78	9.8	2.6	8.8	2.9
1月	24	572	1,582	23.83	9.4	2.5	8.4	2.8
2月	24	536	1,273	22.33	7.6	2.9	6.6	3.4
3月	26	586	1,529	22.54	9.1	2.5	8.1	2.8

サンライフ岡田居宅介護支援事業所

令和 7 年度 事業報告書

今年度は可能な限り新規依頼を受け入れた結果、利用者数は年間を通して安定して推移し、居宅介護料収入および予防委託料収入ともに前年度を上回った。利用者への定期的なモニタリングや評価を行い、生活課題に応じたケアプランの見直しを通じて、希望に沿った在宅生活の維持に努めるとともに、要介護度に応じた柔軟な対応により、安定したケアマネジメントの提供につなげた。事業所運営では、職員 2 名で利用者の振り分けや業務調整を行い、円滑な運営と業務負担の均等化に努めた。また、ICT を活用した情報共有や事務作業の効率化を進めたことで、業務時間短縮や事務負担軽減に一定の効果がみられた。年間収入は前年度比 106% となり、安定した運営と収入増加につながった。今後も継続的な業務改善に取り組み、安定した事業所運営に努める。

1. 介護度別利用者推移

(単位：人)

介護度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
1～2	46	42	42	44	46	51	271
3～5	22	26	26	26	25	24	149
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1～2	50	51	51	52	53	56	584
3～5	27	26	26	27	24	22	301

2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度	766	849	863	873	871	918	5,140
令和 7 年度	835	863	854	872	861	915	5,200
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	902	867	864	880	861	920	10,434
令和 7 年度	1,048	980	941	965	891	921	10,946

3. 予防委託料収入

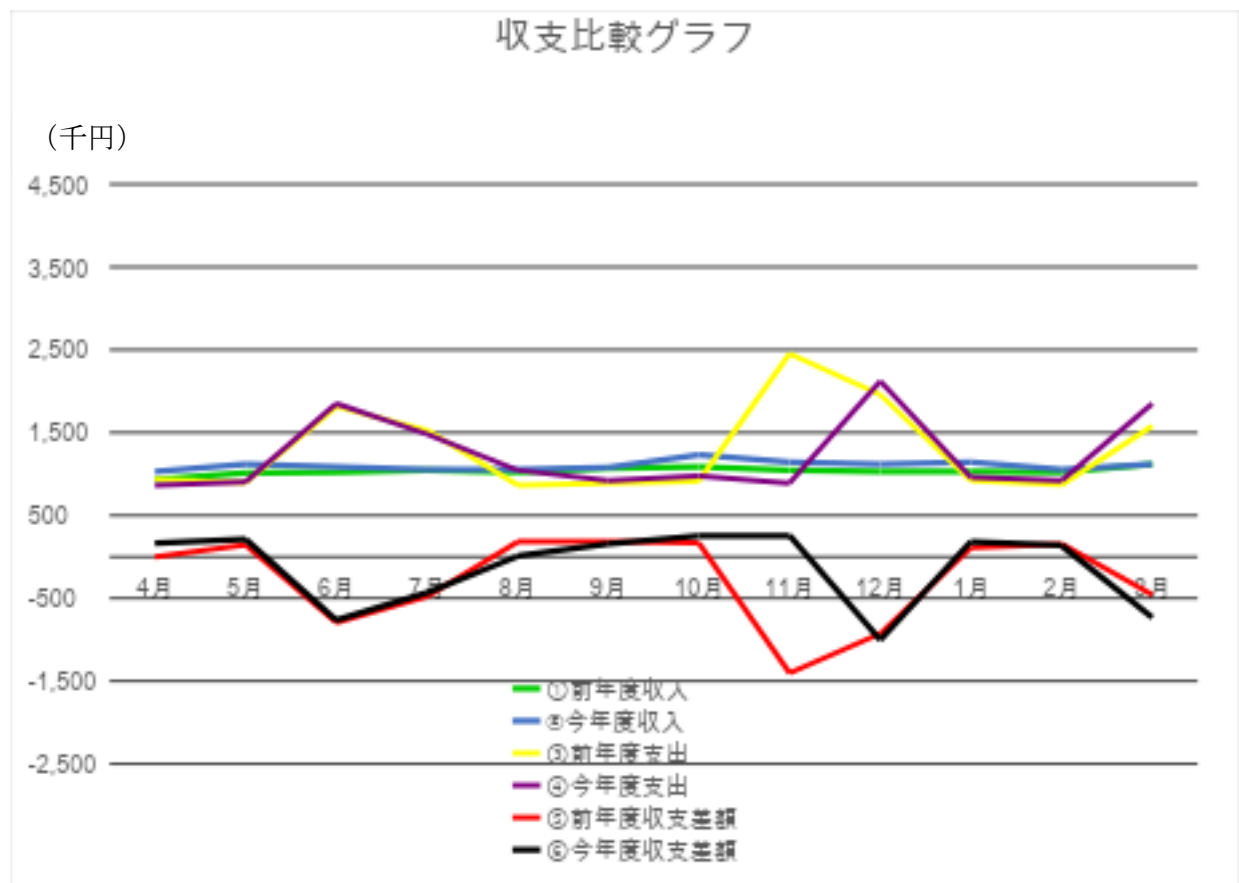
(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度	125	129	125	133	121	134	767
令和 7 年度	152	148	157	152	161	133	903
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度	137	154	150	147	136	170	1,661
令和 7 年度	144	137	137	148	140	159	1,768

4. 年間収支比較

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	935	1,013	1,024	1,047	1,022	1,070	6,111	—
②今年度収入	1,029	1,117	1,087	1,052	1,055	1,075	6,415	105%
③前年度支出	936	899	1,814	1,528	866	886	6,929	—
④今年度支出	862	906	1,850	1,484	1,046	920	7,068	102%
⑤前年度収支差額	-1	114	-790	-481	156	184	-818	—
⑥今年度収支差額	167	211	-763	-432	9	155	-653	—
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	1,083	1,049	1,032	1,034	1,024	1,121	12,454	—
②今年度収入	1,234	1,147	1,115	1,141	1,057	1,122	13,231	106%
③前年度支出	916	2,453	1,959	921	870	1,582	15,630	—
④今年度支出	979	890	2,121	958	920	1,851	14,787	95%
⑤前年度収支差額	167	-1,404	-927	113	154	-461	-3,176	—
⑥今年度収支差額	255	257	-1,006	183	137	-729	-1,556	—



特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和7年度 事業報告書

今年度は「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」のスローガンのもと、個々のニーズに寄り添うケアに注力した。個別介護では食事や排泄面で「今できる改善」を積み重ねた結果、職員の洞察力が高まり、ケアの質を自ら向上させる姿勢が現場に浸透しつつある。家族様との交流については、年間を通して面会体制を維持することができた。継続的な交流機会の確保は、入居者様の精神的安定と家族様との信頼構築に繋がった。また ICT 機器の導入に関しては、次年度の本格稼働に向けた機種選定を慎重に進め、導入に向けた確かな土台を築くことができた。一方で、重点課題の「ノーリフトケア」は活用に着手したものの、現場への定着には至らなかった。職員の腰痛予防と安全確保のため、次年度の最重要課題として継続して取り組んでいく。経営面では、物価高騰を受け光熱水費や物品の適正利用を徹底した。職員一人ひとりのコスト意識が高まり、職員一丸となって効率的な運営を実現できた一年であった。

1. 入居者様の健康管理を一人ひとりが考え実行する

- I 拘縮や褥瘡を予防するため、職員一人ひとりが個々の身体的特徴を正しく把握し、シーティングやポジショニングの充実に努めた。当初計画していた写真による記録は見送ったものの、その分、申し送りにおける情報共有を強化することで、安楽な姿勢の統一や必要な介護用品の把握を徹底した。
- II 職員の移乗介助における負担軽減を目指し、リフト導入の検討やスライディングボードの活用を進めた。移乗用リフトについては現在も選定・検討の段階にある。また、スライディングボード等の補助具については、職員間で技術の習熟度や活用意識に差が見られ、現場全体への定着には至らなかった。「時間をかけてでも身体に負担をかけない介助」の重要性を再認識し、技術の底上げと意識改革を図ることが次年度の課題である。
- III 業務改善委員会を中心に、居室や共用部の整理整頓、不要物の撤去、壁紙やカーテンの修繕を推進した。特に「入所者様の生活の場」としての質を重視し、日々の清掃と環境整備を徹底することで、常に清潔で心地よい住居空間の創出に努めた。また、入居者様と一緒に作成した作品を掲示するなど、個々の生活に彩りを添える工夫を行い、精神的なゆとりを感じられる環境づくりを実践した。
- IV 入居施設として、換気による清浄な空気環境を保ち、日光浴や散歩、買い物等の外出機会を積極的に設けた。体操やレク、音楽療法に加え、家族の希望に応じた外出を実施し、心身の活性化を図っている。日々の生活の中で季節を感じ、潤いと活力を持って過ごせる居住空間の創出に努めた。

2. 感染症及び災害時における業務継続について

- I スタンダードプリコーション（標準予防策）の徹底を図りながら、入居者様の健康管理について、一日2回の検温測定を継続して実施した。これにより、発熱等の異変を早期に察知し、感染症の初動対応を迅速に行える体制を年間通じて維持することができた。
- II 感染症蔓延や災害発生時に備え、入居者様および職員の安否確認、職員の参集方法等の再確認を行った。今年度も基幹福祉避難所開設訓練に合わせ、実戦的な訓練および研修を実施することができた。

3. 経営の安定化への取り組み

- I 年間稼働率 98.5%以上を目標に掲げ、見学問い合わせへの即応や、ロングショートステイから特養入所へのスムーズな移行など、積極的なベッドコントロールに努めた。しかしながら、本年度は長期入院者の増加や、予期せぬ急な退所が重なる時期があり、空室期間が長期化する場面が見られた。その結果、年間稼働率は 96.2%に留まり、目標達成には至らなかった。
- II 長期入院からそのまま退所（施設外での看取りや転院）となるケースが例年以上に多く、病院側との退所相談や調整に日数を要したことが稼働率減少の主な要因となった。次年度は、入院中に入居者様の状態把握をより早期に行うとともに、待機者へのアプローチをさらに迅速化し、入所契約の効率的な運用を目指す。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和 7年度	日数	900	930	900	930	930	900	5,490
	利用日数（人）	869	930	893	916	891	828	5,327
	稼働率（%）	96.6%	100%	99.2%	98.5%	95.8%	92.0%	97.0%
	入院者数（人）	13(3)	0	7(1)	0	25(2)	51(2)	96(8)
	空室数（人）	17	0	9	0	14	21	61
	入所者数（人）	1	0	1	2	1	1	6
	退所者数（人）	0	0	0	2	2	3	7
	看取り人数（人）	0	0	0	2	2	1	5
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	日数	930	900	930	930	840	930	10,950
	利用日数（人）	911	866	905	873	764	884	10,530
	稼働率（%）	98.0%	96.2%	97.3%	93.9%	91.0%	95.1%	96.2%
	入院者数（人）	18(2)	18(2)	17(2)	38(3)	76(4)	39(4)	302(25)
	空室数（人）	19	16	8	19	0	7	130
	入所者数（人）	3	0	2	1	0	0	12
	退所者数（人）	0	2	1	0	0	2	12
	看取り人数（人）	0	2	1	0	0	1	9

4. 令和7年度収支

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和6年度収入	12,137	12,629	12,402	12,914	12,839	12,337	75,258	
令和7年度収入	12,130	12,922	12,427	12,558	12,328	11,615	73,980	-1,278
令和6年度支出	9,429	8,702	15,037	9,714	9,375	10,213	62,470	
令和7年度支出	10,629	9,522	15,470	9,137	10,019	9,604	64,381	1,911
令和6年度収支差額	2,708	3,927	-2,635	3,200	3,464	2,124	12,788	
令和7年度収支差額	1,501	3,400	-3,043	3,421	2,309	2,011	9,599	-3,189
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和6年度収入	12,706	12,365	12,809	12,713	11,387	12,139	149,377	
令和7年度収入	12,589	12,137	12,491	12,044	10,832	13,373	147,446	-1,931
令和6年度支出	10,961	9,563	15,402	9,396	9,209	9,464	126,465	
令和7年度支出	10,351	9,161	15,889	9,536	9,604	11,569	130,491	4,026
令和6年度収支差額	1,745	2,802	-2,593	3,317	2,178	2,675	22,912	
令和7年度収支差額	2,238	2,976	-3,398	2,508	1,228	1,804	16,955	-5,957

※減価償却費を除く

単位 千円

収支に関する管理者意見

本年度の稼働率は96.2%に留まり、目標の98.5%を下回ったことで前年度より減収となった。長期入院の増加や空室期間の長期化が響き、稼働率維持の難しさに直面した一年であった。支出面では物価高騰が食材費や光熱水費を押し上げ、人件費の増加とともに経営を圧迫している。今後は導入決定したICT機器を現場に定着させ、業務の効率化と経費の適正管理を徹底していく。同時に、稼働率回復に向けた入居促進に注力し、収入の安定化を図る。入居者様とご家族の満足度を高め、安心できるサービスを提供できるよう、職員一丸となって運営に努めていく。

5. その他

- I 次年度の本格稼働に向け、現行ソフトの拡張機能（ケアパレット、音声入力）とiPhoneの導入、全館Wi-Fi整備を決定し、記録時間短縮と生産性向上の基盤を整えた。
- II 物価および光熱水費の高騰による支出増に対し、施設全体で節電・節水の徹底に努めた。また、介護物品の使用頻度や在庫管理を適宜見直し、サービス品質を維持しながらも無駄な支出を抑制する取り組みを継続した。
- III 年間計画に基づき、内部・外部研修を予定通り実施した。各専門分野の知識・技術習得に努め、ケアの質向上に向けた研鑽を滞りなく進めることができた。
- IV 外国人職員の年数に応じた学習支援を継続。1年目の日本語学習から、2・3年目の国家試験対策まで、施設長や事務長らが直接指導にあたり、専門性の向上を図っている。

以上

魚崎高齢者介護支援センター 短期入所生活介護

令和7年度 事業報告書

経営スローガン「全てを自分の問題と捉え、一人ひとりが改善実行！」に基づき、業務改善や情報共有の見直しを行いながら、利用者様が安心して過ごせる環境づくりに取り組んだ。

利用者様の支援については、音楽療法・おやつレク・体操等のレクリエーションを継続し、利用中も楽しく安心して過ごしていただけるように努めた。また、ご利用中の活動量低下防止として、歩行機会の確保や軽作業等を取り入れ、少しでも活動量が増えるように支援を行った。

利用状況についてはロング利用だけでなく、短期利用・緊急利用等も柔軟に受け入れ、在宅生活継続支援に努めた。

ロング利用については、利用終了（施設入所・入院・状況変化等）が重なり、利用人数が下半期に変動が多かった。利用状況の変動が見られた部分は、急な依頼についても柔軟に受け入れを行い、利用調整を行った。一方で送迎・利用調整・情報共有等の業務増加も見られ、継続した業務整理や連携体制の見直しが課題となった。

感染症対応については、体調不良者の早期発見・医務との連携・感染対策を継続して実施した。感染症発生時には利用調整や居室調整等を行いながら、感染拡大防止に努め、継続してサービス提供が行えるように対応を行った。

1. 楽しく快適で安全な生活を提供

I サンライフのショートステイの利用中「楽しかった・良かった」と感じ帰宅して頂けるよう、ご利用中の生活が楽しくなるような環境の提案

- (1) YouTube を活用し体操を実施。掲示物を作成や色塗りミニクイズや利用者様の時代に合った音楽や歌謡曲を流す・音楽療法や手作りおやつなどレクリエーションを実施した。
- (2) ご利用者様同士のフロアで会話や交流を持ち、会話を楽しめる距離で過ごせるよう、座席配慮やテーブルの配置変更を行った。
- (3) 利用中の活動量の低下予防として、利用中の活動量だけでなく、ご自宅での生活についても情報共有を行い、歩行機会の確保や軽作業等を取り入れながら、少しでも活動量が増えるよう対応を行った。
- (4) ロング利用者様を中心に、バラ外出、屋上散歩、初詣、桜ドライブ等の外出支援を実施し、季節を感じながら楽しみをもって過ごしていただけるよう取り組みを行った。

II ケアの統一、情報共有について

申し送り時には意見交換を行い、ケア内容について職員間で話し合いを実施した。

業務分担や申し送り方法について見直しを行い、業務進行チェック表の活用や業務内容を整理し、統一した内容で業務を進めることができるよう、取り組みを行うことで、業務の明確化や連携強化を図った。

職員間の情報共有は複数のツールや口頭での申し送りにより情報共有漏れが生じやすいことが以前より課題であったため、情報共有の方法の見直しを行い、情報共有方法を PC で行うことで、必要情報が職員全体で共有できるように、取り組みを行った。

一方で定期的なミニ会議や継続した話し合いについては十分に実施できていない部分もあり、継続した課題となった。

2. 安定した利用者確保

I 利用状況について

令和7年度は年間延べ人数 6,868 名となり、前年度と比較して増加となった。

上半期は安定した稼働を維持していたが、下半期にロング利用者の入所・入院・利用終了等の影響が大きく、月ごとの利用人数の変動が見られた。

ロング終了者は、上半期の 7 名に対し、下半期は 13 名。特に 10 月以降に、ロング終了が続いたことが影響し、稼働率低下がみられたが、短期利用・定期利用の増回・緊急利用を柔軟に受け入れることで稼働率の維持に努めた。

ロング・準ロング利用者を、一定数確保に努め、入所部署との情報共有を図り、入所部署の状況把握や、待機者の確保を行ったが、自施設以外への入所・入院・在宅復帰等の理由により利用終了者が下半期に急増したことで利用状況に変動が見られた。

変動のある中でも、定期利用の増回・緊急利用、新規利用を柔軟に受け入れることで、大幅な利用減少の影響はみられていないが、延べ利用者数の増加に伴い、送迎・利用調整・ベッドコントロール・情報共有等の業務量の増加も見られ、安定した運営体制については課題が残る結果となった。

利用者数

単位（人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和5年度	606	585	584	552	587	540	539	485	486	580	490	604	6,638
令和6年度	567	512	520	571	611	546	534	565	576	585	542	577	6,709
令和7年度	598	579	594	605	590	581	568	578	528	554	516	577	6,868

稼働率（一日平均利用者数）

単位（％）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
令和5年度	101%	94%	97%	89%	94%	90%	86%	80%	78%	93%	84%	97%	90%
令和6年度	95%	83%	87%	92%	99%	91%	86%	94%	93%	94%	97%	93%	91%
令和7年度	99.7 %	93.4 %	99%	97.6 %	95.2 %	96.8 %	91.6 %	96.3 %	85.2 %	89.4 %	92.1 %	93.2 %	94.1 %

Ⅱ 利用調整・連携について

送迎時に、施設でのご様子の報告だけでなく、ご家族様とのコミュニケーションを図ることと、自宅のご様子を把握する様に努めた。安定しているご利用者様の報告が少なくなる傾向にあるため、ご予約や実績報告等の際もケアマネージャーへご利用時のご様子を報告やご自宅でのご様子の確認を実施した。

利用予約管理表の変更の実施。入退所数や利用人数の把握・利用状況の変動を、今までより細かく把握することで追加や延長の提案、新規の依頼のスムーズな受け入れ、シフト作成時の人員配置、業務予定など、計画的に取り組める様実施した。

3. 収入の確保と支出

収支金額

単位:千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
令和 6 年度収入	6,940	5,631	8,465	7,245	7,548	7,297	6,940	
令和 7 年度収入	7,307	7,619	7,482	8,131	7,563	7,438	7,307	
令和 6 年度支出	7,651	5,171	10,308	5,301	5,525	8,631	7,651	
令和 7 年度支出	6,382	5,497	10,652	5,475	8,833	8,919	6,382	
令和 6 年度収支差額	-711	460	-1,843	1,944	2,023	-1,334	-711※	
令和 7 年度収支差額	925	2,122	-3,170	2,656	-1,270	-1,481	925※	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
令和 6 年度収入	6,703	7,504	7,053	7,173	7,136	7,182	85,877	
令和 7 年度収入	9,916	7,110	6,182	7,331	6,578	7,699	90,356	4,479
令和 6 年度支出	6,256	5,488	10,414	5,593	5,740	5,770	81,848	
令和 7 年度支出	6,238	5,842	10,906	6,316	5,867	5,872	86,799	4,951
令和 6 年度収支差額	447	2,016	-3,361	1,580	1,396	1,412	4,029	
令和 7 年度収支差額	3,678	1,268	-4,724	1,015	711	1,827	3,557	-472

※1. 令和 6 年度支出に修繕費として下記を計上している。

4 月 中央監視盤設備更新工事 ￥1,749,000

9 月 エレベーター機能維持工事 ￥2,860,000

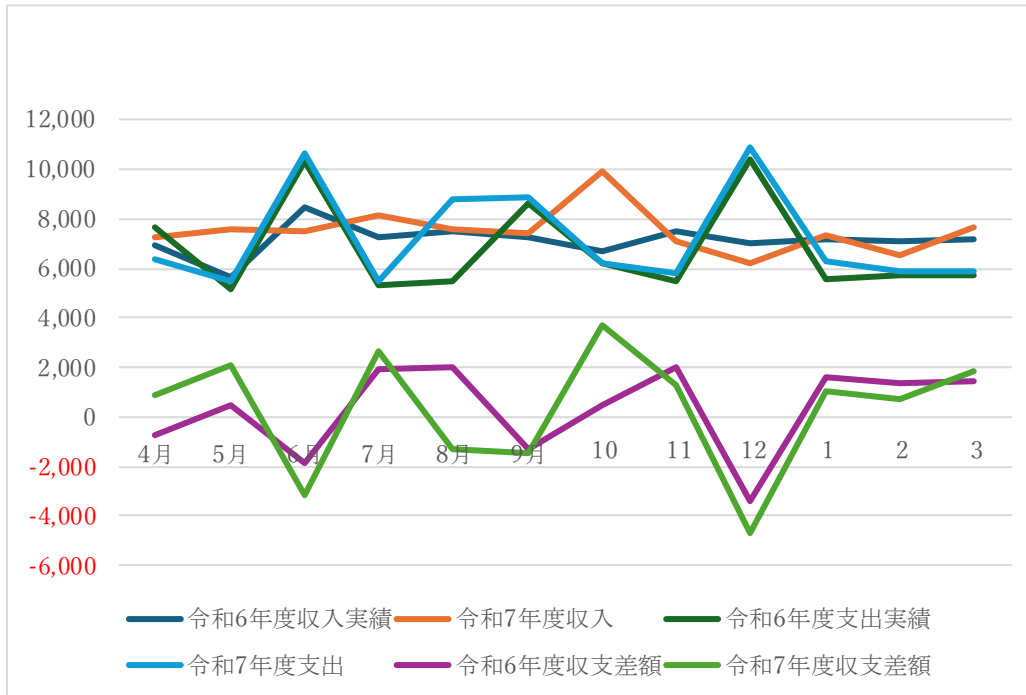
計 ￥4,609,000 (内、補助金 ￥2,304,500 あり)

※2. 令和 7 年度収支に修繕費として下記を計上している。

8 月 エレベーター 2 号機 機能維持工事 ￥2,750,000

9 月 エレベーター (小荷物) 機能維持工事 ￥2,750,000

計 ￥5,500,000 (内、補助金 ￥2,750,000 あり)



4. 人員構成力の強化

内部研修参加ができるよう、日課予定表で調整を行い、スケジュール調整を実施。感染症対策・事故防止・身体拘束適正化等の法定研修についても継続的に実施して、知識や意識向上に努めた。

外部への研修の参加は、行えておらず、業務・人員調整等、今後の課題である。

5. 介護資源を工夫して有効に使う。

環境整備・物品管理について、パットの見直しを申し送りの際に行い、大きすぎるパットの使用にならない様検討を行った。一時的な取り組みにならないよう、定期的に見直せるように取り組みが課題である。

5 S活動の実施として、環境整備や整理整頓の実施。物品配置や共有スペースの見直しを実施した。

6. 災害や感染症対策にかかわる体制整備

B C P計画に基づき、感染症や災害発生時に継続してサービス提供が行えるよう、研修や訓練を実施した。

感染予防対策として、換気・手洗い・うがいの継続。定期的な検温実施の継続し、体調不良者の早期発見・拡大予防を行うことで、5月にコロナ感染発症はあったが、感染症が拡大せず、最小限で終息させる事が出来た。

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期・通所 医務

令和7年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」をスローガンとして、又、本館の看護部としての役割を構築してきた1年となった。

1. 本館医務として

各部署個別の担当Nsでは特にデイサービスは1人で行ってきっていたことが、不安で負担となっていたが、複数のNsが関われ、相談しながら業務を行えることが利点となった。

特養・ショートステイ・デイサービスの3部署を担うことで、利用者の総数は非常に大きくなっており、スタッフ個々がキャパオーバーとならないよう、情報共有・伝達を常に意識し、一丸となって業務に取り組んでいきたい。

2. 事故防止について

- I 薬関係の事故が増加。服薬事故が下半期にも毎月のように起きている。人間違いの重大事故もあり、その都度注意喚起を行っているが、後を絶たない状況。服薬介助のルールを守る事や、確認をする意識付けの徹底、事故報告書、研修のあり方を組織全体で取り組む必要があると考える。
- II 加療を要する外傷は減少傾向、褥瘡件数が10月から1月までゼロを更新することができ、発症後も減圧マットの使用や臥床の時間を検討するなど速やかな対応ができるようになっていく。
- III 足爪の事故も続いているため、1か月単位で人数を割り振りして計画、業務進行表で管理を徹底させることとした。

3. 感染予防について

- I 1日当たりのパット交換の回数が最少で3回まで減らされているが尿路感染は下半期1件と、保清や水分補給の面でもしっかりと管理ができるようになっていく。
- II コロナ・インフルエンザの発症件数は減少したが、11月4名12月5名、同室者や食事時の同テーブルでの感染拡大と考えられる感冒症状が続き、終息に時間がかかった。感染対応の必要物品の揃え方、感染対応の居室内での清潔不潔の区別の不備があり、正しい対応を再確認する必要があった。感染対応物品の準備に関しては今後も引き続き徹底していくことが課題となっている。

4. 医療連携について

協力医療機関以外にも救急搬送受け入れ可能な病院との連携ができるようになったが、入院期間が長引かないように、病状伺い含め地域連携室との連絡を密にして効率的なベッドコントロールができるよう関係性を深めていきたい。

5. 令和7年度上半期 特養・ショートステイ看護及び研修状況

(1) 傷病発生状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比%
発熱・嘔吐等感染 対応者数(コロナ)	29(5)	2	6	6	5	3	4	55(5)	125(33)
尿路感染/誤嚥性肺炎(疑い)の発熱	5	0	0	0	0	0	1	6	46
加療を要する外傷 (内褥瘡)	67	5	6	7	7	3	5	100	57
	8	0	0	0	0	1	1	9	40
Ns付き添い受診 回数	2	1	0	0	0	4	2	9	150
(2) 特変緊急対応の回数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	3	1	2	0	3	3	3	15	166
ショートステイ	2	1	0	0	1	2	0	6	75
(3) 入院 ・ 退院 ・ 入退所者数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	5	0	2	0	3	3	2	15	150
退院者数	4	0	0	2	0	3	4	13	185
退所・死亡者数	7	0	2	1	0	0	1	11	91
入所者数	5	3	0	2	1	0	0	11	100
(4) 医療診療件数(受診・往診)・診療人数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート 件数	175	36	27	33	30	43	31	375	113
特養ショート 人数	694	138	137	113	93	122	117	1414	111
(5) 研修受講状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	1	0	0	0	0	1	0	2	200
外部人数	1	0	0	0	0	1	0	2	40
内部件数	7	1	2	1	1	1	1	14	100
内部人数	35	5	10	5	5	5	5	70	118

以上

魚崎高齢者介護支援センター 通所介護

令和7年度 事業報告書

今年度の経営スローガンである「全てを自分の問題と捉え、ひとり一人が改善実行！」を基盤に、前年度同様、常勤職員・非常勤職員関係なく、思っている事、感じている事を発信し、前向きな改善策を考えることができる職場環境づくりを意識し取り組んだ。今年度から開設した業務改善委員会には、非常勤職員を委員会に選出し、常勤・非常勤関係なく、より良い職場環境づくりを自ら作り上げていくことを意識した。

今年度も、なんとか赤字にならず終えることができたが、余裕がある状態ではない。今後も職員の少数精鋭での経営、業務改善が必須である。来年度はICTを取り入れることで、職員の精神的・身体的負担を軽減し、利用者様に寄り添い、明るく楽しい元気なデイサービスを職員全員で作りに上げていきたい。

1. 安心で、楽しく元気になるデイサービスを目指して

I デイサービスの基本方針「いつまでも元気に楽しく」のもと、今年度もYouTubeを活用した体操や音楽・映像を活用することで、職員の負担も軽減され、利用者様も取り組みやすくなっている。また、ご自身で「やりたいことをやりたいときに」取り組んでいただけるよう、脳トレ・色塗り等の種類を豊富にそろえ、選んでいただいた。「一緒に取り組む」ことにこだわらず、雑誌や新聞を読んだり、テレビを観たりマッサージチェアで過ごす等、本人様が希望される事、本人様がお好きな事、ルーティンとしている事を見つけ出しいつでも提供できる環境づくりに努めた。

II 業務改善委員を中心に、5S活動を実施し、毎月実施前・実施後の写真を撮り整理整頓・清潔保持に努めた。客観的に職場環境を見ることで、今まで景色化してしまっていた不要なものを見つけることができ、処分することができた。そのことにより、部署全体が以前に比べると整理整頓されるようになった。必要なもののみ、出しやすい場所・見つけやすい箇所に設置することで、探す手間が省かれ、業務を効率的に行える事が増えた。今後も、5S活動を続け、維持していきたい。

利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数 (目標差)	620名 (20)	654名 (24)	646名 (56)	657名 (7)	583名 (-57)	563名 (-87)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	622名 (-28)	567名 (-33)	578名 (-22)	555名 (5)	552名 (-18)	576名 (-44)

Ⅲ 今年度も、1日の平均利用人数を23.5～24名、1ヶ月の利用人数600～650名と前年度より利用者増加を目標としていたが、殆どの月で目標値を下回る結果となった。今年度は夏以降に体調不良者や入院者が増加し、1ヶ月の総利用者数が600名を切ってしまうことが多く、利用者数が目標より下回ってしまった。

Ⅳ 利用者獲得に向けての具体的な取り組み

- ① 引き続き毎月、居宅事業所への訪問を行う事で「毎月必ず訪問してくるデイサービス」という印象付けを行った。
- ② 家族様やケアマネジャーからショートステイや入所に関しての相談があった場合、スムーズにご案内できるよう説明を行い、相談員への情報提供を行った。デイサービスのみ利用者増加を目的とするだけでなく、施設全体の窓口である事を意識し営業を行った。
- ③ 人員確保等ができず外出の機会が減っていたが、今年度も桜ドライブ・梅外出・バラ外出を行う事ができた。今までのキャラバンで一度に多くの人数で外出する事にこだわらず、短時間でワゴンRやクリッパーで往復することで職員の負担も減り、多くの方に参加していただく事ができた。

2. 職員の資質向上・職場環境改善

- I 毎週部署研修に1名は参加し、参考資料を全職員が目を通せるように、送迎表の横に保管。リーダーが中心となって、全職員へ研修を行った。リーダーが行う事でリーダー自身も研修内容を身に着けることができた。
- II 非常勤職員2名を業務改善委員会に選出し、2人を中心に5S活動に取り組み、職場環境改善を行う事ができた。非常勤職員が発信して行う事で、一人一人が環境整備を意識することができた。

3. BCPと感染防止対策

- I 感染症や災害が発生した場合においても、デイサービス事業を止めずに継続して利用者様に必要なサービスを提供するためのBCPの作成と体制作りを行い、全職員への周知徹底を行った。研修・訓練の実施を行った。
- II 引き続き、お迎え時の検温・体調確認、来所時のうがい・手洗いの徹底。適宜換気の施行、利用中の検温を実施する事で、感染拡大の予防に努めた。

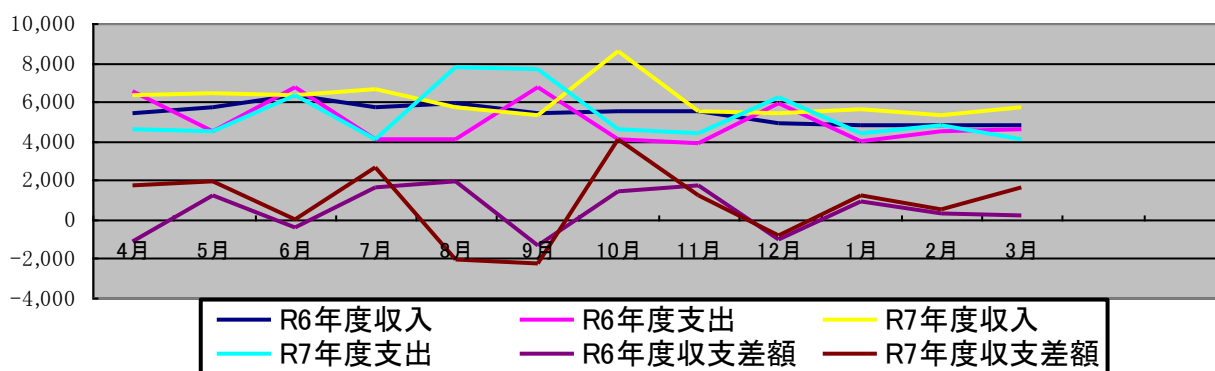
4. 令和7年度利用者状況と収支状況

令和7年度 収入・支出 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年差
R6 年度収入	5,441	5,737	6,298	5,759	5,942	5,385	34,562	5,475
R6 年度支出	6,573	4,528	6,719	4,116	4,026	6,679	32,641	-2,012
R7 年度収入	6,326	6,397	6,308	6,660	5,750	5,322	36,763	2,201
R7 年度支出	4,571	4,492	6,308	4,059	7,792	7,610	34,832	2,191
R6 年度収支差額	-1,132	1,209	-421	1,643	1,916	-1,294	1,921	7,477
R7 年度収支差額	1,755	1,905	0	2,601	-2,042	-2,288	1,931	10
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年差
R6 年度収入	5,547	5,534	4,860	4,802	4,812	4,800	64,917	4,955
R6 年度支出	4,088	3,849	5,900	3,934	4,505	4,600	59,517	-8,436
R7 年度収入	8,601	5,530	5,423	5,622	5,249	5,705	72,893	7,976
R7 年度支出	4,558	4,363	6,207	4,421	4,778	4,074	63,233	3,716
R6 年度収支差額	1,459	1,685	-1,014	868	307	200	5,400	13,391
R7 年度収支差額	4,043	1,167	-784	1,201	471	1,631	9,660	4,260

収支比較グラフ (単位：千円) 8月、9月エレベーター更新工事 合計 5,500

エレベーター更新工事補助金 2,750



以上

フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

令和7年度 事業報告書

令和7年度は「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに掲げ、入居者様が安心・安全に、その人らしい生活を送れるよう支援を行った。職員間での申し送りや情報共有を継続し、統一したケアの提供に努めた。また、入居者様一人ひとりの「できること」や「得意なこと」を活かしながら、自立支援や楽しみづくりにつながる支援を行った。感染対策を継続しながらも、外食や行事、面会などを再開し、ご家族様との交流機会を増やすことができた。下半期には職員間連携強化や支援内容の見直しにも取り組み、より良いケアの提供につなげることができた。

1. 入居者様の健康増進・笑顔を引き出す支援

- I 廊下歩行、散歩、日光浴、体操、口腔体操などを継続し、入居者様の健康維持に努めた。天候や体調に配慮しながら、無理のない範囲で身体を動かす機会を作ることができた。また、定時換気を行い、効率よく安全な空気環境を整えた。
- II 洗濯や掃除、炊事など、可能な範囲で役割を持てるよう支援を行った。日常生活の中で自然に身体を動かし、やりがいにつながる場面を増やすことができた。
- III 個々の好きなことや得意なことを把握し、担当職員を中心に支援を行った。ケース会議を通して支援方法を共有したが、継続的な話し合いには課題が残った。
- IV レクリエーション、音楽療法、華道教室、おやつ作り、外出、外食、買物、季節行事などを実施し、楽しみや笑顔につなげることができた。
- V 11月にケアハウスと協働しバス遠足を実施し喜んでいただけた。しかし寒い時期であったため、体調不良により参加できない方もおられた。次年度はより多くの方に参加していただけるよう、実施時期を早めて計画したい。

2. 入居者様の安定的確保

- I 令和7年度の稼働率は98%となり、前年度の96%を上回る実績で推移した。前年度は空室日数が100日に達したが、本年度は40日に抑えられた。入院日数は累計92日となっており、病気や骨折による長期入院への対応が引き続き課題である。
- II 見学时、明るく挨拶・楽しい雰囲気作りを心掛けた。管理者以外の職員にも情報の共有・提供を行い見学时、問い合わせ時に説明が出来る体制となった。急な見学依頼にも柔軟に対応。ケアハウスやショートステイの提案も行った。
- III 会議で名前のあがった方に対して早めに健康診断を依頼しスムーズに入居のご案内ができるよう努めた。
- IV SNSの活用。金額、雰囲気、サービス内容、空き状況等タイムリーに情報提供した。
- V 他部署と連携。ロングショート等活用し確保に繋いだ。新規入居者様4名がショートステイ利用者様である。

- VI 綺麗で季節を感じる施設作り。ここに住みたいと思ってもらえるよう、季節のお花を飾り壁画作りに力を入れている。目に見えない場所も常に整理整頓を行い、仕事しやすい空間づくりに心掛けた。しかし、居室のトイレや廊下等に汚れがあり、清掃が行き届いていなかった。居室担当者が主となり定期的な清掃（ホコリや汚れの拭きとり）を実施し、清潔で心地よい環境作りに努めていく。
- VII 管理者・リーダーの現場業務以外の時間があまり作れなかったが、適時入居確保業務を行い、待機者確保に努めた。
- VIII ADL 低下時等介護認定変更を速やかに行うよう努め、転居検討も実施。
- IX 体調管理、事故防止に努め、極力入院とならないようサポートに努めた。入院した入居者様に出来るだけ早く退院となるよう病院と連携を行った。

3. 業務改善・人材育成

- I 認知症ケアの専門職として、安心感を与える接し方や声掛けを意識し、一人ひとりに寄り添った対応に努めた。日々の申し送りでは、食事量や睡眠状況、排泄状況、精神面の変化など共有し、早期に体調変化に気づけるよう努めた。
- II 認知症研修と職員会議を(6月・9月・12月・3月)実施し、認識の強化・意欲の向上・ケアの統一・スキルアップを行った。正職員会議は実施することが出来なかったが、出勤時にこまめな情報共有を行った。今後は、会議の実施方法も検討しながら継続したい。
- III 内部研修に参加した職員が、申し送り時に研修内容を共有した。また毎週金曜日に認知症ケアや感染対策、不適切ケア防止について全職員で学ぶ時間を設けた。特にスピーチロクについては、「待つ」「早く」など無意識の声掛けが入居者様への不安や圧迫感を与えることを認識し、言葉使いや対応方法を見直した。
- IV 感染委員会を中心に、感染症発生時の研修を3か月に1回実施した。また、感染予防物品の在庫確認や補充も定期的の実施した。
- V BCPに基づき緊急時でも必要なサービスを継続できる体制を構築した。
- VI 職員がハラスメントを理解・意識できるよう研修を実施。働き易い職場を構築した。
- VII 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修等資格取得を推進。
- VIII 虐待防止・身体拘束研修を年に2回実施し、レポート提出。暴言、ネグレクト、不適切なケアを排除するため、申し送りやケース会議において「なぜ虐待が起こるのか」という視点で意見交換を継続的に行った。
- IX 11月に家族会を開催した。ICT導入、BCPについて、面会予約、外国人職員についての説明をし、情報共有を行った。

4. その他

- I 光熱費および物価高騰を受け、正職員を中心に節約意識の向上に努めた。不要な場所の消灯を徹底し、無駄な出費を無くすよう努めた。物品購入時は必要性を吟味し、稟議書に残額を記入することで節約意識の徹底を行った。
- II 施設の備品や物品を丁寧に扱い、長く大切に使用できるよう全職員への指導を行った。
- III 食堂の加湿器を広さに合った適切な機種へ更新を行い、感染予防に努めた。

5. 要介護者の年齢・介護度

平均年齢 3 階 90.7 歳・4 階 88.8 歳 平均介護度 3 階 2.7 4 階 2.0 (R8.3 月末)

6. 事故発生状況

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
転倒	R6 年度	2	1	2	7	2	5	0	1	4	3	4	5	34
	R7 年度	0	0	0	1	2	1	3	5	4	2	3	5	26
転落	R6 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R7 年度	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
内出血 打撲	R6 年度	2	3	5	4	2	2	5	6	1	2	5	2	39
	R7 年度	9	7	8	4	7	9	4	3	4	10	3	9	77
傷 裂傷	R6 年度	1	4	3	2	0	5	2	5	1	3	0	0	26
	R7 年度	3	0	2	1	5	4	3	2	2	4	0	1	27
異食 誤嚥	R6 年度	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4
	R7 年度	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
薬	R6 年度	1	1	1	2	0	2	1	1	1	0	0	2	12
	R7 年度	1	0	0	2	2	0	2	1	1	2	0	0	11
その他	R6 年度	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	R7 年度	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	5
合計	R6 年度	7	9	12	18	4	14	9	13	7	9	7	9	118
	R7 年度	14	8	11	9	16	16	12	11	13	18	7	15	150

転倒…右腕剥離(受診)、左大腿部頸部骨折(手術・入院)、人工骨頭置換術(手術・入院)

誤嚥…喉詰め 異食…あじさいの葉

7. 利用日数・稼働率

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総日数		540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6,570
利用日数 (日)	R6 年度	540	558	538	558	558	528	551	540	527	499	440	527	6,364
	R7 年度	540	554	540	555	551	532	557	537	516	529	481	546	6,438
入院 (日)	R6 年度	0	0	0	0	0	12	0	0	31	34	29	0	106
	R7 年度	0	4	0	2	0	0	1	1	27	29	16	12	92
空室(日) (退居)	R6 年度	0	0	2	0	0	0	7	0	0	25	35	31	100
	R7 年度	0	0	0	1	7	8	0	2	15	0	7	0	40
稼働率 (%)	R6 年度	100%	100%	99%	100%	100%	97%	98%	100%	94%	89%	87%	94%	96%
	R7 年度	100%	99%	100%	99%	99%	99%	98%	98%	93%	77%	95%	98%	98%

8. 年間収支結果

単位（千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月		
令和 6 年度収入	6, 638	6, 725	6, 686	7, 042	7, 117	6, 537		
令和 7 年度収入	6, 773	6, 762	6, 688	7, 440	6, 904	6, 526		
令和 6 年度支出	4, 976	4, 798	8, 480	5, 487	5, 255	5, 173		
令和 7 年度支出	5, 302	5, 205	9, 314	5, 478	5, 891	5, 382		
令和 6 年度収支差額	1, 662	1, 927	-1, 794	1, 555	1, 862	1, 364		
令和 7 年度収支差額	1, 471	1, 557	-2, 626	1, 962	1, 013	1, 144		
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	前年度比
令和 6 年度収入	6, 847	6, 337	6, 916	6, 202	5, 678	6, 852	79, 577	101. 3%
令和 7 年度収入	6, 892	6, 549	6, 525	6, 394	6, 369	7, 415	81, 237	102. 0%
令和 6 年度支出	5, 385	5, 200	7, 960	5, 592	5, 355	5, 782	69, 443	100. 6%
令和 7 年度支出	5, 526	5, 094	8, 300	5, 507	5, 642	6, 985	73, 626	106. 0%
令和 6 年度収支差額	1, 462	1, 137	-1, 044	610	323	1, 070	10, 134	
令和 7 年度収支差額	1, 366	1, 455	1, 775	887	727	430	7, 611	

※減価償却費等は計上せず

以上

介護型ケアハウスサンライフ魚崎

令和7年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」をスローガンとし、職員が少ない中でも入居者様の健康増進と、職員の働きやすい環境づくりに注力した。今年度は特に、次年度以降のサービス向上を見据えた「基盤整備」と「業務の最適化」に重点を置いた一年となった。

5月末にケアハウス1階でコロナウイルスが発生。感染対応を行ったが連鎖的に合計7名の入居者様が発熱・陽性が出てしまった。入院される方はおられなかったが終息までに概ね2週間を要した。

1月にインドネシアからの特定技能生1名、2月に1名が入職した。資格取得においては介護福祉士国家試験にEPA候補生が1名と特定技能生2名が受験、EPA候補生1名と特定技能生1名合格することができた。

1. 入居者様の健康・喜ばれる介護支援

- I 入居者様一人ひとりに合わせた個別活動目標を設定し、日々の取り組みを継続的に確認することで、健康維持に努めた。
- II 音楽療法（月3回）やハーブセラピー（月1回）を継続し、入居者様に潤いのある時間を提供できた。
- III 毎週火曜日・水曜日を手作業・散歩・書道・入居者様と職員が一緒におやつを作る等、余暇活動企画日としていたが、下半期は企画を見合わせ日々の介護支援に注力するようにした。
- IV 入居者様の居室を入居者様担当職員が必ず月1回は整理・清掃実施した。食堂等の共用部については業務改善委員会を中心に不要な物の整理・物品の整頓を月1回行っている。
- V 11月にグループホームと共働き、須磨シーワールドへバスハイク企画・実施した。入居者様8名、家族様1名参加され、皆様大変喜んでいただけた。
- VI 11月より歯科医師、歯科衛生士、生活相談員、看護師、介護職で行う口腔ケアカンファレンスを再開し、お互いに入居者様の口腔情報共有を行うようにした。

2. 入居者様の安定的確保

- I 前年度入院日数180日に対し今年度は235日、空床日数は前年度211日に対し181日となった。骨折による入院が3件あり、退院までに1カ月以上の期間を要した。
- II 上半期は空床が出た際にタイミング良く、入居のご相談をお受けすることができたが下半期は例年通り問い合わせや見学希望はあるものの、申し込みにつながるケースが少なくなっている。サンライフ住吉川・サンライフさくら魚崎北町とも随時連絡を取り合っているが、入居者様の確保が難しくなっている。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I インドネシアからの特定技能生が1月下旬より1名、2月に1名が入職した。インドネシアの先輩職員のサポートを受けながら業務にあたっている。
- II 生産性向上の為、施設内 ICT 化（Wi-Fi・スマートフォン・眠りスキャン・インカム・見守りカメラ）に向けて、入念に情報収集を行いつつ検討会を重ねた。10月に兵庫県介護テクノロジー導入支援事業の申請を行った。12月末に申請の認可が出た後、Wi-Fi・カメラ工事、機器の発注を行い2月末までに工事・納品・支払いを終えることができた。
- III 本部長代理・施設長を中心とした介護福祉士・介護支援専門員試験講座や学習の進捗状況の確認、勉強方法のアドバイスを行った。EPA 候補生1名、特定技能生1名介護福祉士国家試験に合格、介護支援専門員実務研修受講試験に1名合格することができた。
- IV 11月に家族会を開催し20家族21名の方に参加頂くことができた。ICTの導入、BCP、面会予約、入居者様の食事、看取り介護、口腔ケアカンファレンス、外国人職員についての説明と情報共有・質疑応答を行い、理解を深めて頂くことができた。
- V 年間研修計画に沿って、虐待防止・身体拘束・感染症・BCP等の研修を行った。一部研修については効率的に進めることができるようWEB上で研修ができるようにした。
- VI 9月よりホームページでの面会予約システムを構築・稼働させた。電話対応による面会予約がほとんどなくなり、面会時間確認や事務所との情報共有がパソコン上でできるようになっている。

4. その他

- I 1階浴室のリフト浴小枠が老朽化していたため、12月に更新を行った。
- II 5月末にケアハウス1階でコロナウイルスが発生。感染対応を行ったが連鎖的に合計7名の入居者様が発熱・陽性が出てしまい終息までに概ね2週間を要した。

5. 利用日数・稼働率・入院日数・外泊日数・入退所人数・看取り人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	8,784
利用日数	1,409	1,478	1,430	1,421	1,456	1,422	8,616
稼働率	97.8%	99.3%	99.3%	95.5%	97.8%	98.8%	98.0%
入院日数	20	2	10	35	18	0	85
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	11	8	0	24	14	18	75
退居者数	2	0	0	2	2	0	6
新規入居者	1	1	0	2	1	1	6
看取り人数	2	0	0	2	1	0	5
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	1,488	1,440	1,488	1,488	1,344	1,488	17,568
利用日数	1,486	1,386	1,469	1,435	1,290	1,414	17,081
稼働率	99.9%	96.2%	98.7%	96.0%	96.0%	95.0%	97.6%
入院日数	0	0	1	45	46	58	235
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	2	54	18	8	8	16	181
退居者数	1	1	0	1	1	2	12
新規入居者	0	1	1	0	1	1	10
看取り人数	1	1	0	0	0	1	8

6. 年間収支結果

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
令和 6 年度収入	19,870	21,336	21,157	20,842	20,855	21,022	125,082	
令和 7 年度収入	19,838	21,262	20,357	21,205	20,516	19,988	123,166	98.5%
令和 6 年度支出	15,292	13,793	27,474	13,813	14,293	14,476	99,145	
令和 7 年度支出	17,719	13,930	25,945	13,801	15,469	14,454	101,318	102.2%
令和 6 年度収支差額	4,574	7,543	-6,317	7,029	6,542	6,546	25,917	
令和 7 年度収支差額	2,119	7,332	-5,408	7,404	5,047	5,534	21,848	84.3%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
令和 6 年度収入	20,209	20,206	22,365	20,294	19,427	22,214	249,797	
令和 7 年度収入	20,657	21,167	22,139	20,532	19,077	22,276	249,014	99.6%
令和 6 年度支出	16,351	14,085	27,068	14,645	22,877	23,909	218,080	
令和 7 年度支出	15,596	13,825	25,043	14,638	15,836	22,863	209,119	95.9%
令和 6 年度収支差額	3,858	6,121	-4,703	5,649	-3,450	-1,695	31,717	
令和 7 年度収支差額	5,061	7,342	-2,904	5,894	3,241	-587	39,895	125.8%

※減価償却費等は計上せず

※収入は令和 6 年度と比べ 99.6%、支出は 95.9%、収支差額は 125.8%の結果となった。

職員の退職が 3 名、産休 2 名と人員が厳しい年度であった。

物価高騰等の影響もあってか、思っていたよりも支出減にはならなかった。

以上

介護型ケアハウスサンライフ魚崎 医務室

令和7年度 事業報告書

＜スローガン＞ 「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」

【令和7年度 受診・往診・入院・救急・看取り件数等】

月	往診	受診	入院	救急	看取り	薬管理	入居数	退所	入所
4月	130	12	0	0	2	47	47	0	1
5月	121	7	1	1	0	47	47	0	1
6月	106	6	1	1	0	47	47	0	0
7月	123	4	1	0	2	47	47	0	2
8月	115	12	0	0	1	47	47	1	1
9月	149	7	0	0	0	48	48	0	1
10月	144	7	0	0	1	47	47	0	1
11月	117	6	0	0	1	47	47	0	1
12月	120	5	1	0	0	47	47	0	1
1月	116	7	1	1	0	45	45	1	0
2月	121	4	1	1	0	46	46	1	1
3月	141	10	2	1	1	46	46	0	1
合計	1359	87	8	5	8	561	561	3	11

1. 入居者様の健康管理

- I 入居希望者様との面接に同席し、内服や処置など生活上の医療的な問題や、必要とされる病院受診の把握に努めることができた。
- II 入居者様の体調確認を行い、受診の必要がある場合は速やかに医療機関へつなぐことができた。入院件数が8件で、気管支炎1名、肺炎1名、不明熱1名、骨折3名、脳出血1名、検査入院1名だった。
- III 毎月医療連携報告書を主治医へ提出、医師と看護師の情報共有を行うことができた。
- IV 歯科衛生士の口腔ケアを2カ月に1回は実施できた。歯科との連携がうまく取れず（往診になかなか来てくれない、治療内容の不満等）、入居者様や家族からの苦情が出ている。直接家族様と医師で話をしてもらい、歯科変更等で対応した。3ヶ月に1回カンファレンスを行い、看取り期の口腔衛生の保持方法や、食事が進まない方の食事形態、口を開けて下さない方の口腔ケアの方法等を話し合い、有意義な時間となった。
- V 褥瘡に関しては、高カロリー補助食の提供などによる栄養状態の管理、臀部が長期汚染状態にならないよう下剤の適切な使用、内服薬の調整、クッションを用いた除圧の工夫、保湿剤を用いたスキンケアなど取り組み、新たな入居者様に褥瘡の発生は見られなかった。エアマットの追加購入により必要な方に使用してもらえるようになった。
- VI 今年度は転倒し骨折された方が3名、うち2名は救急搬送で手術入院、1名は肋骨の骨折により気管支炎を起こし入院となっている。徘徊や筋力の低下によるふらつき等で転倒

される方も多く環境整備が重要になってくるが、職員不足により気が回らないことや、意識も低いように思われるため、転倒の要因となるものはないか目を光らせ、積極的にカンファレンスに参加し、職員全体で転倒予防に努められるよう働きかけていく。

VII 筋力維持、向上の為に職員によるリハビリやレクレーションを推奨しているが、職員不足によりできないことが多い。

2. 感染対策

I 手洗い・うがい・マスク着用を促し感染経路の遮断を行っている。面会が緩和されたため、外部からの感染については注意が必要。面会時にマスク着用しているか、飲食していないかなどカメラで確認していく。

II 体調不良時は速やかに医師に報告し、悪化しないよう努めることができた。6月にコロナの陽性者が7名出たが全員大事には至らず、2週間弱で終息した。今回はおそらく職員からの感染と思われるため職員の自己管理が大切。尿路感染で発熱した方が多かった為、手指や陰部の清潔を保つことや水分の補給など進めていくことが大事。昨年度は冬に風邪症状や心不全を起こす方が数多くいらっしゃったが、今年度は室温に気を配り、防寒対策を万全にすることで防ぐことができた。

III 感染対応物品が定位置に定数あるよう使用后確認しており、感染予防の内部研修により補充場所についても学習できた。

3. 看取りの対応

I 入居時に、危篤時の対応を入居者様・ご家族様の意思を確認しておくことができた。

II 今年度は8名の方を看取った。1名は家族に看取りについて説明はしていたものの同意書に記入する前に亡くなってしまい、スムーズに看取りに移行できなかった。トラブルにはならなかったが今後は時期が来たら早めに同意書にサインしてもらう事が必要。1名は心療内科の内服についてご家族から不満の訴えがあり、最終的にはご理解頂けたが、看護師からだけでなく医師から家族に説明してもらう機会を作ることも必要。他6名の方は特に問題なくスムーズに看取りの対応ができた。

III 虐待や不適切ケアは見かけなかったが、今後も入居者様の心配や不安に耳を傾け、優しく丁寧な看護に一層努力していく。また、職員についてもストレスが溜まっていないか、無理な仕事の配分をしていないか配慮していく。

4. 看護職員の研修・健康管理

I 内部研修に積極的に参加し、参加できなかった職員に学びを共有した。外部研修に関しては日程が合わず参加できていない。

II 3人で業務の分担をし、個人の仕事量が多くならないように配慮できた。しばらく2人体制の期間があったが、連続勤務にならないようシフト作成し、有給休暇等を計画的に取得、体調崩すことなく出勤できた。悩みや相談を言いやすい関係づくりに努め、風通しの良い働きやすい環境を作る事に努めている。

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎 厨房

令和7年度 事業報告書

今年度、ささゆり会の経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行」を実現するため、継続して厨房職員の人材育成・職場環境改善を重点に置き、利用者様・入居者様に好まれる安心・安全・美味しい食事の提供を目指した。

今年度は、常勤の管理栄養士2名入職。常勤非常勤職員は6名の入職があったが4名退職。また、食材費については物価高騰が続いており、前年度と比較すると1,513,547円と大幅な増額となった。

1. 新たな人材育成、職場環境の改善

今年度は、新入職員の定着率向上を目標とし、各業務の指導時には担当職員を配置することで、余裕を持って業務に携われる体制づくりに努めた。4月に常勤管理栄養士2名が入職し現在も在職中。一方、非常勤職員については、新たに入職した6名のうち3名が2月末までに退職となり、いずれも短期間での離職であった。厨房業務は、入職前に具体的な業務内容をイメージしづらく、入職後にギャップを感じやすいことが特徴であり、それが離職要因の一つであると考えられる。今後は、初回見学時に厨房職員から説明すべき内容を整理・明確化し、職員間で共有することで、入職前後の認識の差を少しでも減らしていきたい。また、現在勤務している新入職員は全員未経験者であるため、長期的な視点で丁寧な指導と見守りを継続していく必要がある。

個人で対応できる業務の幅を広げていくことを目標としていたが、各ポジションの交代や、調理師による管理栄養士・非常勤職員への調理指導を通して、以前よりも柔軟な人員配置が可能となり、一定の成果が見られた。また、意見や要望を共有できる場として昼礼の実施を目標としていたが、当初は時間設定に余裕がなく継続が困難であった。その後、開始時間を概ね調理終了後へ変更したことで、現在は毎日継続して実施することができている。

2. 衛生管理の徹底

定期清掃に加え、普段から手が届きにくい場所の清掃にも取り組むことを目標としており、職員一人一人が主体的に取り組むことができた。今後は、清掃目標を分かりやすく掲示・共有することで、優先度の高い箇所から効率的かつ漏れなく清掃を実施できるよう改善を図っていきたい。

チョウバエの繁殖については、駆除業者より提案された方法を継続して実施しており、一定の効果が見られている。今後も現状を維持できるよう努めていく。

調理器具に破損・劣化が見られたものは随時新調した。まな板は交差汚染防止を目的として、食材ごとの使い分けを明確にするカラーまな板を導入した。今後も、破損による事故防止に努めるとともに、衛生管理体制のさらなる向上に取り組んでいく。

3. 食材価格高騰に対する対策

今年度も円安等の影響による物価上昇が続き、前年度と比較して食材費が増額となった。特に米価格の大幅な高騰があったため、一時的に仕入れ業者を変更したが、その後価格が下落傾向となり現在は元の仕入れ業者に戻している。その他の食材についても随時他商品との価格比較を行いながら仕入れを行っているが依然として厳しい状況は続いている。今後も個別商品の値上げに敏感に反応できるよう献立ソフトのマスター上で常に最新の価格へ更新を行い、適切な栄養量や食事の楽しみと実現可能な食単価との両立を図っていく。

令和7年度 食材料費実績

(円)

	R6年度	R7年度	増減(%)
4月	2,539,313	2,845,682	+12.0
5月	2,922,627	2,916,857	-1.0
6月	2,531,369	2,854,833	+13.0
7月	2,847,302	3,010,980	+6.0
8月	2,738,121	2,881,125	+5.0
9月	2,765,155	3,042,457	+10.0
10月	2,889,581	3,056,276	+6.0
11月	2,574,242	2,755,621	+7.0
12月	3,055,050	3,111,137	+2.0
1月	2,838,774	2,770,750	-2.0
2月	2,606,818	2,528,511	-3.0
3月	2,911,531	2,959,201	+2.0
合計	33,219,883	34,733,430	+5.0

※昨年度比較、1,513,547円増額

4. BCPサイクルの取り組み

今年度も実際に防災食の提供を行い、非常時の給食提供フローについて確認を行った。また研修を通して厨房での感染症発生時にどう対応するか、全職員で確認し、今後も多様な状況を想定し、非常時に適切な対応が行えるよう情報共有と訓練に取り組んでいく。

5. 美味しい食事の提供

今年度も年に1回行う嗜好調査の結果や、各部署の給食委員より頂いた意見も反映しながら新しい献立の導入を行っている。また、新たに2件の仕入れ業者との取引を開始した。定期的な情報提供に加え、必要に応じて問い合わせやサンプル提供依頼を行うことで新メニューの開発や既存メニューの改善につなげることができた。

今後も、利用者様・入居者様に喜んでいただける食事提供を目指し、継続して献立改善および食事サービスの向上に努めていく。

以上

サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

令和7年度 事業報告書

今年度の法人経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行」に沿ってケアマネジメントを行い、昨年に引き続き黒字をできるだけ増やす方向で進めていきました。令和6年4月の介護保険改正に伴った対応ができるようにしました。

1. 感染症や災害への対応力強化

B C P（事業継続計画）を備えたマニュアルを確認し、訓練も行いました。

7月23日 B C P 感染症研修 岩佐 島田 斎藤 施設内研修参加

10月22日 B C P 災害対応研修 岩佐 島田 斎藤 施設内研修参加

2. 適正なケアマネジメント

I 退院・退所時カンファレンスにおける福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画することを明確にしました。

II 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付けました。

III 昨年6月の神戸市指導監査で口頭指導があり、今年度は次のように取り組みました。サービス担当者会議録の事業者への配布、主治医との連携をしっかりとる、変更申請をかけた方への暫定ケアプランを適時行う、加算については加算要件をしっかりと確認していきました。

IV 神戸市ケアプラン点検の実施を受けました。

令和7年11月12日から令和8年4月6日までの間に書類審査、ヒアリングを1月6日に受け、実績報告書を3月に提出し、無事終了致しました。

3. 研修・その他

I 外部研修

令和7年8月19日 「災害時私たちはどう動くか」 参加：岩佐・島田・斎藤

令和7年9月29日 「子どもヤングケアラーの取り組みと実際」 参加：島田（区役所）

令和7年12月4日 「社会福祉事業経営改善セミナー—女性力で変えよう福祉現場」

参加：岩佐・島田

令和8年2月24日 「地域ケア会議」 参加：岩佐

令和8年3月13日 「神戸市若年性認知症支援者研修」 参加：岩佐・島田

II 高齢者虐待、ハラスメント、困難事例等、人権尊重に基づいたケアマネジメントについて地域包括支援センターと連携をはかり、早めに対応していきました。

Ⅲ 今年度は主任介護支援専門員が二人となりました。今後特定事業所加算をとれるように準備していきます。結果的には、特定事業所加算はとれていません。

収支報告（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度収入実績	1, 495	1, 424	1, 469	1, 419	1, 462	1, 453	8, 722
令和 7 年度収入実績	1, 572	1, 426	1, 458	1, 450	1, 468	1, 477	8, 851
令和 6 年度支出実績	1, 358	1, 110	2, 759	1, 133	1, 163	1, 226	8, 749
令和 7 年度支出実績	1, 380	1, 100	2, 737	1, 076	1, 218	1, 222	8, 735
令和 6 年度収支差額実績	557	386	-1, 224	340	335	273	667
令和 7 年度収支差額実績	192	326	-1, 279	374	250	263	126
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度収入実績	1, 559	1, 476	1, 557	1, 500	1, 500	1, 500	17, 814
令和 7 年度収入実績	1, 526	1, 503	1, 443	1, 527	1, 440	1, 454	17, 740
令和 6 年度支出実績	1, 417	1, 220	2, 617	1, 180	1, 180	1, 180	17, 523
令和 7 年度支出実績	1, 296	1, 192	2, 727	1, 193	1, 191	1, 560	17, 894
令和 6 年度収支差額実績	379	258	-1, 060	320	320	320	291
令和 7 年度収支差額実績	230	311	-1, 284	334	249	-106	-154

管理者意見

令和 6 年度より担当件数が 45 件となっています。支援を滞りなく行い、利用者数もできるだけ担当できるよう努めます。一人当たりの担当件数の増加に努める必要があります。いつまでも赤字というわけにはいきません。

以上

魚崎北部あんしんすこやかセンター

令和7年度 事業報告書

今年度は、「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」のスローガンのもと、感染症に配慮してイベント開催し、魚崎地域、甲南地域、北青木地域に分けて分析し地域にアプローチをした。

魚崎地域でのラジオ体操は、参加者が中心にラジカセやのぼりを準備し実施、センターは、その機会に、熱中症や詐欺等の注意喚起や神戸市の施策などの広報を行った。また地域の方のコミュニティの場となっている。

甲南地域では、令和5年度の地域ケア会議でできたネットワーク「プロジェクト甲南」のメンバーと連携し、今年度より介護事業所も参加、4カ所でスタンプラリー形式を用い実施した。甲南商店街にて「ふらっと立ち寄れる居場所、情報を得る事ができる場所」を継続開催できるよう、7月に地域ケア会議を開催し、地域ボランティア・民生委員・コープ甲南店・甲南商店街のお店の方々・介護事業所の意欲を高め、連携関係を強化し、センター中心から、ボランティアの主体性が出てきている。7月七夕フェスタ、10月ハロウィンイベント、3月防災テーマのイベントが開催できた。

北青木地域は、センターより離れている為、西青木総合会館で毎月（8月以外）第3水曜日の午前に、相談及び神戸市の元気いきいき体操を一緒にして頂き介護予防をしていただく会を継続開催できた。またフレイル予防のイベントを2回開催し介護予防の啓発ができた。

今年度、センター職員の職種の異動が10月にあったが、事前準備し、担当の利用者や職務もスムーズに移行できた。

年間虐待8件、困難事例21件と多かったが、随時情報共有し対応を検討し、迅速かつ素早くチームワークを発揮して連携し実践できた。年々対応力アップできている。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

消費者被害注意喚起の広報については、9月に起きた圏域内の実際の事例をもとにチラシを作成し、圏域内施設の運営推進会議、地域のラジオ体操、つどい場、地域拠点型一般介護事業にて、配布した上で説明し、新規相談時やモニタリング訪問の際、個別にチラシを配布して、注意喚起を行った。民生委員、東灘防犯協会魚崎支部長へは時間を空けず速やかに電話等で報告した。東灘区は被害数・被害額ともにワーストクラスなので、広報活動は粘り強く継続。

虐待予防パンフレットについては家族からの新規相談時や、家族支援の際、虐待疑いのケースに訪問する際、個別に配布させていただいた。パンフレットの中にあるチェックリストが家族と面談する際、使い易いということと虐待という言葉が殆ど使われていないので、とても使い易いと感じている。また、8/19開催の事業者連絡会で配布し、養護者支援や早期通報への協力、パンフレットのご活用について広報した。

成年後見制度についても 8/19 開催の事業者連絡会で、センター独自のチラシを配布し、認知症になったからと言って、必ずしも銀行口座が凍結されるとは限らないが、そうした心配が後見について検討する契機であることを説明し、広報した。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

10/25：甲南商店街のハロウィンイベントにて、仮装した子供 100 名程に認知症クイズを出し、認知症や高齢者への対応を知って頂いた。またそのご家族様に、認知症対応方法や高齢者の相談窓口であるセンターの事を記載したチラシを配布し広報できた。

3/12：横屋会館で老人会 26 名に向けて、甲南医療センター認知症疾患センターの相談員に講師になって頂き、認知症とは、神戸市の施策、声掛けのポイントを講義していただいた。また認知症希望大使の動画視聴。後半は、認知症 VR 体験。認知症声掛け訓練、神戸市の施策の見守りシールについて説明し、見守りシールの QR コードを読み取り、指定の電話番号に連絡する訓練を（連絡すると警察が保護してくれる制度）実施できた。質問も複数あり活気あふれる訓練となった。

3/28：甲南商店街の防災イベントにて、防災及び認知症のクイズを出し、多世代の人に情報提供できた。

3. 健康寿命延伸の推進に関する業務（神戸市から年間 85 万円委託料あり）

魚崎北町の校北公園にて毎週水曜日（雨天中止）の 9 時半からラジオ体操実施。5～11 名参加。

北青木地域の西青木総合会館で「シニア元気相談会」を毎月第 3 水曜日（8 月以外）午前開催し、相談だけでなく、神戸市の元気いきいき体操も一緒に実施。通常時は 3～6 名参加。イベントも実施した。

6 月：シンコースポーツによるフレイル支援事業開催。21 名参加。

9 月：スマイループ訪問介護の PT によるフレイル予防講座。11 名参加。

4. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催

（神戸市から年間最高 50,000 円開催経費あり。）

7/18：第 1 回「地域ケア会議」「～プロジェクト甲南～甲南地区でやってみよう♥」をテーマに開催。24 名参加。「10/25 甲南商店街のイベント内容について」話し合いを行う。

11/21：「第 2 回地域ケア会議 北青木の防災を考える」を開催。地域の防災士を招いて、各立場の人々から災害時に何ができるか、グループワークを実施した。26 名参加。新たな社会資源創出は難しかったが、シニアクラブで災害を取り上げるなど、参加者の行動変容につながった。

2/24：「第 3 回地域ケア会議：個別事例を通して生活困窮者支援を考える」を開催。例年になく生活困窮者事例が多かったことを受け、その中の個別事例で地域ケア会議を実施した。食糧支援を実施するインフォーマルな支援者と介護保険事業所とのつながりを作ったことや生活困窮者支援に関わる制度の課題を出すことができたことが成果である。18 名参加。

5. 包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）

I 東灘区あんしんすこやかセンター合同主催にてケアマネ支援の研修会実施

7/9：「パーキンソン病の理解を深め、利用者の思いに向き合い支えるために必要な医療介護を学ぶ」86名参加。

9/24：「こども・若者ケアラー相談と取り組み」39名参加。

11/20：「～食べる力を支えるケアとは？咀嚼・嚥下・姿勢・訪問栄養のポイント～」27名参加。

3/11：「～障害福祉サービスから介護保険移行について学ぶ～」44名参加。

II 事業者連絡会開催

8/19：事業者連絡会「災害時の対応について皆様と考える。あんしんすこやかセンターから伝えたいこと。皆様から教えていただきたいこと。分かち合いたいこと。」をテーマに開催。20名参加。災害時スムーズに連携できるように、連絡方法の確認など行い「災害時連携事業所一覧」を作成できた。

6. 地域での見守り・居場所づくりや地域活動を後方支援

地域活動の「かしまし処」「うおざきご近助さん」「サロンさかなちゃん」「東灘こどもカフェ」「校北公園のラジオ体操」の後方支援を実施継続している。

プロジェクト甲南ネットワークでは、「ゆるーくつながるお楽しみ会」としてコープ甲南、商店、福祉事業所、地域団体、地域ボランティアと連携してイベントを7/5七夕フェスタ、10/25ハロウィンフェスタ、3/28「防災」をテーマにしたイベントを開催し、多世代交流、グループ間の協力や地域とのつながりのきっかけづくりを行っている。

また、ボランティアに参加したいという方の声を受けて、情報提供や場所につながるように支援を行った。イベント当日だけではなく、準備段階の関わりの場も居場所としての機能を持った活動になっている。

7. 介護リフレッシュ教室の開催

（神戸市より基本1開催2万と講師料・会場費1回1万円上限、年間6回以内。委託料あり。）
介護者を対象にした介護リフレッシュ教室企画開催

5/22：「ボッチャ体験＋交流会」参加者11名＋ボランティア6名 合計17名参加。

8/6：「サマーミニコンサート＋交流会」15名参加。

11/13：「フラワーアレンジメント＋交流会」トライやるウィークの中学生含18名参加。

1/30：「チェアヨガ＋茶話会」12名参加

毎回企画イベント後に講師も交えて交流する時間を設け、介護者同士お話しすることや思いについて共有する時間を作って、リフレッシュして頂いた。参加者同士で会話が弾み、次回を楽しみにされる意見多く、来年度は年5回企画予定とする。

8. 介護予防マネジメント 総合相談支援

令和 8 年 3 月末現在、サービス利用者 257 件（受託 196 件、委託 61 件）（前年比 109%）委託割合 24%。委託事業者（当法人含む）契約件数 14 件介護予防支援 179 件。
総合事業 78 件。新規件数 96 件。要介護に移行した件数 10 件。中止件数 39 件。

9. 令和 7 年度収支

（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
① 前年度収入	912	25,026	878	839	856	884	29,398	
② 今年度収入	1,073	25,067	953	908	894	941	29,838	101%
③ 前年度支出	2,119	1,984	4,025	2,083	2,046	2,076	14,335	
④ 今年度支出	2,133	2,182	4,149	2,036	2,241	2,089	14,830	103%
⑤ 前年度収支差額	-1,207	23,042	-3,147	-1,244	-1,189	-1,191	15,062	
⑥ 今年度収支差額	-1,060	22,885	-3,196	-1,128	-1,347	-1,148	15,006	99%

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	前年度比
⑦ 前年度収入	900	876	926	933	883	905	34,821	
⑧ 今年度収入	892	926	955	983	965	992	35,554	102%
⑨ 前年度支出	2,268	2,124	3,979	2,089	2,062	2,671	29,528	
⑩ 今年度支出	2,001	2,213	3,959	2,154	2,032	2,891	30,080	101%
⑪ 前年度収支差額	-1,368	-1,248	-3,052	-1,156	-1,179	-1,766	5,293	
⑫ 今年度収支差額	-1,109	-1,287	-3,004	-1,171	-1,067	-1,899	5,469	103%

令和 5 年度までは、神戸市からの委託費が、年間 3 回に分けて 5 月、8 月、12 月に支払われたが、令和 6 年度からは、5 月に一括で支払われた為、上半期は収入が多い。
非常勤 1 名が常勤となった為、支出は昨年より、552,000 円増えたが、ケアプランサービス利用者が、257 件で、3 月より 22 件増えており、去年より 733,000 円収入増となっている。

以上

サンライフ魚崎 事務所

令和7年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」

1. 経営結果

事業活動収支差額は、92,174 千円、前年比+24,277 千円、投資有価証券売却益・施設整備等補助金収益等が寄与した。昇給を7 千円近く行っただが、産休が5 名あり、人件費がほぼ前年並みで、概ね、介護保険活動収支差額は前年並みと考える。

設備投資は神戸市の半額補助金を活用して、本館エレベーター2 号機及び厨房小荷物昇降機を更新した。ケアハウス1 階の個浴昇降入浴装置の更新、居室を除くグループホーム共用部（食堂・内部廊下・脱衣室・玄関・外部階段・ポーチ及びシルバーハウジング共用廊下等）215 箇所全てを神戸市がLED 化した。残りはグループホーム居室・ケアハウス・本館地下洗濯室・教育室になった。

神戸市及び兵庫県より、テクノロジー導入支援事業約26,530 千円、職場環境改善事業3,128 千円・住宅手当補助1,299 千円・物価高騰対策緊急支援事業981 千円・特定技能生学習支援補助343 千円・障害者雇用調整金263 千円・事務費補助2,533 千円・要援護者支援センター委託料2,300 千円・EPA学習支援補助175 千円総計43,053 千円の支援を受けた。

2. 人材確保・育成

介護福祉士2 名、介護支援専門員1 名合格、インドネシアからの特定技能生には、1 期生は日本語研修、2 期生・3 期生には、日本語研修に加えて介護福祉の専門研修を、施設長・事務長・相談員が講師となって1 年間、びっしりと実施した。特定技能生はこれに加えて、自主的に複数人が、くすのき株式会社が実施しているズームによる日本語講座に参加している。

介護職員・厨房職員・事務職員の募集をハローワーク・インディード・紹介事業者を活用し、積極的・連続的に行った。新卒の介護職員の確保は、特定技能生のみであった。非常勤での半日勤務や6 時間勤務などの主婦層の採用が厨房・ケアハウス・グループホームにおいて5 名以上できた。厨房は比較的応募が旺盛で、令和8 年度には職員給食日を何とか下半期から木・金・土の3 日増やし、全日提供を目指したい。

3. 辞めない組織づくりと職員の健康

幹部職員との面談を施設長と本部長代理が3 月に行った。互助会と協力し、ボーリング大会・六甲山ハイキング・忘年会を行って親睦を深めることができた。

職員の健康診断結果を見ると、比較的若い方などにも高血圧・高脂血症などの症状が出ているが続いている。バランスのよい食生活・適度の運動・しっかり睡眠時間確保を訴えているが、いまだ効果が出ていない。

4. 研修支援

法定研修を落とすことがないように、1年の内部研修スケジュールに沿ってほぼ毎週水曜日、本館2階ホールにて行った。担当講師が資料を準備し参加者に配布、講義と問題解答等を行い、毎回、10名から13名参加した。参加できなかった職員は、各部署で個別に研修を行い、全員参加ができた。介護支援専門員の更新手続きを行い、今年度更新対象者の手続き期限、研修受講日程などをフォローし、更新必要者6名全員が手続きを完了した。

5. 提案活動の拡大

特養・短期入所・グループホーム・ケアハウスの入居者様への家族様の面会を積極的に拡大することに努めた。今まで事務所と現場が何度も電話でやり取りしながら面会者やその面会時間を決めていた。面会日時決定にズレがないようにするために、大変な時間を介護現場と事務所に負担がかかっていた。職員の提案からホームページ上で面会予約が出来るシステムの提案があり、R7年10月から運用を始め、電話対応の時間がかなり削減できた。現在、外食や外出のみ事務所が受け付けるようにしているが、これも結構手間がかかっている。今後は外出や外食もホームページで予約出来るシステムに改善したいと思っている。このシステムは提案が実行に移されたものである。提案活動は、この他にも数件有力なものがあるので、これらを活用したい。

6. ICT化の推進

R8年2月までに全部署にWi-Fiを設置し、特養・短期入所・グループホーム・ケアハウスに眠りスキャンを配置した。iPhoneも全部署に日勤者分配置し、パソコンもWindows11搭載、ストレージ容量256GB、メインメモリ16GBに全部署更新した。これで「ほのぼのボイス」、将来搭載予定の「ほのぼのトーク」機能にも使用可能な性能を確保した。このパソコン性能更新やスマホ現場投入で、記録のための待ち時間が解消し記録作業が高速化され、業務時間の大幅な短縮が期待されるようになった。また、パソコンは持ち運びを可能にするため、ノート型を多く配置し、今後会議等でパソコンを持参し、パソコンを見ながら論議を進めていく態勢がやっと始まった。投資総額、約56,000千円、内補助金支援約26,530千円。

7. その他、介護保険指定更新等他について

苦情相談委員会を5月・11月に、特養・グループホーム・ケアハウス家族会を11月に開催した。人事法務業務として、指定申請の更新及び変更・加算変更・処遇改善加算申請とそれに伴う全部署重要事項説明書変更と利用者様への同意作業、介護サービス情報の公表管理、運営規程変更と更新などの手続きを行った。

さらに、魚崎高齢者介護支援センターから神戸市に対し、給湯装置及び小荷物昇降機更新修繕補助申請を行い、半額支援が認められた。令和8年度は、介護型ケアハウスを除く、特養・短期入所・通所介護・グループホーム・シルバーハウジング・あんしんすこやかセンター（地域包括）の建物外壁・屋上などの塗装及び防水大規模工事の補助申請を行う予定である。尚、大規模工事は特養を除く建物に対しては全額、神戸市負担となる。